

# Crusade and Revolution

The Spanish Civil War 1936-1939



# Playbook

# Compass Games

## New Directions in Gaming

日本語解説書

# CRUSADE and REVOLUTION

## The Spanish Civil War 1936-1939

©2013 Compass Games, LLC.

### 目 次

- 1 8. 0 選択ルール
- 1 9. 0 シナリオ・セットアップ
- 2 0. 0 戦闘の例
- 2 1. 0 初心者プレイヤーへのアドバイス
- 2 2. 0 スペイン内戦の概説
- 2 3. 0 カードの歴史的注釈
- 2 4. 0 拡張されたプレイの例

### 1 8. 0 選択ルール [OPTIONAL RULES]

最初に読んでください：選択ルールの使用には、注意を払ってください！プレイ・バランスは、何度もテストされたデリケートなものです。選択ルールは、特に高い影響力を持つものを多数使用すると、このバランスを大きく変えるかもしれません。初心者プレイヤーは、ゲームに馴染むまで選択ルールを使用しないことを強く勧めます。

下記の選択ルールは、プレイ・バランスのため、又はゲームに追加のシミュレーションや歴史フレーバーを加えるため、プレイヤー諸氏によって使用できます。

いくつかの選択ルールは、他のそれよりも大きなインパクトをプレイに持つため、各ルールには参考のため適切な数値を含みます。：低い影響力（1）、中位の影響力（2）、高い影響力（3）。

プレイヤー諸氏は、プレイを開始する前に同意する限り、望むだけ多くの選択ルールを使用できます。

#### 1 8. 1 親共和国軍ルール [Pro-Republican Rules]

##### 1 8. 1. 1 国家主義スペインの首都ブルゴス（1）[Burgos, Capital of Nationalist Spain]

もしも共和国軍プレイヤーがブルゴス [Burgos] を征服すると、追加の1共和国軍士気ポイントを獲得します（+1 RM）。この特典は、ゲーム毎に一度のみ得ることができますが、たとえ反乱軍プレイヤーがスペースの支配を奪回しても、永久的で失われません。

**注釈：**反乱軍首都の占領は、共和国軍陣営にとって大きな士気高揚と宣伝になったはずですが。

##### 1 8. 1. 2 モロッコ反乱の脅威（2）[The Threat of Moroccan Revolt]

反乱軍プレイヤーは、アフリカ駐屯軍からの最後の増援ユニットをモロッコに残しておかなければなりません（通常は、ターン3の5番目の反乱軍ラウンドに到着する増援です）。実際には、このユニットはゲームから永久に除去されたものと見なされます。

**注釈：**共和国政府は、モロッコの反乱軍支配下スペイン保護領の反乱を扇動しようと企てましたが、そのあさましい試みは完全に失敗しました。この選択ルールは、共和国の諜報員がモロッコで本当の反乱を蜂起させることを試みるときに脅威を想定します。

##### 1 8. 1. 3 ラ・グロリオサ（1）[La Gloriosa]

ポリカルポフ I-15 「チャト」 [Polikarpov] CC（カード R5）を CC として使用するときには、たとえ共和国軍が使用中に戦闘で敗北しても、ターンの終了まで捨てられません（8.5.3 を参照）。この特典は、いったんコンドル兵団 [Codor Legion]（カード N27）がイベントとしてプレイされるか、又はメッサーシュミット BF109 [Messerschmitt BF109] CC（カード N38）が CC としてプレイされると停止します。

**注釈：**共和国軍は、自空軍を「La Gloriosa」（栄光）と呼びました。1936 年秋に最初のソヴィエト軍航空機が到着してから、1937 年春にドイツ軍が自軍航空機の性能を向上させるまで、共和国軍が制空権を確保しました。

##### 1 8. 1. 4 マドリード：アフリカ戦隊の目標（1）[Madrid: Objective of the African Columns]

「マドリード：優先目標」[“Madrid: Priority Objective”] ルールについて—1 VP 罰則の資格を持つためには、少なくとも1つのアフリカ駐屯軍ユニットが反乱軍の攻撃に参加しなくてはなりません。もしも反乱軍プレイヤーがマドリードを占領していたら、結果は常に—0 VP になります。

**注釈：**1936 年 11 月の反乱軍のマドリード攻撃は、アフリカ駐屯軍からのエリート部隊に先導され、首都を征服する反乱軍の関心と決意を示しました。

##### 1 8. 1. 5 北部は待てる（1）[The North Can Wait]

「マドリード：優先目標」[“Madrid: Priority Objective”] マーカーが—3 VP スペース内にある限り（17.3 を参照）、1つのアフリカ駐屯軍ユニットのみ（合計で、アクション・ラウンド毎ではありません）が、ゲーム開始時に共和国軍の支配下だった北部戦線内のスペース内で移動を終了、SR、隣接できます。



**注釈：**戦争の最初の数ヶ月間、反乱軍の主要目標はマドリードだっただったので、副次的な戦線に最良の部隊を投入することを避けました。反乱軍エリート部隊の効果をより正確に反映させるため、18.1.4と18.1.5の両ルールと一緒に使用することを勧めます。

### 18.1.6 共和国軍のエリート・ユニット (3) [Republican Elite Units]

最初の軍団規模ユニットを配置した後に、共和国軍プレイヤーは5つのMIL師団規模ユニットを5つのRPA師団規模ユニットと置き換えることができます(14.2.3を参照)。通常のRPA師団規模ユニットの代わりに、共和国軍プレイヤーは5つのRPAエリート師団規模ユニットを置きます。



**注釈：**共和国の人民軍は、戦争の主要な闘いに参加した優秀な師団を持ちました。：例えば、第11、第35、第46、第70師団です。これらのユニットは、すでに共和国軍の軍団規模ユニットに反映されていますが、この選択ルールはこれらが史実よりも訓練と装備に優れていたと仮定します。

### 18.1.7 スペイン軍とイタリア軍の軋轢 (2) [Spanish-Italian friction]

もしもいずれかの非イタリア軍ユニットが、CTV軍団規模ユニットと同じスペース内にあると、戦闘のためにそのスペースを活性化させるコストは、1の代わりに2OPSです。それでも、移動のためにスペースを活性化させるコストは1のみです。

**注釈：**CTVが到着した瞬間から、指揮官たち(自主的に作戦を行い、直接指揮することを切望しました)と反乱軍司令官たち(指揮権の維持を望み、尊大なムッソリーニにブライドが傷つけられていました)の間で喧嘩が始まりました。

### 18.1.8 ヨーロッパの緊張 (2) [Tension in Europe]

軍の戦争段階の開始時(ターン12)から、反乱軍プレイヤーは「ミュンヘン協定」イベントがプレイされるまで、各ターンの補充フェイズに-1枢軸軍RPの罰則を被ります。

**注釈：**アンシュルス [Anschluss] (ナチスのオーストリア併合) とズデーテンラントの危機は、ヨーロッパに強い政治的緊張を引き起こしました。戦争の恐れにより、ドイツは反乱軍への軍事物資の供給を減じました。ミュンヘン協定は、重大な戦争の危険を払いのけました。

### 18.1.9 第XIVゲリラ軍軍団 (2) [XIV Guerrilla Army Corps]

軍の戦争段階の開始時(ターン12)に、共和国軍プレイヤーは第XIVゲリラ軍軍団カードを受取ります。共和国軍プレイヤーは、これをターン毎に一度使用できます(ターン12に開始して)。アクション・フェイズを開始する前に、以下の影響の1つを選択しなければなりません。：



・**ゲリラ [Guerrilla]：**補給下で共和国軍支配下のスペースに隣接する反乱軍スペース内に、マーカーを置きます。反乱軍プレイヤーがそのスペースを活性化させるためのコスト(移動又は攻撃のため)は、+1OPSだけ増加します。いったんスペースが活性化されたら、マーカーは取り去られます(つまり、罰則を被るのは一度のみで、

イベント後スペースは通常に活性化されます)。もしもスペースが活性化されなければ、マーカーはターンの終了時に撤去されます。

**注釈：**もしも孤立状態であると(16.4.3を参照)、マーカーは北部戦線内ではこの方法で使用できません。

・**情報 [Intelligence]：**共和国軍プレイヤーは1D6を振り、この表によって示された効果を適用します。：

1 **要人暗殺 [Selective assassination]：**反乱軍プレイヤーは、自身の手札から1枚を捨て札しなければなりません(反乱軍プレイヤーが選択)。

2～5 サイの目は、反乱軍プレイヤーが共和国軍プレイヤーに明らかにしなければならない手札(無作為に選択されます)の枚数です。これらのカードは、プレイされるかターンの終了まで、明らかにしておかなければなりません。

6 効果なし。

・**サボタージュ [Sabotage]：**反乱軍プレイヤーは、このターンに-1NAT RPの罰則を被ります(最低でゼロRPまで低下します)。

**重要：**共和国軍プレイヤーは、連続する2ターンに同じ効果を選択できません。

**注釈：**注意深いプレイヤー諸氏は、共和国軍のための第XIV軍団規模ユニットがないことに気づくでしょう。実際には、エウスカディ軍軍団が1937年8月に第XIV軍軍団に改名しました。その潰滅後、第XIV軍軍団は1937年末に再建されましたが、ゲリラ部隊としてでした。本物の軍軍団ではありませんでしたが、敵後背地でのゲリラやサボタージュ作戦に従事することが予定された小部隊で、戦争に与えた影響は極限られたものでした。この選択ルールは、これらが大きな影響力を持っていたものと仮定します。

### 18.1.10 史実の終戦時期 (1) [Historical Date of the End of the War]

ターン18(ゲームの最終ターン)は、3アクション・ラウンドのみがプレイされます。すなわち、共和国軍の3番目のアクション・ラウンド終了時にゲームは終わります。

もしもこの選択ルールが使用されると、反乱軍の「叛乱」[「Insurrection」] イベント(N48)はターン18に全くプレイできません。

**注釈：**スペイン内戦は1939年4月に終了したので、プレイの最終ターン(1939年3月～4月)は物理的に短くなります。

## 18.2 親反乱軍ルール [Pro-Nationalist Rules]

### 18.2.1 未熟練民兵 (1) [Inexperienced Militias]

共和国軍民兵の軍隊化(「ラルゴ・カバリエロ政府」[Largo Caballero's Government] イベントのプレイ又はターン5の終了時)まで、少なくとも1つのMIL師団規模ユニットを含んでいる攻撃は、-1DRMを被ります。

**注釈：**戦争最初の数ヶ月間、共和国軍民兵は未熟な故に戦闘で大きな犠牲を払い、ほぼ全ての攻勢計画が失敗しました。このルールは、すでにターン1に適用されており、二重に適用しないでください。

### 1 8. 2. 2 バンデラとタボレス (1) [Bandera and Tabores]

ゲーム毎に一度、反乱軍プレイヤーは、未だモロッコ内にある1つのアフリカ駐屯軍ユニットを、2つのバンデラス [Banderas] とタボレス [Tabores] 師団規模ユニットに置き換えることができます。これらは、全ての目的においてアフリカ駐屯軍からのユニットですが、各1ステップのみを持ちます。一致するアクション・ラウンドに、これらは2つ一緒にカディス [Cadiz] 又はセビリャ [Sevilla] に移され、同じ又は異なるスペースに配置できます。



**注釈:** 「バンデラ」[“bandera”] と「タボー」[“tabor”] の用語は、今日でも使用されており、レギオンや正規軍内で大隊規模ユニットを示します。

### 1 8. 2. 3 グラドの通廊 (2) [The Corridor of Grado]

オビエド [Oviedo] とプエルト・デ・レイタリエゴス [Puerto de Leitariegos] スペースは、グラドの通廊をあらわす青い点線で連結されています。この特別な連結は、オビエドが孤立スペースである限り、反乱軍プレイヤーによってのみ使用できます (16.2を参照)。

もしも反乱軍プレイヤーがいまだにオビエドを (孤立スペースとして) 支配していると、グラドの通廊連結を通して、自動的にこの特別な連結が両スペース間に確立されます。反乱軍プレイヤーが上記の両スペースを支配する限り、以下の特別ルールが適用されます。:

- ・ターン5の終了時にいまだ孤立スペースであれば、オビエドは孤立スペースが継続し、ターン5の後も OOS とは見なされません (16.2.6を参照)。
- ・反乱軍の師団規模ユニットは、通常の隣接連結としてグラド通廊を使用してオビエドを移動と SR で往来できます (孤立スペースであることの制限なし)。ただし、反乱軍の軍団規模ユニットは、グラド通廊を通して移動や SR ができません。
- ・オビエド内のユニットは、たとえグラド通廊が確立されていたとしても、オビエドが孤立スペースであると、戦闘のために活性化できません。
- ・オビエドが孤立状態であることの影響なしで、オビエド内で RP を自由に消費できます (すなわち、制限や高いコストはありません)。

**重要:** このルールは、オビエドがもはや孤立スペースでなくなると直ちに適用を中止します。共和国軍プレイヤーは、たとえいまだに孤立スペースであっても、ターン5の後にオビエドを征服することで -1 VP を獲得しません。もしも最初の軍団規模ユニットの配置中にオビエドがいまだに孤立スペースであると (15.2を参照)、この初期配置中にオビエドに置くことができる反乱軍の軍団規模ユニットはありません。

**注釈:** 1936年10月、3か月間の孤立後に、反乱軍は複数回の攻撃を食い止めた狭い通廊を通して、オビエドの守備隊と何とか会うく接触しました。

### 1 8. 2. 4 捕獲戦車 (1) [Captured Tanks]

もしも共和国軍の「ロシア製戦車」(カード R12) と反乱軍の「装甲増援」(カード N24) の両イベントがプレイされたら、反乱軍は自軍装甲ユニット (CV-33 又は PZ-I) の1つを、反乱軍の T-26 師団規模ユニットに置き換えることができます。もしも最初に反乱軍の「装甲増援」イベント (カード N24) がプレイされると、この代替は「ロシア製戦車」イベントがプレイされるときに、マップ上、



予備ボックス内、除去ボックス内のいずれかの CV-33 又は PZ-I について直ちに発生します。さもなければ、この代替は、反乱軍プレイヤーが「装甲増援」イベントをプレイするときに、2つの装甲ユニットを配置する前に発生し、「装甲増援」カードを介して獲得された2つの装甲ユニットの1つを置き換えなければなりません。

**例:** 反乱軍プレイヤーが自軍の「装甲増援」イベントをプレイするときに、共和国軍の「ロシア製戦車」イベントはすでにプレイされています。反乱軍プレイヤーは、PZ-I ユニットの捕獲 T-26 ユニットの置き換えることを選択してマップに置き、CV-33 ユニットの (カードが要求するごとく) 予備ボックス内に置きます。

**注釈:** 戦争を通じて、反乱軍陣営は、ほぼ 50 両の共和国軍 T-26 戦車を捕獲し、それらは元の持ち主に対して使用されました。

### 1 8. 2. 5 ビルバオ:工業都市 (3) [Bilbao:Industrial City]

ビルバオ [Bilbao] は、領土の支配と補充について、通常の主要都市と見なされます (14.2を参照)。つまり、ビルバオが失われる瞬間 (のみ) に、共和国軍プレイヤーはルール 14.2.5 の目的における1つの主要都市の支配を失ったと見なされます。反乱軍プレイヤーは、この罰則を適用するためにサンタンデル [Santander] とヒホン [Gijón] の支配も必要としません。

**注釈:** ビルバオとその周辺は、北部戦線で最大の主工業地帯であり、人口が集中したエリアでもありました。

### 1 8. 2. 6 北部戦線内の限定補給源 (2) [Limited Resources in the Northern Front]

北部戦線が孤立状態である限り (16.4.3を参照)、共和国軍の地方ユニット (アストゥリア、サンタンデル、バスクの合計で) は、北部戦線内の共和国軍プレイヤー支配下の各補給源について、最大で2REPのみのRPを受け取ることができます。すなわち、もしも共和国軍プレイヤーが北部戦線の全3つの共和国軍補給源 (ヒホン [Gijón]、サンタンデル [Santander]、ビルバオ [Bilbao]) を支配していると、補充フェイズ中に地方ユニットに6REP RPまで消費できます。もしも2つのみを支配していると、4REP RPまで、1つのみであると2REP RPまでです。

加えて、共和国軍プレイヤーは、もしも少なくとも北部戦線内の1つの共和国軍補給源がフランスと連結していなければ、地方ユニットにSOV RPを消費できません。

北部戦線内に存在する POL ユニットの、やはりこの選択ルールによる影響を受けます。

**注釈:** 孤立した北部戦線の人的物的資源は、限られていました。フランス国境から分割された後、状況はさらに悪化しました。これに加えて、戦争開始時から反乱軍は大西洋の港湾封鎖を確立し、外部からの支援を制限しました。

### 1 8. 2. 7 封鎖艦隊 (2) [Blockade Fleet]

反乱軍の「軍の戦争段階」カード「封鎖艦隊」(カード N49) が反乱軍の動員段階デッキに加えられ、ターン5の終了時に引きパイルに登場します (15.1.2を参照)。ただし、他の前提要件に加えて、共和国軍プレイヤーが支配する大西洋港湾スペースが最大1つでない限り、このイベントはプレイできません。

**注釈:** 共和国軍港湾の封鎖にあたっていた反乱軍艦隊は、北部戦線の陥落後直ちに大西洋から地中海に移されました。この選択ルール

は、軍の戦争段階まで待つことなく、反乱軍プレイヤーに地中海港湾の封鎖を認めますが、カードに別の前提要件を加えます。共和国軍の手中にある港湾が1つであれば容易に封鎖できたので、艦隊主力の移動が認められました。

### 18.2.8 決定的な北部戦線 (3) [The Decisive Northern Front]

北部戦線の終了後 (16.3.3 を参照)、反乱軍プレイヤーは各ターン終了時に +1 NAT RP を受け取ります。この追加 RP は、たとえ反乱軍プレイヤーがそのターンに RP のためにカードをプレイしていなくても受け取られます。

**注釈：**北部戦線の陥落は、スペイン内戦において決定的な出来事でした。共和国軍陣営は、軍事部隊のほぼ4分の1と、多くの工業製品や人的資源を生み出す決定的な領域も失いました。いったん入手すると、反乱軍はそれらを自軍の戦争努力にうまく活用しました。

### 18.2.9 退却を無効にする大きなコスト (2) [Greater Cost to Cancel Retreats]

もしも戦場で防御側が3以上の差で敗北すると、退却を無効にするためのコスト (もしも可能であれば、11.4.3 を参照) は、二倍になります。すなわち、退却を無効にするために、防御側は追加の2ステップを損失しなければなりません。

**重要：**これは、たとえ親反乱軍の選択ルールであっても、両陣営に適用されます。

**注釈：**レバンテ戦役やエブロ川の戦いで起きたごとく、領土を保持するために部隊が要求される犠牲は、敵の攻勢がより成功したときに大きくなります。

### 18.2.10 陣地と塹壕の捕獲 (3) [Capture of Positions and Trenches]

敵によって除去された (スペースを通過又は戦闘後前進によって) 通常の陣地と塹壕マーカー (すなわち、カード番号が標記されていない) は、除去ユニット・ボックスへ移されます。これらを再使用するためには、RP を消費して再建する必要があります。各マーカーのコストは1/2RP で、いかなるタイプ (AXIS、NAT、SOV) も使用できます。

プレイヤーによって任意に除去された通常の陣地と塹壕マーカーは、除去ユニット・ボックスへ行かず、コストなしで再使用できます。

**注釈：**陣地塹壕線には、機関銃、迫撃砲、砲兵等、防御のための戦争資材を含みます。この資材は、もしも陣地塹壕線が捕獲されたら失われ、追加のコストを費やして補充されます。共和国軍は反乱軍よりも多くの陣地／塹壕マーカーを失うことが予測されるため、戦闘ユニットの再建から貴重な RP を奪うこのルールは、親反乱軍ルールと見なされます。

### 18.2.11 史実のP計画 (1) [Historical Plan P]

もしも共和国軍プレイヤーが「P計画」イベント (カード R50) のプレイを試みると、D6 を振らなければなりません。修正後の1～3の結果で、上陸は発生せずにあたかもカードを OPS として扱わなければなりません (それでも、カードはイベントが行われたごとく永久に捨てられます)。サイの目には、以下の修正が適用されます。

- ・反乱軍プレイヤーが「海峡封鎖の終了」イベントをプレイしていない。：+1。
- ・反乱軍プレイヤーが「封鎖艦隊」イベントをプレイしていない。：+1。
- ・共和国軍プレイヤーが「巡洋艦バレアレスの沈没」イベントをプレイしていない。：-1。
- ・共和国軍の士気が10以下：-1。

**注釈：**P計画の一環としてロホ将軍によって計画された、1939年1月の1個旅団によるモトリル [Motril] 上陸は、決して実行に移されませんでした。部隊は乗船しましたが、最後の瞬間に共和国海軍司令部からの反対によって計画は頓挫しました。

### 18.2.12 反乱軍の上陸 (2) [Nationalist Disembark]

反乱軍プレイヤーは、軍の戦争段階に一度上陸を実行できます。ターン12から、OPS としてカードをプレイするいずれかのアクション・ラウンドに、上陸を実行するために1OPSを消費できます (残っている OPS を後に使用できますが、橋頭堡スペースは活性化できません)。

上陸については、共和国軍の「P計画」イベントと同じルールに従い (8.5.6 を参照)、「共和国軍」を「反乱軍」に変換して逆もまた同様です。以下は相違点です。

- ・上陸を実行するために、反乱軍プレイヤーは「封鎖艦隊」イベントをプレイしていなければなりません。
- ・反乱軍の橋頭堡マーカーが使用されます。
- ・橋頭堡マーカーは、沿岸の隣に配置できます。
- ・ジブラルタル海峡の支配への言及については、反乱軍の支配下にあるので無視します。
- ・反乱軍プレイヤーは、自軍の予備ボックスから INF 又は NAV 師団規模ユニット (完全又は減少戦力) を橋頭堡スペースへ配置します。

**重要：**どちらのプレイヤーも、自軍橋頭堡マーカーをすでに他方のプレイヤーの橋頭堡マーカーが隣接している沿岸スペースの隣に配置できません。

**注釈：**戦争終了の間に、反乱軍はカタルーニャの陥落を速めるために侵攻上陸の可能性を研究しましたが、結局は採択されませんでした。この選択ルールは、それが現実に実行されたと仮定します。

### 18.2.13 迅速終了 (1) [A Quick End]

もしも RM がゼロ (0) 未満になったら、ゲームは直ちに終了して反乱軍の勝利です。

**注釈：**RM レベルがゼロ未満になることは稀で、それと同時に VP レベルが反乱軍勝利のために必要なレベルに達していないことは更に稀です。ただし、この選択ルールは、RM=0 が反乱軍の勝利を保証することにより、RM を減少させることが VP を増加させることで重要度を同等にします。

### 18.2.14 より現実的なフランス国境の開放 (1) [More Realistic Opening of the French Border]

もしも共和国軍プレイヤーが「フランス国境の開放」イベント (カード R42) をプレイしたら、5SOV RP の最低4を予備ボックス内又はフランスに連結するスペース内で消費しなければなりません (これには、これらのスペースで再建される軍団規模ユニットを含みます)。



**注釈：**1938 年春にフランスがその国境を一時的に開放したとき、カタルーニャはすでに共和国軍領土の残りに分離しており、他の戦線へ軍事物資を送ることは非常に困難でした。

## 18.2.15より困難な共和国軍の自動的勝利 (2) [More Difficult Republican Automatic Victory]

**オプション1：**共和国軍プレイヤーが自動的勝利を達成するために必要な共和国軍の士気 (RM) レベルを、各ターンに+1ずつ増加させます。

**例：**ターン7の終了時、共和国軍プレイヤーはもしも RM レベルが 28 以上であると自動的勝利を獲得します (チャート上に列記された 27 以上の代わりに)。

**オプション2 (Ion Calafel と Pablo Alvarez の優遇)：**共和国軍プレイヤーは、2 ターン連続して士気 (RM) 要件を満たすことによってのみ、自動的勝利を獲得できます。

**例：**ターン7の終了時、RM レベルは 27 です (すなわち、共和国軍自動的勝利のための「27+」の範囲内です)。ただし、ゲームは継続し、もしもターン8の終了時に RM レベルが 26 以上である場合にのみ自動的勝利の資格を持ちます (すなわち、自動的勝利の範囲は連続する二番目のターンです)。

**注釈：**自動的勝利は、プレイヤーが当時の自軍陣営の歴史的状況を著しく凌駕していることを意味します。両プレイヤーに要求されるレベルは、理論的にはバランスが取れていますが、実際には共和国軍プレイヤーが達成することは、特に動員段階 (ターン6から11) 中は、少しありそうです。これには、2つの理由があります。:

1. 反乱軍プレイヤーは、共和国軍自動的勝利のリスクを回避するため、継続的かつ迅速に RM を減少させることを強要されます。
2. 共和国軍プレイヤーは、たとえ短期間の生命しか望めない作戦であっても、自動的勝利を獲得するために限定された努力で RM を増加させるいくつかの選択技を持ちます (例えば、敵が後に容易に奪回するスペースの占領)。

ゲームのディヴェロップメント中、自動的勝利のレベルは注意深く考慮してテストしました。最終的には、もしも共和国軍プレイヤーが攻撃的にプレイすれば勝利し易い選択技であり、ゲームで主導権を維持する反乱軍プレイヤーに常時進撃の維持を余儀なくさせるため、チャート上に列記されたレベルに決めました。この選択ルールは最初の数ゲームで、特に反乱軍プレイヤーがこのゲームの経験に乏しければ適用することを推奨します。

## 18.3 中立ルール [Neutral Rules]

### 18.3.1 撤退 [Withdrawal]

**注釈：**元来、Crusade and Revolution/Paths of Glory タイプのゲーム・システムは、プレイヤーが前線に穴を穿つために一連の機動を行い、突破して可能な限り多くの敵ユニットを非補給下にさせる (永久除去を強いる)「死の舞踏」と呼ばれる状況でした。

しばしばゲームの早期崩壊を引き起こすこの状況は、完全にプレイヤーの判断と行動に依存して、必ずしも発生する必要はありません。

この「死の舞踏」は、史実に反し、不満にさせるもので (特に初心者プレイヤーについて)、この選択ルールはルールを複雑化してゲ

ーム・システムに影響させることなく、これを低減させるものです。この選択ルールは、この「死の舞踏」の可能性を嫌悪するプレイヤー諸氏にお勧めで、初心者プレイヤーにとってもそのように見なされ得るでしょう。

戦闘を解決する前に、防御しているプレイヤーは、以下の条件を満たしていると、防御ユニットの撤退を宣言できます。:

- ・少なくとも、1つの軍団規模ユニットに攻撃されていなければなりません。防御部隊は、1つ以上の師団規模ユニットのみでなければなりません。
- ・もしも防御ユニットが1つのみであると、完全戦力の師団規模ユニットでなければなりません。

いったん撤退が宣言されたら、戦闘は通常に解決され、結果と退却に以下の損失への修正を伴います。:

- ・損失: 各プレイヤーは、戦闘損失を通常に適用します。  
もしも防御ユニットが全て除去されたら、防御プレイヤーは代わりに、それらのユニットの1つを生き残させることを選択しなければなりません。ここで、ユニットは減少戦力で防御スペース内に留まります。  
**重要:** 選択されるユニットは、防御スペース内に存在する唯一のユニットでない限り、アフリカ駐屯軍や装甲ユニットであってはなりません。
- ・結果: 両プレイヤーによって獲得された結果にかかわらず、攻撃プレイヤーが戦闘の勝者と見なされます。
- ・退却: 生き残っている防御ユニットは、常に1スペース (のみ) 退却しなければならず、その退却を敵ユニットに隣接して終了できません。もしも合法的なスペースへ退却できなければ、代わりに除去されます (明らかに、退却のための合法的スペースがなければ、プレイヤーは「撤退」ルールを適用すべきではありません)。たとえ攻撃している全ユニットが除去されても、攻撃プレイヤーは戦闘の勝者と見なされ、生き残っている防御ユニットは退却しなければなりません。

### 18.3.2 自由で秘密の捨て札 [Free and Secret Discard]

戦略カード引きフェイズのA.2セグメントに、両プレイヤーは望むいかなるカードも捨て札できます (CCのみではありません)。これらのカードは、捨て札パイル内に表面を伏せて置かれ (又は捨て札パイルの最底部に)、相手側はそれらが何であるかわかりません。

**注釈：**この選択ルールを通じて、捨て札はより柔軟になり、戦場の霧が増加します。もしも捨て札が表面を伏せて行われたら、これらのカードは捨て札パイルをシャッフルする前に返されます。

### 18.3.3 手札枚数の増加 [Increased Hand Size]

各プレイヤーの手札枚数は、7枚から8枚へと増加します (6.0.A3を参照)。もしも共和国軍の士気レベルが反乱軍手札の増加又は共和国軍手札の減少を要求する場合を除き、他の全てのルールに従います。プレイヤー諸氏は、ルールブックで指定されたよりも1枚余分にカードを受取ることになります (それぞれ9枚と7枚)。

**注釈：**この選択ルールを通じて、プレイヤー諸氏は自軍カード・デッキの大きな支配を獲得します。

### 1 8. 3. 4 装甲使用についての新たなドクトリン [New Doctrines for the Use of Armor]

動員段階の開始時（ターン6）に、**移動**のために活性化された両プレイヤーに装甲ユニット（CV-33、PZ-I、T-26）は、**戦闘**のために活性化されたスペース内でその移動を終了できます（スタッキング限度は適用されます）。これらは、戦闘のために活性化したものと見なされ、同じアクション・ラウンドに攻撃できます。

**注釈：**スペイン内戦は、装甲戦術の使用にそれほど革新的ではありませんでした。この選択ルールは、両陣営の軍事顧問が、その後の第二次世界大戦でまもなく応用されることになる新たなドクトリンを採用したと仮定した状況を反映します。

### 1 8. 3. 5 情報機関の進化 [Development of the Intelligence Services]

この選択ルールは、S.I.P.M.（反乱軍）と S.I.M.（共和国軍）のカード（それぞれ、カード N32 と R27）に影響します。もしも動員段階にこれらのイベントがプレイされたら、他方のプレイヤーの手札の**半数**（端数切上げ）を無作為に選択して調べることを認めます。これらのカードを、所有しているプレイヤーの前に表面を向けて並べます。プレイヤーが調べるために特定カードをイベントとしてプレイした場合、各アクション・ラウンドに変更はありません。プレイヤーは、カードを通常 OPS として実施できます。自軍アクション・ラウンド終了時、プレイヤーはゲームからカードを取り去るか（アスタリスクを持つイベントをプレイしているときと同様に）、**軍の戦争段階カード・デッキに加えます**（従って、カードは後に再びゲームに登場することになります）。

もしもこれらのイベントが軍の戦争フェイズに、そのイベントとしてプレイされると、その効果はカード上に記載された影響を提供し、通常通りゲームから取り去られます。

**注釈：**この選択ルールは、両陣営の情報機関の著しい進歩をシミュレートします。プレイヤー諸氏は、ゲーム内で低い OPS のコストを維持しつつ、スパイ機関を2度使用する選択肢を持ちます。

### 1 8. 3. 6 占領された補給源 [Captured Supply Sources]

両プレイヤーは、占領した敵の補給源をあたかも自軍のものだったごとく使用できます。つまり、友軍支配下の敵補給源を、補給線をたどるため、増援ユニットを配置するため、RP でユニットを再建するために使用できます。

**注釈：**戦争中に反乱軍陣営によって占領された兵站センターは、後に自軍のために使用されました（共和国軍陣営は、いかなるそれも占領できませんでした）。そのため、たとえこれが両陣営に適用するものであっても、通常反乱軍プレイヤーが共和国軍よりも多くの補給源を占領することになるため、この選択ルールは親反乱軍です。

### 1 8. 3. 7 マヨルカ島への更なる上陸 [More Disembarks in Mallorca]

この選択ルールは、共和国軍の「P 計画」イベント（カード R50）と選択ルール「反乱軍の上陸」（PB18.2.11）に影響します。両方の場合において、もしもマヨルカ [Mallorca] が敵支配下にあると上陸することができます。

もしも選択ルール「反乱軍の上陸」（PB18.2.12 を参照）が使用されなければ、この選択ルールは親共和国軍と見なされます。

**注釈：**マヨルカは、地中海の戦略要所で、もしも侵攻が行われてい

たら、両陣営にとって興味深い目標となったでしょう。

### 1 8. 3. 8 橋頭堡の除去 [Elimination of Beach Heads]

もしも反乱軍プレイヤーが共和国軍の橋頭堡を除去したら、共和国軍の士気は1ポイントだけ減少します（-1 RM）。もしも共和国軍プレイヤーが反乱軍の橋頭堡を除去したら、共和国軍の士気は1ポイントだけ増加します（+1 RM）。

もしも共和国軍の橋頭堡が共和国軍部隊の撤収の結果として除去されたら（8.5.4.4 を参照）、RM は影響を受けません。もしも選択ルール「反乱軍の上陸」（PB18.1.12 を参照）が使用されなければ、この選択ルールは親反乱軍と見なされます。

**注釈：**敵橋頭堡の除去は、士気を高揚させる（又は敵の士気を喪失させる）ことになったでしょう。

### 1 8. 3. 9 無作為セット・アップ [Random Set-up]

ターン1から開始するシナリオにおいて、共和国軍の北部線を除く各領域内で、以下に列記されたセット・アップ内で（例えば、**アラゴン [Aragon]** 等）、列記された全ユニットを取り上げ、代わりに列記されたユニット毎にその地方の合計から1つのユニットを無作為に引き、各ユニットをスペース内に置きます。減少戦力ユニットのために引くときには、減少戦力で置かれます。この唯一の例外は、MIL-NAV ユニットと AFR ユニットです（例えば、後者は他の2つの無作為に決定されたユニットと共に、常にセビリャ [Sevilla] で開始します）。

**例：**キャンペーンの南部戦線についてのセット・アップで、反乱軍プレイヤーは1CAV、2POL、2MIL、4INFを取り上げます。これらの9ユニットから、無作為に1つをウェルバ [Huelva] へ、2つを AFR ユニットと共にセビリャ [Sevilla] へ、2つをグラナダ [Granada] へ（1つは減少戦力）等です。

**注釈：**様々な民兵、警察、「人民軍」部隊の正確な位置は、戦争勃発時において予め決まっていたものではありません。このルールは、1936 年8月に部隊の移動や特性が全く違っていた可能性があることを反映します。この選択ルールは中立として列記されますが、反乱軍の配置が共和国軍のそれよりも変更に対してより敏感となるため、結果的に親共和国軍セット・アップになるかもしれません。

### 1 8. 3. 10 偶然要素の制限 [Limiting the Luck Factor]

戦闘を解決しているとき、各プレイヤーは3回（又は3つ）サイを振ります。最高と最低のサイの目は排除され、残っている結果を保持します。もしも複数の目が最高又は最低であると、これらの1つのみが排除されます。

このルールは、戦闘にのみ適用します。その他のサイ振りは、単一のサイを用います。

**例：**攻撃側は3つのサイを振り、以下の結果を獲得しています。：1、5、6です。彼は最低（1）と最高（6）の結果を排除し、残っている5の結果を保持します。：防御側は2、2、4を振ります。二つの2の一つと4を排除し、他の2を保持します。

**注釈：**この選択ルールは、極端な結果を獲得する可能性を減少させ、連続的な偶然の要素を制限します。これは中立的なルールと見なされるにもかかわらず、普通、相手側に対して消耗戦術を使用する反乱軍に有利であるため、長期的には親反乱軍かも知れません。



## 18.4 選択ユニット [OPTIONAL UNITS]

### 18.4.1 装甲軍団 [Armored Corps]

各陣営に1つ、2つの選択装甲軍団があります。プレイヤー諸氏は、これらユニットの使用について合意しなければならず、もしもそうするのであれば、3つの可能性があります。

1. 両装甲軍団を使用する。もしも下記で説明した要件に従えば、各プレイヤーは自軍ユニットをゲームに導入できます。
2. 装甲軍団の1つ（反乱軍又は共和国軍）を使用する。明らかに、これはそのプレイヤーに優位性を与えることを意味します。
3. 装甲軍団の使用は、以前の他方のプレイが条件です。つまり、プレイヤー（共和国軍又は反乱軍）が選択され、彼がゲームに自軍装甲軍団を自由に導入できるようになります（要件を満たす限り）。他方のプレイヤーは、最初のプレイヤーがそれを行った後のみ、自軍装甲軍団をゲームに導入できます。これは、最初のプレイヤーに僅かに優位性を与えます。

#### 18.4.1.1 共和国軍装甲軍団 (RAC) [Republican Armored Corps]

ゲームに RAC を導入するため、共和国軍プレイヤーは「戦車増援」イベント (R26 カード) をプレイしなければなりません。次に、共和国軍プレイヤーは、ゲームから3つの T-26 ユニットの取り去らなければなりません（これらは、マップ上、予備ボックス内、除去ユニット・ボックス内からよく、又はゲームから永久に取り去られていても構いません）。1つの T-26 ユニットののみがゲーム内に留まり、予備ボックス内に配置します。共和国軍装甲軍団 (RAC) は、以前に少なくとも1つの T-26 ユニットのによって占められたスペース内、地中海の港湾内、マドリード [Madrid] 内に配置されます。このスペースは、友軍支配下で補給下でなければなりません。



RAC の特性 [Characteristics of RAC] :

- ・ソヴィエト軍 RP ののみを受けることができます。
  - ・もしも除去されたら、T-26 装甲ユニット又は共和国軍師団規模 RPA 又は非地方 MIL ユニットのによって置き換えることができます。もしも予備ボックス内に T-26 ユニットのがあると、撃破された RAC を置き換えるためにその他のユニットよりも優先します（たとえそれが減少戦力であっても）。
  - ・もしも RP で再建したら、地中海の港湾内、マドリード内に配置されます。このスペースは、友軍支配下で補給下でなければなりません。
  - ・もしも山岳又は主要都市を持たないスペースを、河川を越えずに攻撃すると、+1 DRM を加えることができます。
- 注釈：**T-26 ユニットのと異なり、RAC は陣地又は塹壕を持つスペースに対してその DRM を使用できます。そのうえ、RAC は完全戦力と減少戦力の両方でその DRM を使用できます。
- ・もしもその DRM を使用すると、RAC は可能であれば最初の損失を被らなければなりません（11.3.6～11.3.7 を参照）。
  - ・装甲 (T-26 と RAC) についての DRM ボーナスは、攻撃にどれだけ多数の装甲ユニットが参加していても、決して+1 よりも高くなれません。
  - ・装甲ユニットに影響する CC (モロトフ・カクテル、T-26...) は、RAC にも影響します。もしも反乱軍の「モロトフ・カクテル」CC が防御で使用されたら、攻撃されている地形にかかわらず RAC の DRM は無効になります。

**注釈：**史実では、共和国軍陣営には軍団規模ユニットを編成するために十分な装甲車両はありませんでした。この選択ユニットは、非現実的な状況、つまり発生しなかったが発生できたかも知れないこ

とを反映させます。ソヴィエト連邦は、トハチェフスキー元帥（彼がスターリンによって1937年5月に粛清されていないと仮定して）の規範を実践するため、大規模な装甲部隊の編成に十分な戦車を送ることができました。

#### 18.4.1.2 反乱軍装甲軍団 (NARC) [Nationalist Armored Corps]

NARC をゲームに導入するため、反乱軍プレイヤーは「装甲増援」(N24 カード) をプレイしなければなりません。次に、反乱軍プレイヤーはゲームから3つの装甲ユニット (CV-33 と PZ-I) を取り去らなければなりません（これらは、マップ上、予備ボックス内、除去ユニット・ボックス内からよく、又はゲームから永久に取り去られていても構いません）。1つの装甲ユニット (CV33 又は PZ-I) ののみがゲーム内に留まり、予備ボックス内に配置します。



**注釈：**もしも「捕獲戦車」選択ルール (18.2.4) が適用されると、反乱軍の T-26 がゲームに留まるユニットで、予備ボックス内に置かれます。

反乱軍装甲軍団 (NARC) は、以前に少なくとも1つの友軍装甲ユニットによって占められたスペース内、友軍補給源内、港湾内に配置されます。このスペースは、友軍支配下で補給下でなければなりません。

NARC の特性 [Characteristics of NARC] :

- ・枢軸軍 RP ののみを受けることができます。
  - ・もしも除去されたら、CV-33 又は PZ-I 装甲ユニット（又はもしも選択ルール 18.2.4 が適用されると反乱軍の T-26）、または反乱軍師団規模 INF 又は MIL ユニットのによって置き換えることができます。もしも予備ボックス内に装甲ユニットがあると、撃破された NARC を置き換えるためにその他のユニットよりも優先します（たとえそれが減少戦力であっても）。
  - ・もしも RP で再建したら、いずれかの友軍補給源内、マドリード内、港湾内に配置されます。このスペースは、友軍支配下で補給下でなければなりません。
  - ・もしも山岳又は主要都市を持たないスペースを、河川を越えずに攻撃すると、+1 DRM を加えることができます。
- 注釈：**CV-33 や PZ-I（と反乱軍の T-26）ユニットと異なり、NARC は陣地又は塹壕を持つスペースに対してその DRM を使用できます。そのうえ、NARC は完全戦力と減少戦力の両方でその DRM を使用できます。
- ・もしもその DRM を使用すると、NARC は可能であれば最初の損失を被らなければなりません（11.3.6～11.3.7 を参照）。
  - ・装甲 (CV-33、PZ-I、NARC、反乱軍の T-26) についての DRM ボーナスは、攻撃にどれだけ多数の装甲ユニットが参加していても、決して+1 よりも高くなれません。

**注釈：**史実では、反乱軍陣営には軍団規模ユニットを編成するために十分な装甲車両はありませんでした。そのうえ、イタリアとドイツから送られた戦車は軽戦車であり、相手側のソヴィエト軍戦車に劣ることは明らかでした。この選択ユニットは、非現実的な状況、つまり発生しなかったが発生できたかも知れないことを反映させます。イタリアとドイツは、グデーリアン将軍の規範を実践するため、大規模な装甲部隊の編成に十分な戦車を送ることができました。

#### 18.4.2 海外派遣軍団 [Expeditionary Corps]

各陣営に1つ、2つの海外派遣軍団選択ユニットがあります。プレイヤー諸氏は、これらユニットの使用について合意しなければならず、もしもそうするのであれば、3つの可能性があります。



1. 両海外派遣軍団を使用する。もしも下記で説明した要件に従えば、各プレイヤーは自軍ユニットをゲームに導入できます。
2. 海外派遣軍団の1つ（共和国軍についてはソヴィエト軍、反乱軍についてはドイツ軍）を使用する。明らかに、これはそのプレイヤーに優位性を与えることを意味します。
3. 海外派遣軍団の使用は、以前の他方のプレイが条件です。つまり、プレイヤー（共和国軍又は反乱軍）が選択され、彼がゲームに自軍海外派遣軍団を自由に導入できるようになります（要件を満たす限り）。他方のプレイヤーは、最初のプレイヤーが行った後にのみ、自軍海外派遣軍団をゲームに導入できます。これは、最初のプレイヤーに僅かに優位性を与えます。

#### 18.4.2.1 ソヴィエト海外派遣軍団 (SEC) [Soviet Expeditionary Corps]

この選択ユニットは、選択カードに付随します。もしもプレイヤー諸氏がその使用に合意したら、共和国軍プレイヤーは動員段階の開始時に、自軍引きデッキへ一致するカード (R56) を加えなければなりません (15.1.2 を参照)。



SEC の特性 [Characteristics of SEC] :

- ・カード・テキストに説明されているごとく、ゲーム内への SEC の導入は+1 P 罰則を引き起こします。
- ・ソヴィエト軍 RPs のみを受け取ることができます。
- ・もしも除去されたら、共和国軍 RPA 又は非地方 MIL 師団規模ユニットによって置き換えることができます。
- ・もしも RPs で再建したら、いずれかの友軍補給源内、マドリード内、地中海の港湾内に配置されます。このスペースは、友軍支配下で補給下でなければなりません。
- ・ソヴィエト軍の優越性 [Soviet tenacity]: SEC は、防御で+1 DRM を加えることができます (攻撃は不可)。

**注釈:** 史実では、ソヴィエト連邦は共和国軍陣営への主要な戦争資源供給者でした。軍事顧問並びにソヴィエト製航空機と戦車を操作する兵員も送りました。それにもかかわらず、スターリンは地上部隊をスペインへ送ることは考えませんでした。この選択ユニットは、非現実的な状況、つまり発生しなかったが発生できたかも知れないことを反映させます。イタリアが CTV で行ったのと同様に、ソヴィエト連邦は共和国軍陣営を助けるために派遣部隊：2個の優良装備歩兵師団から編成された小軍団を送ることができたはずでした。たとえこれらがエリート部隊でなかったとしても、後の WWII 中に証明したソヴィエト軍の防御優越性を示すことができたでしょう。30年代の混沌の中で、陸上部隊を送って欧州を刺激することは、スターリンと共和国軍陣営の両者にとって政治的な負担になったことでしょう。

#### 18.4.2.2 ドイツ海外派遣軍団 (GEC) [German Expeditionary Corps]

この選択ユニットは、選択カードに付随します。もしもプレイヤー諸氏がその使用に合意したら、反乱軍プレイヤーは動員段階の開始時に、自軍引きデッキへ一致するカード (N56) を加えなければなりません (15.1.2 を参照)。



GEC の特性 [Characteristics of GEC] :

- ・カード・テキストに説明されているごとく、ゲーム内への GEC の導入は-1 P 罰則を引き起こします。
- ・枢軸軍 RPs のみを受け取ることができます。
- ・もしも除去されたら、反乱軍 INF 又は MIL 師団規模ユニットによって置き換えることができます。
- ・もしも RPs で再建したら、いずれかの友軍補給源内、マドリード

内、港湾内に配置されます。このスペースは、友軍支配下で補給下でなければなりません。

- ・山岳部隊 [Mountain troops] : GEC は、山岳スペースに対する攻撃に参加するか、又は山岳スペース内で防御すると+1 DRM を加えることができます。

**注釈:** 史実では、ドイツはフランコにふんだんな軍事的援助を送りました。加えて、1936年の終わりに、戦争中に顕著な影響力を持つことになるコンドル兵団航空部隊を編成しました。戦車の操作をするドイツ軍兵士はいましたが、ヒトラーはスペインへ歩兵は送りませんでした。この選択ユニットは、非現実的な状況、つまり発生しなかったが発生できたかも知れないことを反映させます。イタリアが CTV で行ったのと同様に、ドイツは反乱軍陣営を助けるために派遣部隊：2個の優良装備歩兵師団から編成された小軍団を送ることができたはずでした。それらはスペインの起伏が多い地理に適した山岳部隊 (エリート部隊と見なされます) であった可能性が高いでしょう。30年代の混沌の中で、陸上部隊を送って欧州を刺激することは、ヒトラーと反乱軍陣営の両者にとって政治的な負担になったことでしょう。

#### 18.5 選択戦闘カード [OPTIONAL COMBAT CARDS]

8枚の選択戦闘カード (CC) があります。：4枚が反乱軍で、4枚が共和国軍のためのものです。もしもプレイヤー諸氏が合意すれば、これらのカードを何枚かの通常の CCs と置き換えるか、又は直接デッキに加えることができます。

選択 CCs カードの使用については3つの可能性があり、プレイヤー諸氏は好む一つを選択できます。：

##### 1. 無作為選択 [Random election] :

戦隊の戦争段階の開始前に、各プレイヤーは自軍デッキから下記で指定された CC を取り出します。

- ・反乱軍プレイヤー：「背信」(N14)
- ・共和国軍プレイヤー：「作戦命令書の捕獲」(R7)

このカードは、その段階にその陣営で使用可能な2枚の選択カードと共にシャッフルし、無作為に1枚を選択します (つまり、最初に選り分けた CC が選択され得ます)。そのカードは引きデッキに加えられ、それが通常に引かれるまで、どちらのプレイヤーもどちらのカードか調べることはできません。残っている2枚のカードは、破棄されて調べることはできません。

動員段階の開始前に、同じ行為が行われます。取り出さなければならない CCs は、以下のとおりです。：

- ・反乱軍プレイヤー：「捕獲された橋梁」(N25)
- ・共和国軍プレイヤー：「グアダラハラはアビシニアではない」(R28)

軍の戦争段階についての選択 CCs はありません。

##### 2. 直接選択 [Direct election] :

プレイヤー諸氏は、前の項目で説明したこと (無作為選択) を行いますが、各プレイヤーは自軍引きデッキに加える CC を自由に選択します。他方のプレイヤーは、選択されたカードを調べることはできません。

##### 3. 自由 [Free] :

プレイヤー諸氏は、望むように選択 CC の使用を合意できます。：何枚か又は全てを自軍引きデッキに加える、上記で述べた CCs を置き換えるか又は置き換えない、秘密にする等です。完全にプレイヤー諸氏の裁量に委ねられます。

## 19.0 シナリオのセット・アップ [SCENARIO SER-UPS]

### 19.1 戦隊の戦争 [War of the Columns]

#### 19.1.1 期間 [Duration]

開始：ターン1（1936年8月）  
終了：ターン5（1937年1月／2月）  
ゲームの長さ：5ターン

#### 19.1.2 初期情報マーカーの配置 [Initial Information Marker Deployment]

キャンペーン・シナリオと同じです（PB19.4.2を参照）。

#### 19.1.3 初期ユニットの配置 [Initial Unit Deployment]

キャンペーン・シナリオと同じです（PB19.4.3を参照）。

#### 19.1.4 勝利条件 [Victory Conditions]

ゲーム中の自動的勝利に加えて、勝利は以下に従ってシナリオ毎に判定されます。

- ・8以下 VP：共和国軍の勝利。
- ・9又は10VP：引き分け。
- ・11以上 VP：反乱軍の勝利。

引き分けの場合には、もしも反乱軍プレイヤーが「飢餓」イヴェントをプレイしており、しかも共和国軍の士気が20以下であると反乱軍プレイヤーが勝利します。

#### 19.1.5 特別ルール [Special Rules]

##### 勝利ポイントの修正 [Victory Point Modifications]

シナリオ終了時の勝利判定前に、VP ナンバーは以下のごとく修正されます。

- ・「マドリード：優先目標」ルールに相当する罰則を適用します（17.3を参照）。
- ・もしも反乱軍プレイヤーが「枢軸国の軍事援助」イヴェントをプレイしており、共和国軍プレイヤーが「ソヴィエトの軍事援助」イヴェントをプレイしていなければ：+1 VP。
- ・もしも共和国軍プレイヤーが「ソヴィエトの軍事援助」イヴェントをプレイしており、反乱軍プレイヤーが「枢軸国の軍事援助」イヴェントをプレイしていなければ：-1 VP。
- ・シナリオ終了時の共和国軍の士気レベル（RM）に依存して：

RM18以下：+1 VP。  
RM19～22：影響なし。  
RM23以上：-1 VP。

#### 19.1.6 戦略カード・デッキ [Strategy Card Decks]

キャンペーン・シナリオと同じです（PB19.4.6を参照）。

## 19.2 北部戦線の崩壊 [Collapse of the Northern Front]

### 19.2.1 期間 [Duration]

開始：ターン6（1937年3月／4月）  
終了：ターン11（1938年1月／2月）  
ゲームの長さ：6ターン

#### 19.2.2 初期情報マーカーの配置 [Initial Information Marker Deployment]

戦争の2年間シナリオと同じです（PB19.3.2を参照）。

#### 19.2.3 初期ユニットの配置 [Initial Unit Deployment]

戦争の2年間シナリオと同じです（PB19.3.3を参照）。

#### 19.2.4 勝利条件 [Victory Conditions]

ゲーム中の自動的勝利に加えて、勝利は以下に従ってシナリオ毎に判定されます。

- ・11以下 VP：共和国軍の勝利。
- ・13VP：引き分け。
- ・14以上 VP：反乱軍の勝利。

引き分けの場合には、もしも北部戦線が完全に征服されていなければ（つまり、もしも反乱軍プレイヤーがアストゥリアス、サンタンドル、バスク地方の全スペースを占領していなければ）、共和国軍が勝利します。

#### 19.2.5 特別ルール [Special Rules]

戦争の2年間シナリオと同じで（PB19.3.5を参照）、以下に従います。：

##### 勝利ポイントの修正 [Victory Point Modifications]

シナリオ終了時の勝利判定前に、VP ナンバーは共和国軍の士気レベル（RM）に依存して以下のごとく修正されます。

RM11以下：+1 VP。  
RM12～15：影響なし。  
RM16以上：-1 VP。

#### 19.2.6 戦略カード・デッキ [Strategy Card Decks]

戦争の2年間シナリオと同じです（PB19.3.6を参照）。

## 19.3 戦争の二年間 [Two Years of War]

### 19.3.1 期間 [Duration]

開始：ターン6（1937年3月／4月）  
終了：ターン18（1939年3月／4月）  
ゲームの長さ：13ターン



### 19.3.2 情報マーカーの初期配置 [INITIAL INFORMATION MARKER DEPLOYMENT]

#### 19.3.2.1 総合記録欄 [General Record Track] (GRT) :

VP マーカー : GRT の 10 ボックス内。

RM マーカー : GRT の 20 ボックス内。

RP マーカー : NAT、AXIS、REP、SOV の RP マーカーは、GRT の「0」ボックス上。

#### 19.3.2.2 攻囲と孤立スペース [Siege and Isolated Space] マーカー :

・サンタ・マリア・カベサ [Sta.M Cabeza] 攻囲マーカー : プリエト・デ・バルデレピソ [Pto.de Valderrepiso] スペース内 (と GRT の 2 ボックス)。

・シマンカス [Simancas] 攻囲マーカー : 使用しない。

・アルカサル [Alcazar] 攻囲マーカー : 使用しない。

・孤立スペース [Isolated Space] マーカー : 使用しない。

#### 19.3.2.3 他のマーカー [Other Marker] :

ゲーム・ターン・マーカー : ターン記録欄のターン 6 (1937 年 3 月 / 4 月) ボックス内。

弾薬欠乏 [Ammo Shotage] マーカー : 「除去」[“Removed”] 面を向ける。

マドリード優先目標 [Madrid Priority Objective] マーカー : 使用しない。

海峡の支配 [Control of the Strait] : 「反乱軍の支配」[“Nationalist Control”] 面を向ける。

共和国政府 [Government of the Public] : 「ラルゴ・カバリエロ」[“Largo Caballero”] 面を向ける。

反乱軍の統率 [Nationalist Command] : 「フランコの指揮権掌握」[“Franco Takes Command”] 面を向ける。

バダホス特殊補給源 [Badajoz Special Supply Source] : 「無効化」[“Cancelled”] 面を向ける。

### 19.3.3 ユニットの初期配置 [INITIAL DEPLOYMENT]

#### 反乱軍 [NATIONALISTS]

注釈 :

- ・ ( ) 内のユニットは減少戦力。裏面でセット・アップする。
- ・前線背後の全スペースは、反乱軍陣営によって支配されている。
- ・全てのユニットは師団規模ユニット。

予備ボックス [Reserve Box] : 3INF、2MIL、1MIL-NAV、1ITA。

除去ユニット・ボックス [Eliminated Units Box] : 1INF。

永久除去 [Permanently Eliminated] : 3AFR。

#### 北部戦線 [Northern Front] :

カストロポル [Castropol] : 1INF、(1AFR)

プエルト・デ・レイタリエゴス [Pto. de Leitarigos] : 1INF

レオン [Leon] : 1INF

オビエド [Oviedo] : 1INF、1MIL、塹壕

ドブロ [Dobro] : 1INF

パンコルボ [Pancorbo] : 1MIL

ビトリア [Vitoria] : 1CAV、1ITA

ベアサイン [Beasain] : 2MIL-NAV

サン・セバスチャン [San Sebastian] : 1MIL-NAV

#### アラゴン [Aragon] :

ハカ [Jaca] : 1INF

ウエスカ [Huesca] : 1INF

レシニエナ [Lecinenal] : 1POL

サラゴサ [Zaragoza] : 1INF

ベルチテ [Belchite] : 1MIL

ビベル・デル・リオ [Vivel del Rio] : 1CAV

テルエル [Teruel] : 1POL

アルバラシン [Albarracin] : 1MIL

モリナ [Molina] : 1CAV

#### カスティリャ [Castile] / エストレマドゥラ [Extremadura] :

アリサ [Ariza] : 1MIL

アルマサン [Almazan] : 1ITA

アランダ・デ・ドエロ [Aranda de Duero] : 1INF

クエリャル [Cuellar] : 1POL

セゴビア [Segovia] : 1INF

アレバロ [Arevalo] : 1CAV

イジェスカス [Illescas] : 1INF、(1AFR)

トレド [Toledo] : 1INF、(1AFR)

グアダルペ [Guadalupe] : 1CAV

トルヒーリョ [Trujillo] : 1CAV

メリダ [Merida] : 1INF

サフラ [Zafra] : 1POL

#### 南部戦線 [Southern Front] :

ペニャロヤ [Penarroya] : 1CAV

コルドバ [Cordoba] : 1POL、1MIL

プリエゴ・デ・コルドバ [Priego de Cordoba] : 1INF

グラナダ [Granada] : 1INF、(1AFR)

モトリル [Motril] : 1MIL

#### 共和国軍 [REPUBLICANS]

注釈 :

- ・ ( ) 内のユニットは減少戦力。裏面でセット・アップする。
- ・前線背後の全スペースは、共和国軍陣営によって支配されている。
- ・全てのユニットは師団規模ユニット。
- ・明示されていない限り、全てのユニットは非地方ユニット。

予備ボックス [Reserve Box] : 2MIL-AST、1MIL-SAN、1MIL-BAS、2MIL、2RPA。

除去ユニット・ボックス [Eliminated Units Box] : 4MIL、1RPA、1POL、1MIL-BAS。

永久除去 [Permanently Eliminated] : 2MIL、1POL。

#### 北部戦線 [Northern Front] :

プエルト・デ・ラ・エスピナ [Pto. de la Espiona] : 2MIL-AST

プエルト・デ・パハレス [Pto. de Pajares] : 2MIL-AST

ヒホン [Gijon] : 2MIL-AST

プエルト・デル・エスクド [Pto. del Escudo] : 2MIL-SAN

ウルドゥニャ [Orduna] : 2MIL-BAS

ビルバオ [Bilbao] : 特別な「Bilbao」塹壕

ドゥランゴ [Durango] : 1MIL-BAS、1POL

#### アラゴン [Aragon] :

ボルターニャ [Boltana] : 1MIL-ERC

バルバストロ [Barbastro] : 1MIL-POUM

サリニエナ [Sarinena] : 1MIL-PSUC、1MIL-CNT

カンダスノス [Candasnos] : 1MIL-CNT

カスペ [Caspe] : 2MIL-CNT

#### バレンシア / ラ・マンチャ [Valencia / La Mancha]

モレラ [Morella] : 1MIL

ルビエロス・デ・モラ [Rubielos de Mora] : 1MIL

バラカス [Barracas] : 1POL

アデムス [Ademuz] : 1MIL

クエンカ [Cuenca] : 1RPA

#### カスティリャ [Castile] / エストレマドゥラ [Extremadura] :

ブリウエガ [Brihuega] : 1MIL、1INT+XII

ソモシエラ [Somosierra] : 1MIL、1POL

グアダラマ [Guadarrama] : 1MIL

マドリード [Madrid] : 1MIL、1POL、特別な「Madrid」塹壕

サン・マルティン・デ・ラ・ベガ [San Martin de Vega] : 1MIL、1RPA、  
(1 INT+XI)、特別な「Madrid」塹壕

ウルダ [Urda] : 1MIL、1POL

アンチュラス [Anchuras] : 1MIL

プエルト・ペーニャ [Puerto Pena] : 1MIL

ドン・ベニート [Don Benito] : 1MIL

カスツエラ [Castuera] : 1MIL

#### 南部戦線 [Southern Front] :

ポソブランコ [Pozoblanco] : 1MIL

プエルト・デ・バルデレピソ [Pto. de Valderrepiso] : 1MIL

モントロ [Montoro] : 1MIL、1RPA

ハエン [Jaen] : 1POL、1INT+XIII

グアディクス [Guadix] : 1MIL、1RPA

アドラ [Adra] : 1MIL

### 19.3.4 勝利条件 [Victory Cnditions]

キャンペーン・シナリオと同じです (PB19.4.4を参照)。

### 19.3.5 特別ルール [Special Rules]

#### 19.3.5.1 配置後の要件 [Post Deployment Requirements]

##### 装甲 [Aemor]

・反乱軍プレイヤーは、マップ上のいずれかの支配下スペース内に1つの CV-33 装甲ユニットを、1つの減少戦力 PZ-I 装甲ユニットを支配下港湾スペースへ配置します (これらは、同じ港湾スペースでも構いません)。

・次に、共和国軍プレイヤーは、1つの T-26 装甲ユニットをマップ上のいずれかの支配下スペース (北部戦線内を除く) へ、1つの減少戦力 T-26 装甲ユニットを支配下の地中海港湾スペースへ配置します (これらは、同じ港湾スペースでも構いません)。

##### 陣地と塹壕 [Positions and Trenches]

・次に、反乱軍プレイヤーは、いずれかの支配下スペース内に1つの陣地マーカーを置きます。

・次に、共和国軍プレイヤーは、いずれか3つの支配下スペースに陣地マーカーを置きます (例外: 北部戦線内には最大1つ)。

##### 軍集団 [Army Dorps]

・次に、両プレイヤーは、ルールブックの15.2に従って、自軍の初期軍団規模ユニットを配置しなければなりません。プレイヤー諸氏は、ポイント15.2.2をスキップしますが (予備ボックスが正しいため)、15.2.3は実行します。

#### 19.3.5.2 以前のイベント／アクション [Previous Events/Actions] :

・反乱軍プレイヤーは、「マドリード: 優先目標」ルール (17.3を参照) について-1 VP の罰則を被ったものと見なされます。

・攻囲: シマンカス要塞 [Simancas Quarter] は降伏し、トレドのアルカサル [Alcazar of Tredo] は解放されたものと見なされます (両者の影響は、すでに初期の VP と RM レベルに適用されています)。

・飢餓 [Famine] : 反乱軍イベント「飢餓」が有効で、ターン11と17 (冬季ターン) の終了時に-1ずつ RM が減少するか、又はもしも厳冬であると-2です (16.5.3を参照)。

・オビエド [Oviedo] は、非補給下 (OOS) でシナリオを開始します。もしもターンの終了時にいまだ OOS であると、反乱軍ユニットは永久に除去され、スペースの支配は共和国軍プレイヤーに移ります。

**注釈:** もしも両プレイヤーが選択ルール「グラドの通廊」 (PB18.2.3) の適用に合意すると、オビエド [Oviedo] のスペースは孤立スペースでシナリオを開始します。

### 19.3.6 戦略カード・デッキ [Strategy Card Decks]

#### 19.3.6.1 除去カード [Eliminated Cards]

以下のカードは、ゲームから取り去られます (これらは、イベントとしてプレイされたものと見なされます)。

- ・反乱軍 : 1、2、4、6、7、8、9、11、14、15、16、18。
- ・共和国軍 : 1、2、4、7、8、9、10、11、12、14、15、17。

#### 19.3.6.2 反乱軍の初期デッキと手札 [Initial National Deck and Hand]

新たな反乱軍引きパイルを組むため、残っている反乱軍の戦隊の戦争カード (上記のカードを取り去った後に) と動員カードと一緒にシャッフルします。反乱軍プレイヤーは、初期手札を組むため無作為に7枚のカードを引きます。これらのカードに少なくとも1枚は、軍団規模ユニットの増援カードでなければならないことを忘れないでください (15.1.2を参照)。

#### 19.3.6.3 共和国軍の初期デッキと手札 [Initial Republican Deck and Hand]

新たな共和国軍引きパイルを組むため、残っている共和国軍の戦隊の戦争カード (上記のカードを取り去った後に) と動員カードと一緒にシャッフルします。共和国軍プレイヤーは、初期手札を組むため無作為に7枚のカードを引きます。これらのカードに少なくとも1枚は、軍団規模ユニットの増援カードでなければならないことを忘れないでください (15.1.2を参照)。

### 19.4 キャンペーン・シナリオ [Campaign Scenario]

#### 19.4.1 期間 [Duration]

開始: ターン1 (1938年8月)

終了: ターン18 (1939年3月/4月)

ゲームの長さ: 18ターン

#### 19.4.2 情報マーカーの初期配置 [INITIAL INFORMATION MARKER DEPLOYMENT]

##### 19.4.2.1 総合記録欄 [General Record Track] (GRT) :

VP マーカー: GRT の7ボックス内。

RM マーカー: GRT の26ボックス内。

RP マーカー: NAT と REP RP マーカーは、GRT の「0」ボックス上。AXIS と SOV RP マーカーは、その適切なイベント・カードがプレイされるまで、マップ外に保持されます。



#### 19.4.2.2 攻囲と孤立スペース [Siege and Isolated Space] マーカー:

- ・シマンカス [Simancas] 攻囲マーカー: ヒホン [Gijón] スペース内と GRT 上の1ボックス
- ・サンタ・マリア・カベサ [Sta.M Cabeza] 攻囲マーカー: プリエト・デ・バルデレピソ [Pto.de Valderrepiso] スペース内と GRT の2ボックス
- ・アルカサル [Alcazar] 攻囲マーカー: トレド [Toledo] 内 と GRT の3ボックス
- ・孤立スペース [Isolated Space] マーカー: オビエド [Obiedo] とグラナダ [Granada] スペース内

#### 19.4.2.3 他のマーカー [Other Marker]:

- ゲーム・ターン・マーカー: ターン記録欄のターン1 (1936 年8月) ボックス内。
- 弾薬欠乏 [Ammo Shotage] マーカー: 「活性化」[“Active”] 面を向ける。
- マドリッド優先目標 [Madrid Priority Objective] マーカー: 記録欄上の「-3VP」ボックス上。
- 海峡の支配 [Control of the Strait]: 「共和国軍の支配」[“Republican Control”] 面を向ける。
- 共和国政府 [Government of the Public]: マップ上に記載されたとく「ホセ・ヒラル」[“Jose Giral”] (いかなるマーカーもボックス内に置かない)。
- 反乱軍の統率 [Nationalist Command]: 「非単一統率」[“No Single Command”] 面を向ける。
- バダホス特殊補給源 [Badajoz Special Supply Source]: 「共和国軍特殊補給源」[“REP Special Supply Source”] 面を向ける。

#### 19.4.3 ユニットの初期配置 [INITIAL DEPLOYMENT]

##### 反乱軍 [NATIONALISTS]

###### 注釈:

- ・( ) 内のユニットは減少戦力。裏面でセット・アップする。
- ・前線背後の全スペースは、反乱軍陣営によって支配されている。
- ・全てのユニットは師団規模ユニット

予備ボックス: 1 MIL

##### 北部戦線 [Northern Front]

- ビラルバ [Villalba]: 1 INF
- ルーゴ [Lugo]: 1 INF
- ポンフェラダ [Ponferrada]: 1 INF
- レオン [Leon]: 1 INF
- オビエド [Oviedo]: 1 INF, 1 MIL, Trench
- ドブロ [Dobro]: 1 INF
- パンコルボ [Pancorbo]: 1 MIL
- ビトリア [Vitoria]: 1 CAV
- ベアサイン [Beasain]: 2 MIL-NAV
- ブエルト・ベラテ [Pto. Velate]: 1 MIL-NAV
- パンプロナ [Pamplona]: (1 MIL-NAV)

##### アラゴン [Aragon]

- ハカ [Jaca]: (1 INF)
- ウエスカ [Huesca]: 1 INF
- レシニエナ [Lecina]: 1 POL
- サラゴサ [Zaragoza]: 1 INF
- ベルチテ [Belchite]: 1 MIL
- ビベル・デル・リオ [Vivel del Rio]: 1 CAV
- テルエル [Teruel]: 1 POL

- アルバラシン [Albarracin]: 1 MIL
- モリナ [Molina]: 1 CAV

##### カステイリャ/エストレマドゥラ [Castile / Extremadura]

- アリサ [Ariza]: 1 MIL
- アルマサン [Almazan]: (1 INF)
- アラнда・デ・ドエロ [Aranda de Duero]: 1 INF
- バリャドリッド [Valladolid]: 1 POL
- セゴビア [Segovia]: 1 INF
- アレバロ [Arevalo]: 1 CAV
- アビラ [Avila]: 1 MIL
- ベハル [Bejar]: 1 CAV
- ナバルモラル・デ・ラ・マタ [Navalmoral de la Mata]: 1 INF
- トルヒーヨ [Trujillo]: 1 CAV
- カセレス [Caceres]: 1 INF

##### 南部戦線 [Southern Front]

- ウエルバ [Huelva]: 1 CAV
- セビリャ [Sevilla]: 1 INF, 1 POL, 1 AFR
- エシハ [Ecija]: 1 MIL
- コルドバ [Cordoba]: 1 POL
- プリエゴ・デ・コルドバ [Priego de Cordoba]: 1 INF
- グラナダ [Granada]: 1 INF, (1 MIL)
- アルコス・デ・ラ・フロンテーラ [Arcos de la Frontera]: (1 INF)

##### バレアレス諸島 [Balearic Islands]

- マヨルカ [Mallorca]: 1 INF

##### アフリカ駐屯軍ディスプレイ [Army of Africa Display]

- アフリカ駐屯軍 [Army of Africa]: 6 AFR

##### 共和国軍 [REPUBLICANS]

###### 注釈:

- ( ) 内のユニットは減少戦力。裏面でセット・アップする。
- ・前線背後の全スペースは、共和国軍陣営によって支配されている。
- ・全てのユニットは師団規模ユニット。
- ・明示されていない限り、全てのユニットは非地方ユニット。

予備ボックス: 2 MIL

##### 北部戦線 [Northern Front]

- カストボル [Castropol]: 1 MIL-AST
- ブエルト・デ・ラ・エスピナ [Pto. de la Espina]: 2 MIL-AST
- ブエルト・デ・レイタリエゴス [Pto. de Leitariegos]: 1 MIL-AST
- ブエルト・デ・パハレス [Pto. de Pajares]: 2 MIL-AST
- ヒホン [Gijón]: 2 MIL-AST
- ブエルト・デル・エスクド [Pto. del Escudo]: 2 MIL-SAN
- サンタンデル [Santander]: 1 MIL-SAN
- ウルドゥニャ [Orduna]: 1 MIL-BAS
- ビルバオ [Bilbao]: 1 POL
- ドゥランゴ [Durango]: 2 MIL-BAS
- サン・セバスチャン [San Sebastian]: 2 MIL-BAS

##### アラゴン/カタルーニャ [Aragon / Catalonia]

- ボルトアーニャ [Boltana]: (1 MIL-ERC)
- バルバストロ [Barbastro]: 1 MIL-POUM
- サリニエナ [Sarriena]: 1 MIL-PSUC, 1 MIL-CNT
- カンダスノス [Candasnos]: 1 MIL-CNT
- カスペ [Casp]: 2 MIL-CNT
- バルセロナ [Barcelona]: 1 POL

**バレンシア／ラ・マンチャ [Valencia / La Mancha]**

モレラ [Morella]: 1 MIL  
 ルビエロス・デ・モラ [Rubielos de Mora]: 1 MIL  
 バラカス [Barracas]: 1 POL  
 バレンシア [Valencia]: 1 RPA  
 アデムス [Ademuz]: 1 MIL  
 クエンカ [Cuenca]: 1 MIL

**カスティリャ／エストレマドゥラ [Castile / Extremadura]**

ブリウエガ [Brihuega]: 1 MIL  
 ソモシエラ [Somosierra]: 1 MIL  
 グアダラハラ [Guadarrama]: 1 MIL  
 マドリッド [Madrid]: 2 POL  
 セブレロス [Cebrenos]: 1 MIL  
 トレド [Toledo]: 1 MIL  
 タラベラ・デ・ラ・レイナ [Talavera de la Reina]: 1 MIL, 1 POL  
 グアダルペ [Guadalupe]: 1 MIL  
 ドン・ベニート [Don Benito]: 1 MIL  
 メリダ [Merida]: 1 POL  
 バダホス [Badajoz]: (1 RPA), 1 MIL, 陣地

**南部戦線 [Southern Front]**

リオティント [Riotinto]: 1 MIL  
 サンタ・オラヤ [Santa Olalla]: 1 MIL  
 ペナローニャ [Penarroya]: 1 MIL  
 モントロ [Montoro]: 1 RPA  
 ハエン [Jaen]: 1 POL  
 グアディクス [Guadix]: 1 MIL  
 ロンダ [Ronda]: 1 MIL  
 アンテケラ [Antequera]: 1 MIL  
 ロハ [Loja]: 1 MIL  
 ベレス・マラガ [Velez Malaga]: 1 MIL  
 モトリル [Motril]: 1 MIL

**19.4.4 勝利条件 [Victory Conditions]**

**19.4.4.1** キャンペーン・シナリオは、どちらかのプレイヤーが自動的勝利を達成したとき直ちに終了し、さもなければ、ターン18 (1939年3月／4月) の終了時まで続きます。

**19.4.4.2** もしも自動的勝利が達成されていないならば、キャンペーン・シナリオ終了時のVP数で勝利陣営 (もしもあれば) を判定します。:

- ・反乱軍の勝利: 20VP以上
- ・引き分け: 19VP
- ・共和国軍の勝利: 18VP以下

**19.4.5 特別ルール [Special Rules]**

なし。

**19.4.6 戦略カード・デッキ [STRATEGY CARD DECKS]****19.4.6 除去カード [Eliminated Cards]**

なし。

**19.4.6.2 初期反乱軍デッキと手札 [Initial Nationalist Deck and Hand]:**

反乱軍プレイヤーは、「空の架け橋」[Air Bridge] 戦略カード (N1) を手札に持ってゲームを開始します。反乱軍の引きパイルを組むた

め、残っている17枚の反乱軍「戦隊の戦争段階」カードをリシャッフルします。

反乱軍プレイヤーは、初期手札を組むため、自軍引きパイルから6枚のカードを無作為に引きます (「空の架け橋」カードを含めて合計7枚のカード)。

**注釈:** 反乱軍プレイヤーは、「空の架け橋」戦略カードを第1ターンの第1アクション・ラウンドに、イベントとしてプレイしなければなりません。

**19.4.6.3 初期共和国軍デッキと手札 [Initial Republican Deck and Hand]:**

共和国軍プレイヤーは、共和国軍の引きパイルを組むため、18枚の戦隊の共和国軍「戦争段階」カードをシャッフルします。共和国軍プレイヤーは、初期手札を組むため、自軍引きパイルから無作為に7枚のカードを引きます。

**19.5 共和国軍の崩壊 [REPUBLICAN COLLAPSE]****19.5.1 期間 [Duration]**

**開始:** ターン12 (1938年3月／4月)

**終了:** ターン18 (1939年3月／4月)

**ゲームの長さ:** 7ターン

**19.5.2 情報マーカーの初期配置 [INITIAL INFORMATION MARKER DEPLOYMENT]****19.5.2.1 総合記録欄 [General Record Track] (GRT):**

**VP マーカー:** GRTの13ボックス内。

**RM マーカー:** GRTの12ボックス内。

**RP マーカー:** NAT、AXIS、REPとSOV RP マーカーは、GRTの「0」ボックス上。REP RP マーカーは、-1の罰則を持ちます (14.2を参照)。

**19.5.2.2 攻囲と孤立スペース [Siege and Isolated Space] マーカー:**

なし。

**19.5.2.3 他のマーカー [Other Marker]:**

**ゲーム・ターン・マーカー:** ターン記録欄のターン12 (1938年3月／4月) ボックス内。

**弾薬欠乏 [Ammo Shortage] マーカー:** 「除去」[“Removed”] 面を向ける。

**マドリッド優先目標 [Madrid Priority Objective] マーカー:** 使用しない。

**海峡の支配 [Control of the Strait]:** 「反乱軍の支配」[“Nationalist Control”] 面を向ける。

**共和国政府 [Government of the Public]:** 「ファン・ネグリン」[“Juan Negrin”] 面を向ける。

**反乱軍の統率 [Nationalist Command]:** 「フランコの指揮権掌握」[“Franco Takes Command”] 面を向ける。

**バダホス特殊補給源 [Badajoz Special Supply Source]:** 「無効化」[“Cancelled”] 面を向ける。



## 19.5.3 ユニットの初期配置 [INITIAL DEPLOYMENT]

## 反乱軍 [NATIONALISTS]

## 注釈:

- ・( ) 内のユニットは減少戦力。裏面でセット・アップする。
- ・前線背後の全スペースは、反乱軍陣営によって支配されている。
- ・軍団規模ユニット (軍団) として述べられていない限り、全てのユニットは師団規模ユニット

予備ボックス: 3 INF、1 MIL、1 MIL-NAV、1 ITA、1 PZ-I

除去ユニット・ボックス: 2 INF、1 MIL-NAV、1 ITA

永久除去: 4 AFR、3 MIL、1 INF、1 CAV

## 北部戦線 [Northern Front]

注釈: 北部戦線内の全スペースは、反乱軍の支配下にある。

プエルト・デ・ラ・エスピナ [Pto. de la Espiona]: 1 INF

プエルト・デ・パハレス [Pto. de Pajares]: 1 INF

カンガス・デ・オニス [Cangas de Onis]: (予備軍団), 1 INF

サンタンデル [Santander]: 1 MIL-NAV

サン・セバスチャン [San Sebastian]: 1 MIL-NAV

## アラゴン [Aragon]

ハカ [Jaca]: 1 INF

ウエスカ [Huesca]: Urgel 軍団、1 INF

レシニェナ [Lecinena]: 1 POL

サラゴサ [Zaragoza]: V 軍団、1 INF

カリニェナ [Carinena]: 1 MIL、1 ITA

ビベル・デル・リオ [Vivel del Rio]: Maestrazgo 軍団、1 CAV

テルエル [Teruel]: Turia 軍団、1 INF

アルバラシン [Albarracin]: 1 MIL

モリナ [Molina]: 1 CAV

## カスティリャ／エストレマドゥラ [Castile / Extremadura]

アリサ [Ariza]: 1 MIL

アルマサン [Almazan]: Soria-Somosierra 軍団、1 POL

アランダ・デ・ドエロ [Aranda de Duero]: VII 軍団、1 INF

クエリャル [Cuellar]: 1POL

セゴビア [Segovia]: Avila-Segovia 軍団、1INF

アレバロ [Arevalo]: 1CAV

イジェスカス [Illescas]: I 軍団、1INF、(1AFR)

トレド [Toledo]: VI 軍団、1INF、(1AFR)

グアダルペ [Guadalupe]: Extremadura 軍団、1CAV

トルヒーリョ [Trujillo]: 1CAV

メリダ [Merida]: 1POL

サブラ [Zafra]: 1INF

## 南部戦線 [Southern Front]

ペナローニャ [Penarroya]: VIII 軍団、1 CAV

コルドバ [Cordoba]: 1 POL、1MIL

プリエゴ・デ・コルドバ [Priego de Cordoba]: Cordoba 軍団、1 INF

グラナダ [Granada]: Granada 軍団、(1 AFR)

モトリル [Motril]: 1 MIL

## 共和国軍 [REPUBLICANS]

## 注釈:

- ・( ) 内のユニットは減少戦力。裏面でセット・アップする。
- ・前線背後の全スペースは、共和国軍陣営によって支配されている。
- ・全てのユニットは師団規模ユニット。
- ・軍団規模ユニット (軍団) として述べられていない限り、全てのユニットは師団規模ユニット

- ・全てのユニットは非地方ユニット。

予備ボックス: 2 RPA、1 MIL、1 INT-150、1 T-26

除去ユニット・ボックス: 2 MIL、1 RPA、1 POL、1 INT-XI、1 INT-XII

永久除去: 8 MIL、2 POL、3 MILL-CNT、1 MIL-POUM、全てのアストurias、サンタンデル、バスク地方ユニット

## 北部戦線 [Northern Front]

注釈: 北部戦線内の全スペースは、反乱軍の支配下にある。

## アラゴン [Aragon]

ボルターニャ [Boltana]: 1 MIL-ERC

バルバastro [Barbastro]: X 軍団、1 RPA

サリニェナ [Sarinena]: 1 MIL-PSUC、1 RPA

カンドスノス [Candasnos]: XI 軍団、1 MIL-CNT

ベルチテ [Belchite]: 1 RPA、(1 INT-XV)

カスペ [Caspel]: XII 軍団、1 RPA、(1INT-XIV)

## バレンシア／ラ・マンチャ [Valencia / La Mancha]

モレラ [Morella]: 1 MIL

ルビエロス・デ・モラ [Rubielos de Mora]: XIII 軍団、1 MIL

バラカス [Barracas]: XIX 軍団、1 POL

アデムス [Ademuz]: 1 MIL

クエンカ [Cuenca]: 1 RPA

## カスティリャ／エストレマドゥラ [Castile / Extremadura]

ブリウエガ [Brihuega]: IV 軍団、1 MIL

ソモシエラ [Somosierra]: I 軍団、1 MIL、1POL

グアダラマ [Guadarrama]: 1MIL

マドリッド [Madrid]: II 軍団、1MIL、1 POL、特別な「Madrid」

塹壕

サン・マルティン・デ・ラ・ベガ [San Martin de Vega]: III 軍団、

1MIL、1RPA、特別な「Madrid」塹壕

ウルダ [Urdal]: VI 軍団、1POL

アンチュラス [Anchuras]: 1MIL

プエルト・ペーニャ [Puerto Pena]: VII 軍団、1MIL

ドン・ベニート [Don Benito]: 1MIL

カストゥエラ [Castuera]: 1RPA、(1 INT-XIII)

## 南部戦線 [Southern Front]:

ポソブランコ [Pozoblanco]: VIII 軍団、1MIL

モントロ [Montoro]: 1MIL、1RPA

ハエン [Jaen]: IX 軍団、1POL、1MIL

グアディクス [Guadix]: XXIII 軍団、1RPA

アドラ [Adra]: 1MIL

## 19.5.4 勝利条件 [Victory Conditions]

キャンペーン・シナリオと同じです (PB19.4.4 を参照)。

## 19.5.5 特別ルール [Special Rules]

## 19.5.5.1 配置後の要件 [Post Deployment Requirements]

## 陣地と塹壕 [Positions and Trenches]

- ・反乱軍プレイヤーは、いずれかの支配下スペース内に4つの陣地マーカーと1つの塹壕マーカーを置きます (スペース毎に1枚のマーカー)。
- ・次に、共和国軍プレイヤーは、いずれかの支配下スペース内に6つの陣地マーカーと2つの塹壕マーカーを置きます (スペース毎に1枚のマーカー)。

**機動軍 [Maneuver Armies]**

・両プレイヤーは、ここでマップに配置しなければならないいくつかの追加軍団規模ユニットを持ちます。:

ー反乱軍ユニット: Aragon 軍団、Castilla 軍団、Galicia 軍団、Marroqui 軍団、Navarra 軍団、CTV 軍団

ー共和国軍ユニット: V 軍団、XVIII 軍団、XX 軍団、XXI 軍団、XXII 軍団

・反乱軍から開始して、プレイヤー諸氏は上記の軍団規模ユニットを1つずつ交互にマップ上へ配置していきます(実際のユニットは、プレイヤーによって選択された順番)。

・各軍団規模ユニットは、以下の1つに配置しなければなりません。: 少なくとも1つの友軍戦闘ユニットを持つスペース内、友軍補給源内、マドリッド内(共和国軍プレイヤーのみ)。スペースは、友軍支配下で補給下でなければなりません。同じスペース内に複数の軍団規模ユニットを置くことができます。もしも軍団規模ユニットを配置した瞬間にスタッキング限度を超過したら、そのスペース内の1つの師団規模ユニットを予備ボックスへ移さなければなりません。最大3つの軍団規模ユニットが同じスペース内に存在できます。

・反乱軍プレイヤーが自軍の6番目の軍団規模ユニットを配置した後、共和国軍プレイヤーは、もしも望むのであれば、自軍の軍団規模ユニットの1つの位置を変更できます。単にユニットを取り上げ、共和国軍支配下、補給下、少なくとも1つの友軍ユニットを含むスペースへ移します。この移動でスタッキング限度を超過できません。

**装甲 [Armor]**

・次に、反乱軍プレイヤーは、残っている3つの装甲ユニット [1 CV-33、1 PZ-I、(1 CV-33)] を、スタッキング限度を超過しないという条件で、マップ上にいずれかの支配下スペース内に配置します(同じスペース内に複数の装甲ユニットを配置できます)。

・次に、共和国軍プレイヤーは、残っている3つの装甲ユニット [2 T-26 と(1 T-26)] を、スタッキング限度を超過しないという条件で、マップ上にいずれかの支配下スペース内に配置します(同じスペース内に複数の装甲ユニットを配置できます)。

**損耗 [Attrition]**

・戦争の長期化によって生じた追加の損耗を反映するため、両プレイヤーは自軍戦闘ユニットに損失を適用しなければなりません。

・共和国軍プレイヤーはサイを1つ振り、その結果は両陣営が被らなければならない損失を示します。:

1~2 : 5 損失

3~4 : 7 損失

5~6 : 9 損失

・最初に反乱軍プレイヤーが全ての損失を適用し、次に共和国軍プレイヤーです。損失は、以下の制限で、あたかも戦闘で受けるごとく被ります(11.3.2を参照)。

ー全ての損害は、損失が完全に満たされるように適用しなければなりません(11.3.4を参照)。

ー損失は、敵ユニットに隣接するか又は予備ボックス内のユニットのみに適用できます。

ー損失は、完全戦力ユニットをその減少面に裏返すためにのみ適用でき、この損失の適用中に除去できる減少状態のユニットはありません。

ーそうでなければ、損失はいかなるユニットに適用することもできます(すなわち、装甲又はAFRユニットについての「最初の損失」要件はありません)。

**19.5.5.2 以前のイベント/アクション [Previous Events/Actions] :**

・反乱軍プレイヤーは、「マドリッド: 優先目標」ルール(17.3を参照)についてー1VPの罰則を被ったものと見なされます(すでに初期VPレベルに適用されています)。

・攻囲: シマンカス要塞 [Simancas Quarter] とサンタ・マリア・カベサ [Sta.M Cabeza] 修道院は降伏し、トレドのアルカサル [Alcazar of Tredo] は解放されたものと見なされます(影響は、すでに初期のVPとRMレベルに適用されています)。

・北部戦線の終了 [End of Northern Front] : 共和国軍プレイヤーは、北部戦線の終了(16.3.3を参照)についてのー2RMの罰則を被っていると見なされます(すでに初期RMレベルに適用されています)。

・飢餓 [Famine] : 反乱軍イベント「飢餓」が有効で、ターン17(冬季ターン)の終了時にー1だけRMが減少します。

**19.5.6 戦略カード・デッキ [Strategy Card Decks]****19.5.6.1 除去カード [Eliminated Cards]**

以下のカードは、ゲームから取り去られます(これらは、イベントとしてプレイされたものと見なされ、VPとRMの変更を含めて、その影響は適用されています)。

・反乱軍: 1~9、11、14~16、18~25、28~32、35、37。

・共和国軍: 1~4、7~12、14~28、30~34、38。

**19.5.6.2 反乱軍の初期デッキと手札 [Initial National Deck and Hand]**

新たな反乱軍引きパイルを組むため、残っている反乱軍の戦隊の戦争カードと動員カード(上記のカードを取り去った後に)を軍の戦争カードと一緒にシャッフルします。反乱軍プレイヤーは、初期手札を組むため無作為に8枚のカードを引きます(共和国軍の士気が16ポイントを下回ったため、彼の手札は8枚です。6.0.A.3を参照)。

**19.5.6.3 共和国軍の初期デッキと手札 [Initial Republican Deck and Hand]**

新たな共和国軍引きパイルを組むため、残っている共和国軍の戦隊の戦争カードと動員カード(上記のカードを取り去った後に)を軍の戦争カードと一緒にシャッフルします。共和国軍プレイヤーは、初期手札を組むため無作為に7枚のカードを引きます



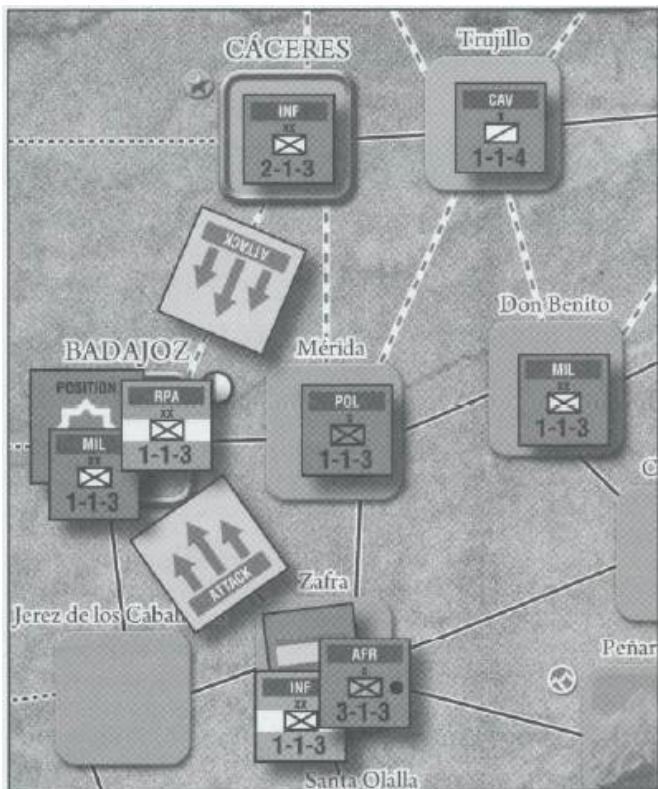


## 20.0 戦闘の例 [COMBAT EXAMPLES]

2つの戦闘例が下記で説明されます。最初のそれは、ルールブック内で述べられた戦闘手順を1つずつ追っていくものです。2つ目のそれは、戦闘がより物語風に述べられ、サイの目によって起り得る3つの状況が存在します。

### 20.1 戦闘の例1 [Combat Example 1]

戦隊の戦争段階なので、ゲーム・マップ上には師団規模のユニットのみがあります。反乱軍プレイヤーは、カードをオペレーション (OPS) としてプレイし、戦闘のために2スペース (カセレス [Caceres] とサフラ [Zafra]) を活性化させます。



**1. 戦闘の指定 [Designate the Combat] :** 反乱軍プレイヤーは、Badajoz を攻撃するために、2つの活性化スペース内に存在する全ユニットを活性化させることに決めます。

**2. 戦闘戦力の決定 [Determine Combat Strength] :** 自軍3ユニットの全戦闘値を合計し、反乱軍プレイヤーは6の戦闘戦力を持ちます。共和国軍プレイヤーは、2の戦闘戦力を持ちます。

#### 3. 戦闘カードのプレイ [Play Combat Cards] :

攻撃側 (この場合には反乱軍プレイヤー) は、最初に戦闘カード (CC) をプレイし、「ガルシア・モラト」をプレイすることに決めます。共和国軍プレイヤーは、いかなるCCもプレイしないことを選択します。



**4. サイの目修正 (DRM) の決定 [Determine Die Roll Modifiers] :** 反乱軍プレイヤーは、プレイした CC のおかげで +1 DRM を持ちます。共和国軍プレイヤーは、DRM を持ちません。

**5. 射撃コラムの決定 [Determine Fire Column] :** 師団規模のユニットのみが戦闘に参加しているため、両プレイヤーが師団規模ユニット射撃表上で射撃します。反乱軍プレイヤーの戦闘戦力については、6のコラムで射撃することになりますが、防御スペース内の陣地のために1コラム左へシフトしなければならず、5のコラムで射撃します。

**注釈 :** たとえ攻撃スペース (カセレス [Caceres]) の1つと防御スペースとの間に河川が存在しても、戦闘に影響はありません。なぜならば、河川のために左へのコラムシフトを被るためには、全ての攻撃ユニットが河川越えて攻撃しなければなりません。サフラ [Zafra] 内のユニットは、河川越えて攻撃していないので、攻撃側に罰則はありません。

共和国軍プレイヤーは、2のコラム上で射撃します。

**6. 結果の判定 [Determine Results] :** 両プレイヤーは、サイを振ります。反乱軍プレイヤーは2の目を振り、自軍の+1 DRM を加えて合計は3です。射撃表の5のコラムで修正後のサイの目3は、2の損失ナンバーを生み出します。共和国軍プレイヤーは4の目を振り、射撃表上の2のコラムは1の損失ナンバーを生み出します。

**7. 損失の適用 [Take Losses] :** 防御側は、攻撃側の前に自軍の損失を割り当てなければなりません。共和国軍プレイヤーは、完全戦力の MIL ユニットと減少戦力の RPA ユニットを持ちます。共和国軍プレイヤーは、は全ての損害 (2) を自軍の MIL ユニットに適用することに決め、2ステップを失って除去されます。反乱軍プレイヤーは、戦闘に3つのユニットを持ちますが、それらの1つはアフリカ駐屯軍 (AFR) からのユニットで、この状況下では攻撃で AFR ユニットが最初の損失を被らなければなりません。そこで AFR ユニットは損傷 (1) を被り、1ステップを失って裏面に返されます。

**8. 戦闘勝者の決定 [Determine Combat Winner] :** 反乱軍プレイヤーによって生じた損失ナンバーは2で、共和国軍プレイヤーのそれは1です。反乱軍プレイヤーは、より大きな結果を獲得したので、戦闘に勝利します。反乱軍プレイヤーは、プレイした CC を卓上に保持でき、このターンの未来の戦闘で再び使用できることになります。

**注釈 :** もしも共和国軍プレイヤーが CC をプレイしていたら、戦闘に敗北したため捨てられました。

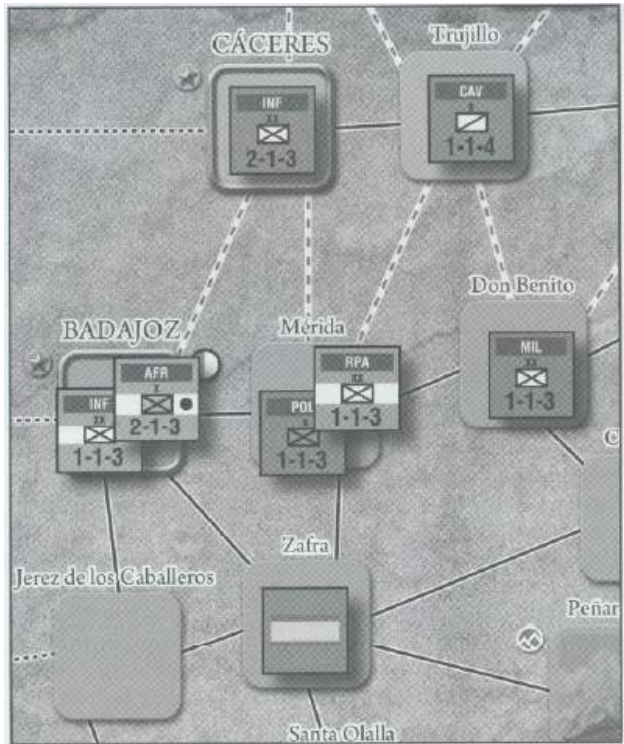
**9. 防御側の退却 [Defender Retreat] :** 攻撃側が勝利したので、全防御ユニットは退却しなければなりません。

**注釈 :** この場合、防御側は追加の1ステップ損失を被ることで退却を無効にできません。なぜならば、地形がそれを認めないからです。退却は、山岳、塹壕、橋頭堡スペース内でのみ無効にできます。たとえ地形が認めていたとしても、この場合には無効にできませんでした。なぜならば、追加損失後に少なくとも1ステップが生き残らなければならないからです。

1の差で戦闘に敗北していたら、共和国軍プレイヤーは生き残っている唯一の RPA ユニートを1スペース退却させなければなりません (2以上の差で敗北していたら、2スペース退却させられていたところでした)。共和国軍プレイヤーは、RPA ユニートをメリダ [Merida] へ退却させることに決めます。

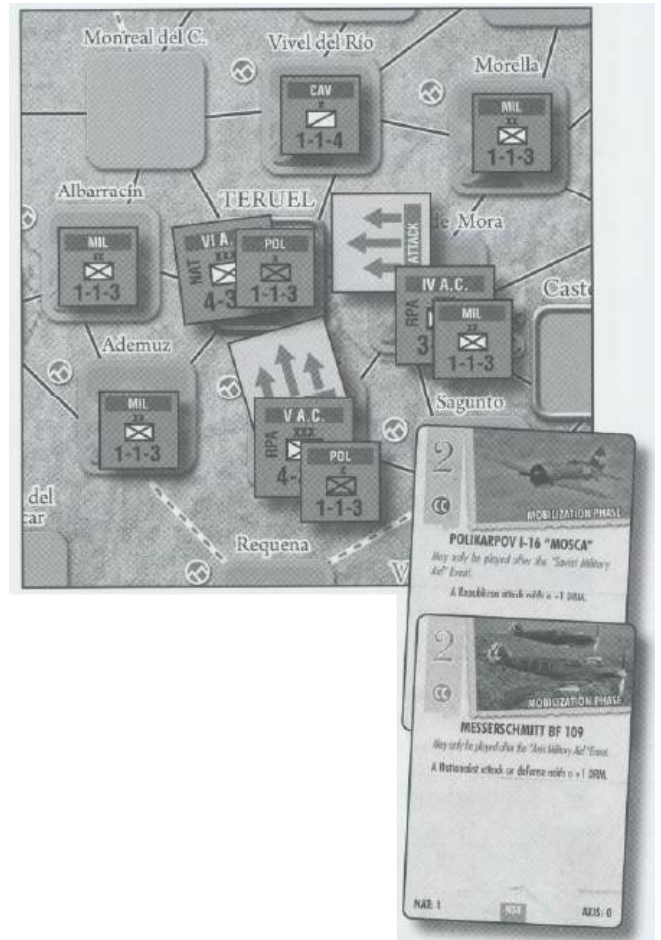
注釈：ヘレス・デ・ロス・カバリエロス [Jerez de los Caballeros] へ退却させることは、まずいアイデアです。なぜならば、敵の前進後に、ユニットが非補給下となることはほぼ間違いないと予想されるからです。

10. 攻撃側の前進 [Attacker Advance]：もしも防御側が退却すると、攻撃側は戦闘に参加して生き残っているいずれか又は全てのユニットで前進の選択肢を持ちます。ユニットは、防御スペース（この場合はバダホス [Badajoz]）へ前進します。反乱軍プレイヤーは、サフラ [Zafra] からの2ユニット（INF と AFR）で前進することに決め、カセレス [Caceres] 内のユニットはそのスペース内に留めます。ユニットは戦闘後前進でスペースの支配を獲得し、共和国軍の陣地を除去します（マーカーは、このターンの未来に使用可能です）。



注釈：バダホス [Badajoz] は、勝利ポイント (VP) スペースなので、この町を征服するときに反乱軍プレイヤーは1 VP を獲得し、共和国軍の士気 (RM) は1ポイント低下します。

戦闘は終了です。ここで、他の戦闘を解決するか（もしもあれば）、さもなければアクション・ラウンドは終了します。



## 20. 2 戦闘の例2 [Combat Example 2]

動員段階です。共和国軍プレイヤーは、3 OPS とこのアクション・ラウンド中の全ての攻撃に+1 サイの目修正 (DRM) を与える「戦略攻撃 (ベレチテ)」イベントをプレイします。共和国軍プレイヤーは、移動のために1 OPS と他の2 OPS をテルエル [Teruel] 攻撃のため2 スペースを活性化させるために使用します。

共和国軍プレイヤーは9戦闘値を持ち、反乱軍プレイヤーは5を持ちます。共和国軍プレイヤーは、+1 DRM を与える「ポリカルポフ I-16 モスカ」CC をプレイします（すでにプレイしたイベントの効果と組み合わせて、合計で+2 DRM を与えます）。反乱軍プレイヤーは、卓上に「メッサーシュミット BF109」CC を持ち、このターンの前の戦闘でプレイし、勝者としてそれを保持できます。反乱軍プレイヤーは、この戦闘で使用することに決め、+1 DRM を受取ります。

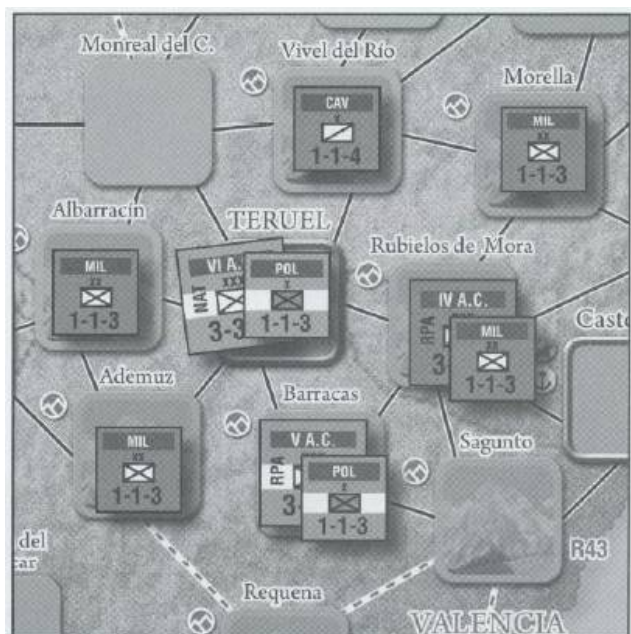
両プレイヤーは、少なくとも戦闘に1つの軍団規模ユニットを参加させているため、両者は軍団規模ユニット射撃表で射撃します。防御スペースは山岳スペースなので、攻撃側は左へ1コラムシフトさせなければなりません。共和国軍プレイヤーは、6のコラムで射撃し、反乱軍プレイヤーは5です。

プレイヤーの異なる3つのサイの目に依存して、戦闘で起り得る3つの状況について述べます。

### 20. 2. 1 状況 I [Situation I]

共和国軍プレイヤーは1の目を振り、自身の+2 DRM を加えて合計3となり、射撃表の6コラムで4の損失ナンバーを生み出します。反乱軍プレイヤーは、3の目を振り、自身の+1 DRM を加えて合計4となり、射撃表の5コラムでやはり4の結果を与えます。





反乱軍プレイヤーは、自軍の軍団規模ユニットと師団規模ユニットを減少させることにより、自身の損失を割り振ります。共和国軍プレイヤーは、同じ損失ナンバー（4）を被らなければならず、自軍の軍団規模ユニットの1つと師団規模ユニットの1つを減少させます。

両プレイヤーについての損失ナンバーは同じだったので、両者が敗北したものと見なされます。両プレイヤーは、自身がプレイしたCCを捨て札しなければなりません。攻撃側は勝利しなかったので前進せず、防御側は退却する必要がありません。戦闘は終了して、イベントの特別な効果は生じません（共和国軍は戦闘で勝者になる必要があります）。

## 20.2.2 状況II [Situation II]

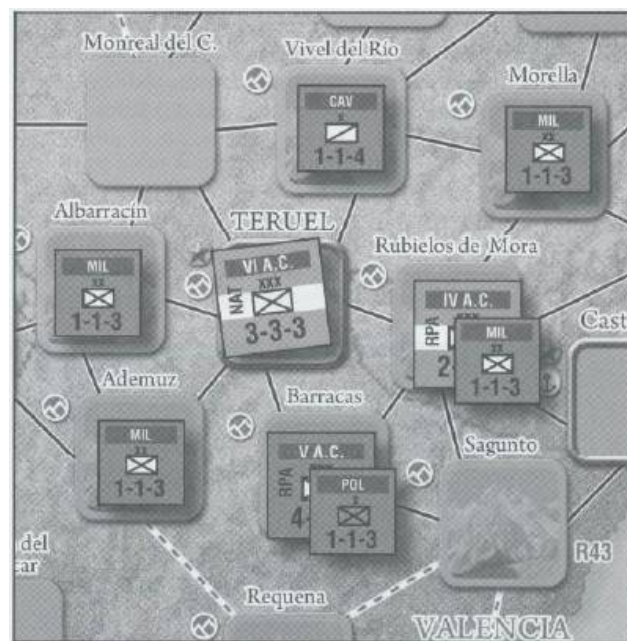
共和国軍プレイヤーは2の目を振り、自身の+2DRMを加えて合計が4となり、射撃表上で4損失ナンバーを与えます。反乱軍プレイヤーも2の目を振り、自身の+1DRMを加えて合計が3となり、射撃表上で3の損失ナンバーを生み出します。

反乱軍プレイヤーは、自身の損失（4）を、軍団規模ユニットと師団規模ユニットの両方を減少させることで割り振ります。共和国軍プレイヤーは、自軍の軍団規模ユニットの1つを減少させて、要求された全ての損失（3）を吸収します。共和国軍プレイヤーは、反乱軍プレイヤーよりも高い損失ナンバーを与えたため、戦闘に勝利しました。共和国軍プレイヤーは、このターン中の未来の使用のために、プレイしたCCを卓上に保持します。反乱軍プレイヤーは、戦闘に敗北したため、自身のCCを捨て札しなければなりません。

ここで、防御側（この場合には反乱軍プレイヤー）は、1の差で戦闘に敗北したことにより、生き残っている全ユニットが1スペースの退却を要求されます。ただし、防御スペースは山岳を含み、その地形が1ステップの追加損失を被ることで退却を無効にする選択肢を与えます。反乱軍プレイヤーは、テルエル [Teruel] の維持を望むため、POL 師団規模ユニットに追加の1ステップ損失を適用し、退却を無効にすることに決めます。このユニットはすでに減少状態（裏返し）なので、このステップを失うときに除去されます。

防御側が自軍の退却を無効にしたため、攻撃側は前進できず、戦

闘は終了します（そして、前の状況と同様に、イベントの特別な効果は生じません。この場合、共和国軍プレイヤーが勝者でしたが、カラのスペース内に前進しませんでした）。



## 20.2.3 状況III [Situation III]

共和国軍プレイヤーは4の目を振り、自身の+2DRMを加えて合計6となり、射撃表上で5の損失ナンバーを与えます。反乱軍プレイヤーは、3の目を振り、自身の+1DRMを加えて合計4となり、射撃表上で4の結果を生み出します。

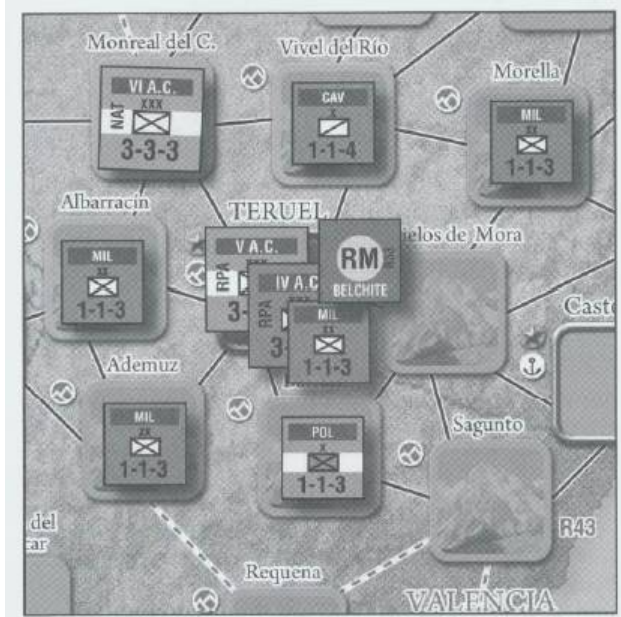
反乱軍プレイヤーは、自軍の軍団規模ユニットを減少させ、師団規模ユニットを除去することにより、自身の損失を割り振ります。共和国軍プレイヤーは、自軍の1軍団規模ユニットと1師団規模ユニットを減少させることにより、自身の損失（4）を行います。同じ損失ナンバー（4）を被らなければならず、自軍の軍団規模ユニットの1つと師団規模ユニットの1つを減少させます。共和国軍プレイヤーは、反乱軍プレイヤーよりも高い損失ナンバーを与えたため、戦闘に勝利しました。共和国軍プレイヤーは、このターン中の未来の使用のために、プレイしたCCを卓上に保持します。ただし、反乱軍プレイヤーは、戦闘に敗北したため、自身のCCを捨て札しなければなりません。

ここで、防御側（この場合には反乱軍プレイヤー）は、1の差で戦闘に敗北したことにより、生き残っている全ユニットが1スペースの退却を要求されます。ただし、防御スペースは山岳を含み、その地形が1ステップの追加損失を被ることで退却を無効にする選択肢を与えます。反乱軍プレイヤーは、テルエル [Teruel] の維持を望みますが、退却を無効にするために追加の1ステップ損失を被らなければならず、スペース内に1つの減少戦力軍団規模ユニットのみを持つため、ジレンマに直面します。もしも退却を無効にすると、軍団規模ユニットを除去しなければならず、予備ボックスからの師団規模ユニットによって置き換えられることになります。反乱軍プレイヤーは、テルエルを保持することが軍団規模ユニットの除去に値するか決断しなければなりません。

反乱軍プレイヤーは、退却を無効にするために要求される追加ステップ損失を行うことによる支出が高すぎるため、テルエルを保持することができないと決めます。そして1の差で戦闘に敗北したこ



とにより1スペース退却します。ここで共和国軍プレイヤーは、参加しているいずれかのユニットを防御スペース内へ前進させることができます。共和国軍プレイヤーは、両方の軍団規模ユニットと師団規模ユニットの1つで前進することに決めます。他の師団規模ユニットは、スタッキング限度を破るため前進できません。



イヴェントは共和国軍反撃の1つだったので、イヴェントの説明文に従ってテルエル占領の通常のVPとRM修正に、イヴェント「戦略反撃（ベルチテ）」と連動する+1RMを追加します。次に、共和国軍プレイヤーは、テルエルが反乱軍によって奪回されるまでいまや+1RMの価値を持つことを忘れないよう、スペース内に一致する+1RMマーカーを置きます。

## 21.0 初心者プレイヤーのためのアドバイス [ADVICE FOR NOVICE PLAYERS]

### 21.1 戦隊の戦争段階 [War of the Columns Phase]

#### 反乱軍プレイヤー [NATIONALIST PLAYER]

開始直後から、あなたは非常に攻撃的な態度で主導権を維持しなければなりません。共和国軍プレイヤーは、あなたよりも多くの領土を支配し、そこを防御するためにより多くのユニットを持ちますが、あなたのユニットは優秀で、特にアフリカ駐屯軍が優れています。あなたは攻撃するために常時優越した質の優位性を使わなければなりません、自軍ユニットが損失を被って戦力が低下することも忘れてはなりません。

マップを見て、いくつかの目標を確認します。:

- ・「弾薬欠乏」ルールを無効にするため、あなたの支配下にある2つのゾーン、南部と北部を連結する。
- ・マドリード [Madrid] に接近し、首都を攻撃する。
- ・攻囲を解放する。
- ・孤立スペースを連結する。
- ・自軍支配下の領土を防衛し、将来の作戦を容易にする新たな共和国軍スペースを征服する。

これらの目標を全て満たすのが困難であることが分かるので、各ターンに可能な限り最良の成功を達成するために、望ましい選択肢にアプローチしなければなりません。

#### 作戦:

自軍ユニットで移動して攻撃するために、あなたはオペレーション (OPS) としてカードをプレイする必要があります。最初の明確な目標は、弾薬欠乏を解消するためにあなたが支配する南部の小さなゾーンと、北部の大きなゾーンを連結することです。これを行う論理的で歴史的な道筋は、あなたの側面を防護している友軍のポルトガル国境を持つ、エストレマドゥラ地方を通してです。さらに、可能な限り早期にバダホス [Badajoz] の征服を試みることです。なぜならば、そこは共和国軍の補給源として極めて厄介な場所となり得るからです。

いったん2つのゾーンが連結したら、マドリード [Madrid] があなたの「優先目標」です。首都を激しく攻撃しなければ、勝利ポイント (VP) を失うことになるのを忘れないでください。マドリードの後には、広範囲の可能性が開けます。: 東アンダルシア地方、北部戦線、アラゴン [Aragon] 地方、シウダー・レアル [Ciudad Real] 等々です。あなたは敵の反撃を受け易い弱点の自軍領土を防護しつつ、どこを攻撃するのか決定しなければなりません。特に、相手が優秀な T-26 ユニットを持つ場合は要注意です。

孤立スペースの防護と攻囲の解放は重要です。その結果は、短期的には意味がないように見えますが、長い目で見るとこれらの VP や共和国軍の士気 (RM) ポイントは、勝敗を分けることになり得ます。オビエド [Oviedo] は、共和国軍プレイヤーにとって穴場ですが (もしも孤立スペースの間に征服すると1VPを獲得します)、良く防護されており、開始時にアストゥリアは民兵の連携欠如を被ります。グラナダ [Granada] への接触を行うことは、そこの陥落を回避して東アンダルシア地方を脅かすために有効です。攻囲の解放は常に大勝利ですが、大きな収穫は1VPを与えるアルカサル [Alcazar] です。ただし、孤立スペースを解放しているときには、前に出すぎて分断されないよう注意しなければなりません。なぜなら

ば、そのスペースは孤立状態ではなく OOS になるからです。

## イベント：

確実にプレイしなければならない、いくつかの歴史的イベントがあります。最も明白なそれは、この戦争段階にのみプレイできて VP を調整するイベントです（「フランコの指揮権掌握」と「イタリアとドイツの国家主義スペインの承認」）。「赤色テロ」のプレイはまだ勧めません。なぜならば、次の戦争段階でプレイできる価値を持つカードだからです。

外国の支援に関係するイベントは、極めて重要です。あなたはそれらのカードを入手する順番や相手側のアクションに応じて、プレイを決定しなければなりません。通常、「枢軸国の支援」は、可能な限り早くプレイすることが有効です。外国の増援をプレイできるようになるだけでなく、枢軸軍の補充ポイント (RP) が極めて価値を持つからです。これは 5 の OPS 数値カードなので、他の方法に使用して後の手札に戻ってくるのを待ちたくなりますが、遅延は非常に高くつきます。イタリア軍と装甲ユニットは、攻撃するユニットや前線を埋めるユニットが不足していると感じられる緒戦時ににおいて非常に有効です。これらのカードの何枚かは、もしもプレイ可能となる前のターンに配られても、次のターンになるまで未プレイで手札に保持しておくことで、重要度を高めることさえできます。

共和国軍の反撃を避けるため、又は彼らに失敗を強いるための、「航空機が民兵を散らす」、「背信」、「民兵の訓練不足」のようなあなたを手助けする何枚かの非常に有効な戦術カード (CC) を持ちます。もしもこれらをプレイできるのであれば、そうしてください。なぜならば、これらはあなたを窮地から救い、この戦争段階の後に大部分は CC として使用できないからです。これはあなたのデッキ規模を減少させる手助けもし、より重要なカードを迅速に循環させることになります（これは、特に次の戦争段階で実現します）。

あなたは「海峡封鎖の終了」イベントをプレイするか否か、このカードを最初に入手したときに迷うかもしれません。これは目立った効果を持たず、短期的に OPS 又は他のアクションとして使用するのが有効に見えることは事実ですが、アフリカ駐屯軍の到着スピードを速めるのが常に高い価値を持つことを忘れないでください。いずれにしても、あなたは地中海の港湾を使用して、軍の戦争段階で強力な「封鎖艦隊」イベントをプレイするために、いつかのイベントをプレイしなければなりません。

「飢饉」は、すぐに結果が出ないイベントですが、長い目で見ると決定的となり得ます。あなたは、これをプレイするか又は高い数値のカードとしてデッキ内に保持するかを決めなければなりません。もしもあなたが可能な限り多くの共和国軍士気の低下を試みているのであれば、これを戦線の戦争段階の終了前にイベントとして使用しなければならず、相手が「厳冬」をプレイしていたら特にそうです。

## 他のアクション：

補充ポイント (RP) を軽視しないでください。たとえばあなたが被った損失が共和国軍プレイヤーのそれよりも少なかったとしても、あなたのユニットは少なく、前線全体をカバーして攻撃を發動するための十分なユニットを持ってません。アフリカ駐屯軍のユニットは RP を受けられないため、これらが徐々に減るにつれて他のユニットに損耗の負荷がかかることを忘れないでください。あなたのカード「臨時少尉」は、RP として使用するとき特に有効なので、可能であればその目的に使用するように試みてください。

## 特別な助言：

あなたは、セビリャ [Sevilla] を保持しなければなりません。ここは、南部におけるあなたの唯一の補給源で、北部ゾーンと連結しない限り、ここなしでは南部ゾーン内の全ユニットが非補給下 (OOS) となります。もしもこの連結前にセビリャを失うと、その不利は大きく、おそらくは降伏するかやり直すべきです・・・

ゲームのこの段階では、アフリカ駐屯軍のユニットは、攻撃で常に最初の損失を被ることになりますが、残りはそうではありません。そこで、損害の残りを吸収できるようにするため、攻撃では常に他のユニットを含めます。あるスペース内に、アフリカ駐屯軍ユニットを単独で放置しないよう試みてください。なぜならば、共和国軍プレイヤーがこれらの急速な消耗を狙って攻撃してくるからです。

共和国軍の CC 「作戦命令書の捕獲」は、真に痛いカードとなり得ます。その使用を防ぐ術はありませんが、可能であればその使用を予想して計画を立ててください。

あなたの予備ボックス内でゲームを開始する民兵ユニットは、極度に高い価値を持ちます。なぜならば、ゲーム開始時には、孤立スペース又は侵攻の可能性があるマヨルカ島のどちらかを増強するために使用できる唯一のユニットだからです。追加のユニットが来るか又は危機が過ぎるまでは、予備ボックス内に保持することを試みてください。

「マヨルカ島上陸」イベントは、真実の脅威です。もしもこれが起きると、可能な限りマヨルカ [Mallorca] を防御してください。予備から民兵を持ってくるか、もしも海峡を支配していたら港湾からユニットを移動させるか、マヨルカを増強するためにマップから予備へユニットを配置転換し、陣地の構築を試み、自軍 CC を使用してください。もしもマヨルカを失うと、島の奪回が不可能であるため（選択ルール 18.2.12 と 18.3.7 が使用されていない限り）、あなたは永久に 1 VP を失って相手は 1 士気ポイントを勝ち取ることになります。さらには、軍の戦争段階に「封鎖艦隊」イベントをプレイすることがかなり困難となります。普通、あなたが強力に防御すれば、侵攻は失敗します。

## 共和国軍プレイヤー

あなたは、反乱軍よりも多くのスペースとユニットを支配してゲームを開始しますが、あなたの部隊の質はかなり低く、守勢強いられることとなります。反乱軍プレイヤーは、勝利条件を達成することによってのみあなたを打ち負かすことができるため、攻撃と領土征服を強いられます。あなたの戦略は、慎重で柔軟な防御と選択した局地的反撃の組み合わせになります。

マップを見て、いくつかの目標を確認します。：

- ・セビリャからのアフリカ戦隊の前進を遅滞させる。
- ・あなたの軍と前線を補強する。
- ・攻囲を減少させる。
- ・孤立スペースを征服する。
- ・主要スペースを強力に防衛し、戦闘比が立つときに反撃する。

全てを成功裏に達成することはほぼ不可能なので、この戦争段階で成功を獲得する優先順位をつけなければならず、困難な選択に直面するラウンドがあるかもしれません。

## 作戦：

セビリャ [Sevilla] からエストレマドゥラ [Extremadura] 地方を通しての前進を妨げることは、ほぼ不可能です。もしも反乱軍プレ



イヤーがそれを行うと、遅かれ早かれ2つのゾーンを連結します。前進を遅らせて、よりコストをかけさせるのがあなたの義務です。ただし、防御し難い場所で多くのユニットを犠牲にすることはなりません。なぜならば、あなたはそれらを他の重要な領域で必要とするからです。ここに、あなたがいつ何時でも適用しなければならない**格言**があります。：遅滞のためにいくつかのユニットを犠牲にすることは良いアイデアですが、よほど重要なスペースでない限り、あまりにも多くの犠牲を出すことは誤りです。

この戦争段階中のあなたの**重要なゾーン**は、北部戦線、アラゴン [Aragon] 地方、シウダー・レアル [Ciudad Real]、東アンダルシア [Eastern Andalusia]、上記の全てに加えて**マドリード [Madrid]** とその周辺スペースです。疑いなく、あなたはこれらのスペースをいくつか失うことになりますが、あなたの目標は可能な限りこれらの領土を無傷で保持することです。エストレマドゥラ [Extremadura] 地方とマラガ [Malaga] は防御が困難なゾーンで、いずれは陥落することになります。

あなたの主要な関心事は防御ですが、可能であれば**反撃**も発動しなければなりません。ただし、限定的で明確な目標を持つべきです。あなたの部隊は質が劣り、初期の民兵は連携が欠如し、敵の CC は多くの攻勢を頓挫させます。敵の脆弱な前線を攻撃すると、反撃で重大な問題を引き起こすことができ、敵の増援を引きつけることも忘れないでください。

**攻囲**は、最初の印象よりも重要です。原則として、シマンカス要塞は問題ありません（安全なゾーン内にあり、遅かれ早かれ陥落します）、サンタ・マリア・デ・ラ・カベサ [Santa Maria de la Cabeza] 修道院とトレドのアルカサル [Alcazar of Toledo] には、注意を払わなければなりません。攻囲の降伏は成功（しかも貴重な共和国軍士気ポイントの損失を回避できます）ですが、アルカサルの降伏は1VPの損失も回避できます。もしも強襲を行うための OPS を得ることができなければ、少なくともこの戦争段階の終了前に反乱軍がこれらを救出することを回避してください（アルカサルの場合は、かなり困難かもしれません）。

2つの**孤立スペース**は、あなたを異なる状況に置きます。もしも相手がグラナダ [Granada] に十分な注意を集中させなければ、容易に征服できそうで、そこは東アンダルシア地方を防御するための良好な山岳です。オビエド [Oviedo] は、もしも孤立スペースの間に征服すると1VPを得るので魅力的ですが、自重してください。ここを奪取するのは容易でなく、あなたは民兵の連携欠如を被ります。反乱軍プレイヤーは、そこを増強でき、さらに悪いことに、あなたはアストゥリアスの外辺防御を弱め、敵の破滅的な突破を容易にします。

## イヴェント：

相手側の場合と同様に、あなたのカード・デッキはVPの得失に関係するいくつかのイヴェントを持ち、この戦争段階の終了前にプレイされなければ1VPの罰則を課す「ラルゴ・カバリェロ政府」は特にプレイしなければならず、一方、「外国の支援」は1VPを加えます。ここでは「白色テロ」は使用しようとししないでください。なぜならば、次の戦争段階でプレイ可能な数値が高いカードだからです。

**外国の支援**に関連したイヴェントは、あなたにとって非常に重要です。「ソヴィエトの軍事支援」は、ソヴィエトのRPを活性化させ、重要な「ロシア製戦車」増援のプレイも認めます。強力な T-26 ユニット（ゲーム内で最高の師団規模ユニット）は、あなたの危機を救い、敵が以前は安全と思っていた場所での攻撃を認めます。

イヴェント「奴らを通すな！」は、マドリードの防衛に重要です。敵が遠いと考えて、このカードを他のアクションとしてプレイすることは非常に注意してください。敵は瞬く間に前進して、イヴェントがあなたの手札に戻る前に首都を征服できます。このカードをプレイするときには、サン・マルティン・デ・ラ・ベガ [San Martin de la Vega] に2番目の塹壕を置くのが良いアイデアで、マドリードとマドリデホス [Madridejos] 間に強固な戦線を創出します。

## 他のアクション：

補充ポイント (RP) は、あなたがより多くの損失を被るので、反乱軍よりも重要です。あなたは、各ターンに望むだけ高い数値のカードを RP としてプレイしなければなりません。蓄積した RP を消費する場所をよく計画してください。例えば、北部戦線では地方ユニットのみを使用できるため、減少ユニットに「目を凝らし」て撃破されたユニットを再建することを忘れないでください。さもなければ、この領域を防御する部隊がないことに気づくでしょう。反乱軍と同様に、あなたのカード「第5連隊」は、RP としてプレイするとき特に有効なので、可能であればそのように利用することを試みてください。

## 特別な助言：

**アフリカ駐屯軍**ユニットは、反乱軍攻撃の予先を生み出します。これらは優秀なユニットですが、攻撃に参加するとき最初に損失を被らなければならないことを忘れないでください。そこで、これらに対して防御するときに、少なくとも2戦闘値を持つよう心掛けられ、ほぼ確実に（「1」のサイの目以外）1ステップを失います。もしも反乱軍プレイヤーがアフリカ駐屯軍ユニットを単独でスペース内に放置していたら、それらを減少させるために攻撃することができます。なぜならば、損失を吸収するための他のユニットが存在しないからです。

あなたの「**作戦命令書の捕獲**」カードは非常に強力で、正しい瞬間に使用しなければなりません。少なくとも3戦闘値を持つときにプレイするよう試みてください。決して2未満ではありません。もちろん、サイの目はあなたを気落ちさせるかもしれませんが、反乱軍に大きな損害を与える可能性を秘めています。

「**マヨルカ島上陸**」は、魅惑的な選択肢です。カードは高い数値を持ちますが、島征服の成功は真の価値を持ちます。あなたは OPS を消費し、おそらくは SR で橋頭堡へ増援を送らなければなりません。それでも、反乱軍プレイヤーの断固とした防御に対する成功の可能性は高くありません。しかし、マヨルカの征服はあなたに永久的な1VPと1MRポイントをもたらす（選択ルール 18.3.7 が使用されない限り）、反乱軍プレイヤーの「封鎖艦隊」イヴェントのプレイを恐ろしく困難にすることも考慮してください。もしも侵攻に失敗しても、2つの民兵ユニットを獲得したとして自らを慰めてください。

**陣地**を構築することは、現在脅かされている前線と後にそうなる前線（北部戦線やアラゴン [Aragon] のような）の両方について良いアイデアです。

「**厳冬**」イヴェントは、ジレンマを抱えます。片や、プレイすると低い数値のカードをあなたのデッキから取り去ることになり、次の冬季中に敵の作戦を遅滞させます。他方で、もしも反乱軍プレイヤーが「**飢饉**」をプレイすると、あなたは追加の士気ポイントを払うことになります。あなたは、イヴェントをプレイすることの損得を天秤にかけなければなりません。

最後に、あなたは、前線のいくつかの主要スペースに注意を払わなければなりません。：マドリードの北のソモシエラ [Somosierra]



とブリウエガ [Brihuega] と東部へのクエンカ [Cuenca]。これらの位置のいずれかの損失は、破滅的な突破口となり得ることを意味するため、可能な限り迅速に増援を送り、可能であればこれらのスペース内に陣地を構築してください。これは、適切に防御されなければ反乱軍プレイヤーに多くの通路を開けることになるロハ [Lojal]、グアディクス [Guadix]、ハエン [Jaen] にも当てはまります。

## 21.2 動員段階 [Mobilization Phase]

### 反乱軍プレイヤー

いったん戦線の戦争段階が終了すると、最初の軍団規模ユニット（軍軍団）が配置され、ゲームは非常に異なる段階に入ります。あなたは質的優位性を保ち、いまだに主導権を持ちますが、共和国軍プレイヤーはより多くの部隊を持ち、かなり反撃できる能力を証明することになります。

あなたの最初の目標は、**北部戦線を終焉させる**ことです。共和国の他の領土から孤立しているため、新たな増援を受取れず、その征服はあなたに VP をもたらし、RM を減少させ、各ターンに共和国軍 RP を 1 減少させ、多数のユニットを他の戦線へ解放します。

新たな段階を開始する前に、両プレイヤーは**自軍の最初の 10 個の軍団規模ユニットを配置**します。これらのユニットの配置は、作戦の行程に大きく影響するため、非常に重要です。これらを常にあなたが攻撃を計画する場所近く又は価値が高いゾーンを防護できる戦線内に置いてください。

北部戦線の攻撃を成功させるために、あなたは強力な部隊を必要とします。もしも少ない軍軍団を配置すると、あなたの前進はゆっくりで、敵は陣地や塹壕を構築し、補充を通じて損失を回復する時間を持つことになります。多数の軍団規模ユニットを配置することは、他の戦線を不利な状況に押しやることも事実です。あなたは均衡も見なければならず、通常、北部戦線に 4 又は 5 個の軍軍団あたりが賢明と思われ、それらの大部分をアストゥリアス又はバスク地方に集中させます。

### 作戦：

**北部戦線**が最初の目標なので、あなたは可能な限り迅速に征服するための作戦を計画しなければなりません。あなたは、非連携の影響がこれら 3 つの地方にもたらす影響の優位性を生かし、それぞれの地方を順番に攻撃しなければなりません。最初の決定は、攻勢を開始する場所です。

最初に**アストゥリアス [Asturias]**を攻撃することは、多数のユニットを持つ地方と争うことを意味し、その防御を強力にする時間を与えません。さらには、西から東への前進は、あなたのユニットを未来の目標、特にアラゴン [Aragon] に近づくことを意味します。**バスク地方 [Basque Country]**から開始することは、対になるイベント（「鉄環の計画」と「サントーニャ協約」）があることで動機を持ち、迅速にプレイすることが興味深く、前進を容易にすることになります。普通、サンタンデル [Santander] から開始する選択は、近隣の地方が山岳の回避を不可能としているため、うまくありません。

北部戦役を実施している間、あなたは他の戦線で数的に劣勢となるので、共和国軍の反撃に目を光らせていなければなりません。あなたは、価値が低いいくつかのスペースを諦めることができますが、後に回復が厄介になるような重要地点：テルエル [Teruel]、グラナダ [Granada] 等）は防御します。

他の戦線で**好機**に見えることが起きることもあります。必要であ

れば増援を送ってその優位性を生かすべきですが、北部戦線の主攻勢を弱めてはなりません。

いったん、北部戦線を終わらせたら、あなたは**次の目標**を決定しなければならず、北部の征服が終わり次第ユニットをそこへ持ってきます。

ひとつ注意すべきは、いったん北部の陥落が定まったように見えたなら、減少戦力の軍団規模ユニットに損失を与えるのが賢明かもしれません。これらは、他の戦線に RP で再建することができます。他の選択肢は遅い（すなわち、OPS で移動毎に 3 スペース移動させる）又は高価（軍団規模ユニット毎に 3 SR ポイントで SR を介して）です。

### イベント：

VP を認めるイベントは、最重要です。あなたは、この戦争段階中に、後にプレイできない「赤色テロ」のプレイを望むでしょう。「僧侶の共同書簡」は後に使用できますが、3 の数値カードに過ぎないので、可能な限り早くプレイする方が良いでしょう。

「共産主義者の干渉」は、比較的低いコスト（そのラウンドに 1 OPS のみを行う）で、そのターン中に共和国軍の大規模攻勢に対する安全を与える、興味深いイベントです。「ネグリン政府」後には使用できないため、手札にきたら直ちにプレイしてください。

「5月事件」は、もしも共和国軍プレイヤーがいまだに「ネグリン政府」をプレイしていなければ 2 RM ポイントを差し引くので、手札に得たら直ちにプレイします。たとえ 1 ポイントのみを差し引くとしても、価値があります。もしも最終ラウンドにプレイすると、共和国軍プレイヤーが RP やイベントのプレイを望んでいたときに、OPS や SR の使用を強いることができます。

「攻勢」は、あなたの攻撃を増大するために非常に有効ですが、4 OPS カードの高い価値を持つため、後のためにこのイベントを取っておくことも選択できます。

### 特別な助言：

各ターンに「**反乱軍の増援**」（軍団規模ユニット）をプレイしてください。それを行わないことは、あなたの軍の動員が遅延することを意味し、もしも共和国軍プレイヤーが自軍増援カードを随時プレイすると、あなたは数的劣勢に押しやられることになります。これは、続くターンに余分な「**反乱軍増援**」カードを残すことも意味します。

**アスタリスクを持つ 2 OPS 数値のカードをイベントとしてプレイ**することは、低い数値のカードをデッキの外に出し、より価値が高いカードの循環をスピードアップさせるので、常に良いアイデアです。

あなたは、可能な限り早く**RM の減少**を試みなければなりません。あなたの最初の目標は、15 ポイント以下に落とすことで、あなたの手札枚数を増やすことです。

この戦争段階から、**敵のゾーンを分断**することは、1 RM ポイントが失われることを意味します（ゲーム毎に一度）。共和国軍プレイヤーが分割ゾーンを回復して RM を得ないように保ちます。

北部戦線の終了は、2 RM ポイントの減少を意味しますが、終わらせるためには、その全スペースを支配しなければならないことを忘れないでください。アストゥリア師団規模ユニットは、アストゥリアス内で OOS のときに除去されないため、戦闘で除去しなけれ

ばなりません。

## 共和国軍プレイヤー

戦争段階の変化は、ゲームの大きな変化を意味します。あなたは、いまだに自軍部隊の質的劣勢を被りますが、防御能力は劇的に向上し、有効で威圧的な反撃の発動を開始できるようになります。

最初の 10 個軍団規模ユニットを配置するときには、北部戦線の 4 つの配置に多くの選択肢がないことに注目します。いずれにしても、反乱軍プレイヤーは、最初に自軍ユニットを配置するので、あなたは有利に最後の軍団規模ユニットを悪い防御ゾーンに置くことができます。良い戦略は、あなたの地方軍団規模ユニットを最初に配置することです。なぜならば、上記のごとく、その配置選択肢が限られているからです。

## 作戦：

愚かな考えは棄ててください。敵がよほど重大な誤りを犯さない限り、北部戦線の結末は動かせません。ただし、あなたは存在している地方ユニットで避けられない運命の遅延を試み、可能な限りその防衛を望むことになります。北部の陥落を遅延させることを最終目的に、あなたは他の戦線で陽動作戦を発動できます。

北部戦線が存在する間、反乱軍プレイヤーは他のゾーンには少ない部隊を持つことになりがちです。あなたは、これらの状況を利用して攻撃を発動し、敵に増援を送ることを強制して、運が良ければ価値が高いスペースの征服さえできます。反乱軍プレイヤーの焦点を集めることは危険です。なぜならば、暴力的な反撃を引き起こすかもしれないからです。

マドリード [Madrid] とアラゴン [Aragon] の主要ゾーンは、蔑にできない状況にあります。実際、この戦争段階の開始は、未来の反乱軍の攻勢を止めるため非常に重要な事前防御（陣地と塹壕）のために使用することを試みてください。

## イベント：

可能であれば、VPs を与えるイベントを未プレイの状態に残してはなりません。あなたは、この戦争段階中に「白色テロ」をプレイしなければなりません。なぜならば、後にはプレイ不可能だからです。あなたは、「ゲルニカ」の使用後のプレイのために残しておくことができますが、3 の数値カードに過ぎないので、可能な限り早くプレイするのが良いでしょう。

この戦争段階での大きな決定は、「ネグリン政府」をプレイするか否かです。利点は、明白です。：反乱軍のイベント「共産主義者の干渉」を無効にし、「5月事件」による RM の損失を 1 ポイントに減少させ、1 RM ポイントを加えて多くの強力なイベントのプレイを認めます。ただし、これをプレイするときには、5 OPS のカードを失い、相手側に軍の戦争段階での「国際旅団の撤退」のプレイを認めます。あなたは、現在の状況下で損得を天秤にかけなければなりません。普通は早かれ遅かれプレイする価値があるイベントです。

戦略反撃は重要なので、あなたはそれらを使う場所と時期を慎重に選択しなければなりません。3 枚中の最良カード（テルエル [Teruel]）は、価値が高い 4 OPS のカードです。あなたは後のために取っておくか、又は RM 減少への巻き返しと価値が高いスペースの征服に使用できます。

## 特別な助言：

各ターンに共和国軍の増援（軍団規模ユニット）カードをプレイしてください。それを行わないことは、あなたの軍の動員が遅延することを意味し、もしも反乱軍プレイヤーが自軍増援カードを随時プレイすると、あなたは数的劣勢に押しやられることになります。これは、続くターンに余分な「共和国軍増援」カードを残すことも意味します。

「戦車増援」は、プレイしなければなりません。なぜならば、あなたの装甲ユニットの質は、防御と攻撃の両方で非常に有効だからです。

この戦争段階から、敵のゾーンを分割することは 1 RM ポイントを意味します（ゲーム毎に一度）。ゲーム中にあなたのゾーンを反乱軍プレイヤーが分割することを妨げるのは非常に困難です。もしもあなたが敵のゾーンを分割する選択肢を持つのであれば、ためらわずに試みてください。それだけの価値はあります。

RP は、やはり最重要です。あなたの軍隊を強力に保つために、十分な RP を蓄積することを試みてください。

## 21.3 軍の戦争段階 [War of the Armies Phase]

### 反乱軍プレイヤー

最後の 7 ターンは、ゲームを決定するときです。明らかに、ここまで起きたことは直接あなたの勝利に影響しますが、まだ不意を衝く余地があります。共和国軍プレイヤーは、抵抗するだけで勝利するので、この戦争段階は時間との競走になることを忘れないでください。

## 作戦：

この時点で、北部戦線はすでに陥落しているので（他の戦線で大きな成功を収めていない限り、そうならないのであればまずい事態です）、あなたは全ユニットを一つの戦線に集中できることになりますが、それは非常に長大なものとなります。あなたは、共和国軍プレイヤーが塹壕や事前に強固な防御を構築させないよう、どこを攻撃してどれだけのエネルギーと速度を持って行うかを選択しなければなりません。

あなたは、目標の選択において複数の目標を持ちますが、疑いなく VP が集中する場所はカタルーニャ [Catalonia] とマドリード [Madrid] です。首都は、通常厳重に守られていますが、包囲を試みる価値はあります。ただし、有能な敵に対しては、極めて困難となります。カタルーニャへの進撃は、フランス国境から共和国軍のゾーンを孤立させる追加特典を持ち、2 の RM ポイントを減少させます。南部にはあまり魅力がありませんが、もしも到達範囲内に VP があれば無視することは賢明ではありません。バレンシア [Valencia] は、全ての目標の中で常に奪取することが最も困難です。

共和国軍の反撃に注意してください。なぜならば、ゲームのこの時点で重要なスペースを失うことは、あなたの進撃を遅延させる危険があるからです。防御が薄い戦線近くの重要なゾーンを空けたままにしないよう心掛けてください。

## イベント：

あなたは、可能な限り早く「ソヴィエト支援の縮小」と「封鎖艦隊」をプレイしなければなりません。なぜならば、これらのイベントは共和国軍の RP を減少させるからです。



「恐慌」は重要な戦闘イベントで、使用するときには最大限の効果を発揮させなければなりません。その効果は、いかなる共和国軍の防御も崩壊させますが、その制限に注意してください。：敵の塹壕を無効にしますが、山岳の効果は無効にせず、敵を退却させるため戦闘に勝利しなければなりません。使用後に、あなたはこのカードを捨て札しなければならないため、ゲームの終了前に再び手札にする機会は2～3回のみです。

「ミュンヘン協定」は、もう一つの必須イベントです。その効果は重要なので、あなたは可能な限り早くこれをプレイすべきです。

「カサドのクーデター」のプレイは、チェックメイトによる勝利を意味します。これをプレイするためには、状況があなたに極めて有利でなければならず、特に RM が非常に低いことを意味します。あなたがすでに勝利条件を達成しており、イベントが不必要な場合もあり得ます。その真価は、あなたが十分な VP を獲得していないものの、なんとか RM を非常に低いレベルに減少させた場合に、勝利のチャンスを保証することです。

### 特別な助言：

この戦争段階のカード・デッキ内には、増援カードが2枚のみで、両方とも価値が高い（4OPS）ですが、ユニットは高い質ではありません。それでも、通常は数で圧倒されることを避け、特定の戦線により多くの軍団規模ユニットを創設するためにこれらをプレイする価値はあります。

RM を低下させることは、いまやさらに重要です。もしも 10 以下に到達すると、共和国軍プレイヤーは手札に6枚のカードのみを持ちますが、上記の全てに加えて、あなたはいくつかの大きなイベントをプレイできるようになります。

行き詰った戦線に、多数の軍団規模ユニットを集中し過ぎることに注意してください。なぜならば、それらを他の場所へ迅速に再配置するには非常にコストがかかり、共和国軍プレイヤーが他の遠い地点を攻撃するための優位性を獲得できることになるからです。

### 共和国軍プレイヤー

疑いなく、最終戦争段階におけるあなたのモットーは、「抵抗は勝利」です。もしも何とか反乱軍の勝利を妨げることができれば、あなたは勝利します。それ故、あなたは可能な限り防御し、敵の進撃を阻むために掌中の全てを用いなければなりません。

### 作戦：

あなたは、後退している領土、特に価値が高い大部分のゾーンで防御を倍増しなければなりません。マドリード [Madrid] はそれ自体あまりにも重要で、首都を失うことはほぼ敗北を意味することを忘れてはなりません。バレンシア [Valencia] は、もしもあなたが正面の山岳スペース周辺を保持すれば、容易に防御可能です。南部の危険は少ないように見えますが、もしも反乱軍プレイヤーがすでに十分東方へ進撃している場合は、特に防御を怠ってはなりません。戦争は、多くの接近路を持つ領土で、主要都市を含む4VPsが集中したカタルーニャ [Catalonia] で決せられます。ここは、フランス国境から共和国軍を孤立させる魅惑的な可能性も反乱軍に提供します。あなたは、ここを防御するために全力で闘わなければなりません。

可能であれば、戦線の決壊を防ぎ、戦略退却を容易にするため、二線防御を構築すべきです。「要塞化建造物」イベントは、このために非常に有効です。

あなたが発動する反撃は、それが正しい時期と場所に行われる限り、勝利の鍵となり得ます。これらにより、あなたは反乱軍の進撃を混乱させ、又はさらにしばしば、反乱軍プレイヤーの主要な攻勢努力の注意を逸らし、時間を失わせることを強要します。

### イベント：

「フランス軍介入の脅威」は、反乱軍のカタルーニャへの進撃をまるまる1ターン妨げる強力なイベントです。これは反乱軍プレイヤーが可能な限り早く使用するイベント「ミュンヘン協定」後にはプレイできません（ターン14の前にもプレイできません）。もしもこのイベントをプレイしなければ、少なくともあなたは自軍デッキ内に4OPSカードを保持することになります。

「フランス国境の開放」は5OPSカードなので、保持しておく価値はありますが、このイベントは価値が高いので決定的な瞬間まで取っておくことができます。もしもプレイすることを望むと、あなたはフランス国境へ連結した友軍補給源を必要とすることを忘れないでください。

「戦略反撃：エブロー」は、あなたの最も強力な反撃カードで、占領したスペースを保持する限り1VPを与えます。ただし、これは反乱軍プレイヤーに危険なイベント「反撃攻勢」のプレイを認めるため、もしもこのイベントのプレイを望むのであれば、ゲームの終盤まで待つて敵の対応への対処を試みます。

これに加えて、デッキ内に残されたRMを増加させる全イベントをプレイすることは、RMが低くなり過ぎないようにするため、常に賢明です。

この戦争段階のデッキにおける2枚の増援カードは、非常に価値が高い（4OPS）ものです。ただし、明確に数で圧倒されることを避け、崩壊しつつある防御を増強するために、ほぼプレイは必須です。

「抵抗は勝利」CCは、非常に重要です。なぜならば、これはあなたに反乱軍の進撃を停止させることを認め、さらに良いことには、イベント「恐慌」への対処手段となります。あなたは、これを一度だけ使用できるので、それを考慮に入れてください。

「最後の動員」は、究極の状況でのみ使用し、最後の2又は3ターンより前では決して使用しないでください。なぜならば、その影響でこの時点からあなたの軍は強烈に弱体化させられるからです。

### 特別な助言：

もしもあなたが「ネグリン政府」をプレイしていたら、反乱軍プレイヤーは全ての国際旅団を取り去ることを強いるイベントをプレイすることができます。国際旅団はいずれにしても取り去られるので、可能な限りこれらが戦闘損失を配分されるよう試みます。

反乱軍の戦闘カード「恐慌」には注意してください。なぜならば、これは塹壕の効果を無効にするからです。このようにして、もしも戦闘に敗北しても、あなたは退却を無効にできません。幸運にも、これは山岳に効果を持たず、マドリード [Madrid] 又は首都に隣接するスペース内では使用できません。

もしも反乱軍がバルセロナ [Barcelona] を奪取すると、都市の北にある全てのユニットが孤立してOOSとなりますが、もしもフランス国境に連結すれば死なないことを忘れないでください。もしも多数の軍団規模ユニットが存在する場合は、あなたが他の戦線を防御するためにこれらを持っていないという大きな問題が生じます。唯一の解決策は、フランス国境が容易に占領されないよう、敵を遅滞させる



ことです。

**RM** に注意し続けてください。その減少は、あなたにとって非常に大きく不利な結果をもたらします。これらの結果を回避するため、それを増加させるイベントをプレイし、**RM** スペースを征服するために攻撃を発動し、あなたの「戦略反撃」カードは、たとえばほんの一時的であれ、やはり何ポイントかを与えることを忘れないでください。

最後に、可能な限り多くの **RP** を蓄積することを試みてください。これらは、強力な防御線を維持するための鍵です。主要都市を失うことや一定の反乱軍イベントによる **RP** 罰則は、各ターンに **RP** のための複数カードの使用をあなたに強制するかもしれません。十分なポイントを蓄積するために、それを行うことを恐れてはなりません。

## 22.0 スペイン内戦の史実概要(1936～1939)

[A BIEF HISTORY OF THE SPANISH CIVIL WAR]

### 導入と注意書き [Introduction and Caveat]

スペイン内戦は、多くの頁数が費やされてきた近代史の一挿話です。驚くべきことに、出版された書籍の大部分は、戦争の社会、経済、政治面について語り、軍事作戦を扱った書物は僅かです。それでも、戦闘や戦役についての興味深い論文や、戦争についての総括的な作品もあり、それらのいくつかはすでに *Crusade and Revolution* の参考文献で紹介しています。

この記事は、スペイン内戦についての詳細な歴史ではなく、軍事的な事柄に焦点を絞った、最も関連がある事実の概要を提供する試みに過ぎません。ゲームの3つの段階に一致する、3つの大きな項目に分割されます。

私は、戦争の起源や原因を調査することは試みません。それらの事柄に興味を持つ方は、これまで出版されたものから、容易に多くの事実を見つけることになります。

最後に、カードの歴史的注釈がここに書かれた多くの補足情報を持つため、私は可能な限りそれらに含まれている情報が重複しないよう心掛けました。何枚かのカードのタイトルは、読者が容易に分かるようテキスト中に**太字**で含まれています。

## 戦隊の戦争 1936年7月から1937年2月

[War of the Columns July 1936 to February 1937]

### クーデターの失敗、戦争の開始、最初の作戦

[Failed coup d'état, beginning of the war and first operations]

反乱軍は、右翼系市民に支援された軍隊によって先導され、スペインとモロッコ保護領全土で民衆が蜂起する、典型的な革命を計画していた。作戦の頭脳と見なされ、「指揮者」とあだ名されたモラ將軍は、作戦の大部分を詳細に計画したが、一部の領域での蜂起の成功はほぼ幸運に委ねられていた。マドリードやバルセロナのような主要都市では、共謀者たちが成功を信じておらず、これらの都市を素早く奪取するために近郊領域から武装集団を組織する計画を立てていた。目標を達成するために極端な暴力を使用する計画には、直接的な相違があった。クーデターは、1936年7月17日にモロッコ保護領で先行して始まり、18日には半島に広がった。不規則な成功は、多様な要素に依存し、いくつかは全くのランダムだった。これは、反乱者が勝利を得られないという混乱状態を導いたが、どちらも簡単には屈しなかった。実際に、革命が大規模になることを避けようとしていた共謀者たちは奮起した。反乱者によって支配されていない領域では、左翼系政党と労働組合が革命の動きを粉碎し始めた。これは政府から権力を奪い、スペインは混沌状態に陥った。

戦争の最初の数日間、前線と類似した不確かな方法で、両陣営は抵抗拠点の掃討と安全確保に時間を費やした。我々は、無秩序と真空地帯が存在したことにも留意しなければならず、戦闘の数はまれで、両陣営の後背領域で起源が不明瞭な**白色テロ**と**赤色テロ**が開始された。

どちらの陣営も、早期に攻勢作戦を計画する能力を実際に持っておらず、主な関心は自軍領土の安全確保に集中した。予想どおり、マドリードでは蜂起が失敗したため、モラは北方から首都へ進撃する戦隊を組織した。ただし、これらは、近郊の山々を防御するためにマドリードから来た部隊によって停止させられた。民兵戦隊の大部分は無政府主義者で、やはり反乱が失敗したバルセロナを離れ、サラゴサへ向かったが、アラゴン地方の大部分が征服された後に、やはり主目標に到達する前に停止させられた。

## 初期の部隊バランス [Initial balance of forces]

7月の最終日から8月の初日までに状況は明白となり、2つのスペイン間でマップ上にラインを引くことは不可能だった。

当初、共和国軍側陣営は広大な領域、多くの人口、特に工業地帯とスペイン銀行の財宝を支配していたため、部隊のバランスは共和国軍陣営に有利に見えた。半島のスペイン軍（ほぼ120,000名）は不均一に分割され、警察部隊（65,000名）についても同じことが起きていた。艦隊の大部分は政府の手中に留まり、空軍の3分の2も同様だった。ただし、35,000名の職業軍人から成るアフリカ駐屯軍は、完全に反乱軍陣営だった。

しかし、状況は共和国軍の有利に進まなかった。最初に、共和国ゾーン（反乱が失敗した領域）内の軍はほぼ消失した。クーデター鎮圧の試みに際して、政府は軍隊の解散を命じた。ただし、国家主義者たちはこの命令に従わず、王室軍隊は極度に弱体化させられた。もう一つの重要な事実は、将来の共和国軍の核となるはずだった多くの将校たちが反乱軍に与したことである。大部分の軍艦は共和国軍の手中にあったが、その将校たちは処刑されるか逮捕されたため、これらは有能な指揮官を持たなかった。政府は、空軍の大部分を掌握したが、航空機は旧式で、間もなく外国の援助を通じて到着する近代的な航空機と比較して性能が劣っていた。

優位をもたらすはずだった可能性を打ち消した重要な要素は、共和国の腐敗だった。左翼に武器を渡し、結果として革命が勃発したことで政府から奪われた権力は、自身の党や労働組合の聞く耳を持たぬ暴徒たちに与えられた。

他方の陣営では、対照的なことが起きていた。当初から、反乱軍領域（初期の反乱が成功した領域）では完全に軍隊の指揮権下に置

かれ、市民当局は軍に追従していた。鉄の規律と団結が、勝利を達成するという単一の目標に重ねられた。

敵対行為の開始から数日後、状況は一見バランスが取れているように見えた。どちらの陣営も戦争の準備ができていなかった。両陣営は、その物理的、人的資源の動員に極めて多くの時間を必要とし、敵に対して決定的な攻撃を發動できなかった。しかし、このバランス状況は、たちまち変化することになった。

## 海峡越えとマドリードへの進撃 [Crossing the Strait and the advance towards Madrid]

国家主義者と自称する者たちの主力は、フランコ將軍の指揮下でモロッコでの過酷で長い植民地戦争の経験を持つ兵士たちから成るアフリカ駐屯軍だった。ただし、政府艦隊はジブラルタル海峡を支配し、海を経由しての半島への移動を妨げていた。その解決策として、反乱軍の助けに応じて史上初の空の架け橋（空輸）が行われ、ドイツとイタリアから送られた航空機が決定的な役割を演じた。

アフリカ・ユニットは、アンダルシア地方に到着し始めたが、極少数でその領域の安全確保を可能にし、8月5日にマドリードへ向けて最初の戦隊が編成されてセビリャを離れた。

戦隊は植民地軍の典型的な小戦闘単位で、数百から数千の戦士から構成された。戦隊の物資や支援は、千差万別だった。その編成は、流動的な戦線、特に混乱した敵に対して十分に機能した。

マドリードへの最短ルートは、Despeñaperros街道を通過するものだった。だが、フランコはやや遠回りになるものの、政府が反乱軍に同情的だったポルトガルの国境線が左側面を防護する、より安全なエストレマドゥラのルートを選んだ。それに加えて、厳しい弾薬欠乏を被っている反乱軍の北部ゾーンと結合するためには、この方法が早かった。





アフリカ戦隊の進撃は電光石火で、最初の4日間に120キロメートル前進し、名に値する抵抗にほとんど遭遇しなかった。8月11日には、メリダ [Merida] を征服し、14日にはバダホス [Badajoz] で最初の組織的抵抗に衝突すると、これを一蹴して町を奪取した。2つの反乱軍ゾーンは一体化され、北部ゾーンへの補給のためのルートが確保された。

次に、反乱軍部隊は右に旋回してマドリードへ進んだ。共和国政府は、反乱軍の急進に不安を感じて、より効果がある組織的防御を試み、使用可能な全ての増援を送ったが、未熟練の兵士たちは古参アフリカ兵の敵ではなかった。9月3日、反乱軍は首都から僅か100キロメートルの重要な連絡接合点であるタラベラ・デ・ラ・レイナ [Talavera de la Reina] を奪取した。その陥落は、ヒラル大統領の辞職とラルゴ・カバリェロ政府の組閣を引き起こし、直ちに権力の回復、民兵の軍隊化、共和国人民軍 (*Ejército Popular de la Republica*) と名付けられた正規軍の創設が行なわれた。これには多大な努力と時間を要した。

### 不干渉委員会と外国援助の開始 [Non-Intervention Committee and the Beginning of foreign aid]

ヨーロッパ列強は、自国の有利にできる算段をして、大きな興味を持ってスペインでの出来事を見つめていた。開始時から、イタリアとドイツは反乱軍部隊に同情しており、増大するハードウェアの要求に迅速に応えた。

大英帝国は、スペイン戦争が国際緊張やヨーロッパ大戦すら引き起こすことを恐れ、事態の孤立化をもくろみ、不干渉委員会を支持した。

フランス人民戦線政府は共和国側に同情的で、戦争の最初の数週間中に戦争資材を送った。ただし、フランスはイギリスの対外政策への支援を強制され、しかも自国そのものが厳しい政治的、経済的、社会的危機に瀕しており、スペインへの介入は一層それを悪化させることになった。フランスの国境は、8月8日に閉鎖された。

ソヴィエト連邦については、スペインは遥か彼方で未知の領域だったが、ヒトラーとムッソリーニの干渉、英仏の静観、共和国政府からの援助要請がスターリンの介入を引き起こした。

これらの列強全てによって調印された不干渉委員会は、大戦間時期最大の茶番の1つで、反乱軍は**枢軸国の軍事援助**を受取り、共和国軍は**ソヴィエトの軍事援助**を受けた。

### トレドのアルカサルとマドリードの戦い [The Alcazar of Toledo and the Battle of Madrid]

タラベラ・デ・ラ・レイナ [Talavera de la Reina] からマドリードへ向けた反乱軍の進撃は止まらなかったが、減速を始めた。片や、アフリカ戦隊は消耗の兆しを見せ始め、長大な補給線の重大さを痛感していた。他方、共和国軍は自軍補給基地に近付き、より多くのユニットを動員し、最初のソヴィエト製武器の船荷を受取り、初の反撃を発動したが失敗した。ただし、敵の前進は遅滞した。

9月後半、自身の部隊と共にマドリードから50キロメートル未満にあったフランコは、兵士たちに進撃路から外れてトレドのアルカサル（石造城塞）の解放を命じた。これは、首都の防衛者に貴重な時間を与えることで、戦略的に疑問を生じさせる決定だったが、疑いなく象徴的な価値を持った。7月22日から、1,800人の親反乱軍軍人と市民が、共和国軍による攻囲下にアルカサル内で抵抗していた。そこは、両陣営にとって執念の場所となっていた。

9月28日の反乱軍のトレドのアルカサル解放は、大きなプロパ

ガンダの成功で、10月1日に反乱軍の指導者たちは、**フランコ**が全軍の「総帥」で国家元首として**指揮権を掌握**することに同意した。

11月6日には、反乱軍の戦隊がマドリード近郊に到着し、共和国政府は陥落寸前の都市を放棄した。マドリードの戦いが開始された。それは実際には、反乱軍と共和国軍が首都を争奪する5ヵ月間の連続した戦いだった。

自軍部隊の優越に頼り、フランコは都市への正面突撃を命じたが、共和国軍の頑強な抵抗に直面して繰り返し失敗した。反乱軍は、このような士気旺盛な目標のための十分な部隊を持たず、密集した建築物地形が戦術的優位性を減殺した。一方、共和国軍は、物的的な増援 (**国際旅団と混成旅団**) を受取っていた。これらは防御戦闘に優れており、その士気は日ごとに高まっていた。結局、マドリードで部隊が証明したスローガン「**奴らを通すな!**」は事実で、都市は難攻不落であることが証明された。

11月23日、フランコは攻撃を中止し、包囲機動を通して首都を奪取することを選択した。1月15日まで続いたラ・コルーニャ [La Coruna] 街道の戦いは、南西戦区を通じて最初の試みだった。反乱軍の攻勢は初期にいくらか成功したが、後に停止した。両陣営は、より多くの部隊を集中させ、マドリード周辺で均衡を破ることは不可能だった。

いったん、北西部での攻撃が失敗したことが明らかになると、反乱軍は強力な部隊を南部に集めて戦線の突破を試みた。2月6日、反乱軍の進撃でハラマ [Jarama] の戦いが開始されたが、間もなく到着した共和国軍の増援によって停止し、これらは反撃したが失われた土地は回復できなかった。この戦いは当時最大規模のもので、外国の物資が重要な役割を演じた最初のそれでもあった。

ラ・コルーニャ [La Coruna] 街道とハラマ [Jarama] の戦いは、両方とも引き分けに終わった。反乱軍は、マドリードを包囲するための3回目の機動を試み、このときには北東からグアダラハラ [Guadalajara] に及んだ。

### その他の戦線と海戦 [The other fronts of the war and the war at sea]

戦争の最初の数ヵ月間、マドリードは両陣営の主要な焦点だったが、他の戦線でも戦いが行われ、反乱軍陣営が優勢だった。

8月には、共和国軍がマヨルカ島上陸を試みたが、防御側の抵抗、未熟練な民兵、共和国軍指揮官たちの不統制によって作戦は失敗した。

- 1) アフリカ戦隊の進撃とバダホス [Badajoz] の奪取
- 2) マヨルカ [Mallorca] 島上陸
- 3) コルドバ [Cordoba] 攻撃
- 4) トレドのアルカサル [Alcazar of Toledo] の解放とマドリード [Madrid] の戦い
- 5) サン・セバスチャン [San. Sebastian] の奪取とビヤレアル [Villarreal] の戦い
- 6) オビエド [Oviedo] 攻撃と戦隊救出の進撃
- 7) グラナダ [Granada] との連結とマラガ [Malaga] の奪取

同じ月に、共和国軍はコルドバ [Cordoba] を攻撃し、市の門前近くまで到達したが、敵空軍の介入が試みを失敗させた。アフリカ軍増援の助けで、反乱軍は東アンダルシア地方の地盤を確保し、孤立都市グラナダと連結した。

北部では、よく訓練された反乱軍のカルロス派民兵ユニット（「レクテ」 [“requites”]）として知られた）がナバラ [Navarra] から進撃し



て、9月にイルン [Irún] とサン・セバスチャン [San Sebastian] を征服したため、共和国の北部戦線はフランス国境から孤立した。西部への進撃は続き、グエイプソア [Guipuzcoa] 県全体に及んだが、10月にバスク民兵の堅固な抵抗がビスケー湾の山岳地帯の戦線を安定させた。

11月には、強力なバスク戦隊がビトリア [Vitoria] への攻勢を発動したが、ビヤレアル・デ・アラバ [Villarreal de Alava] で大敗して重大な損害を出して停止した。

アストゥリアスでは、8月に共和国軍が攻囲下のシマンカス [Simancas] を速やかに征服した。オビエドの町は、アストゥリア民兵によって包囲下に留まり続け、要塞化防衛線内で攻撃に対して抵抗した。いくつかの反乱軍戦隊は、オビエド救援のためにガリシア [Galicia] 地方を離れ、10月17日に75キロメートル長の不安定な通廊を通してオビエドと連結した。翌月には、通廊と都市の両方が激しく攻撃されることになったが、陥落はしなかった。

1937年2月5日、反乱軍はマラガ [Malaga] を攻撃したが、その防御側は1936年7月と同様に不統制状態で、兵器類を受取っていなかった。ムッソリーニから送られた**イタリア軍の増援**は攻勢の先鋒となり、信じられないほどの素早い成功を達成し、たった二日後に町を征服した。

海上では、反乱軍は数的に不利だったが、遙かに積極的で、司令官が不足する共和国軍よりも活躍した。最初の数ヶ月間に大西洋沿岸を封鎖し、9月29日にはジブラルタル海峡の正面で共和国艦船を破り、**海峡封鎖の終了**をもたらした。

## 動員段階 1937年3月から1938年2月まで

[Mobilization Phase March 1937 to February 1938]

### 対峙する2つの軍 [Two armies face to face]

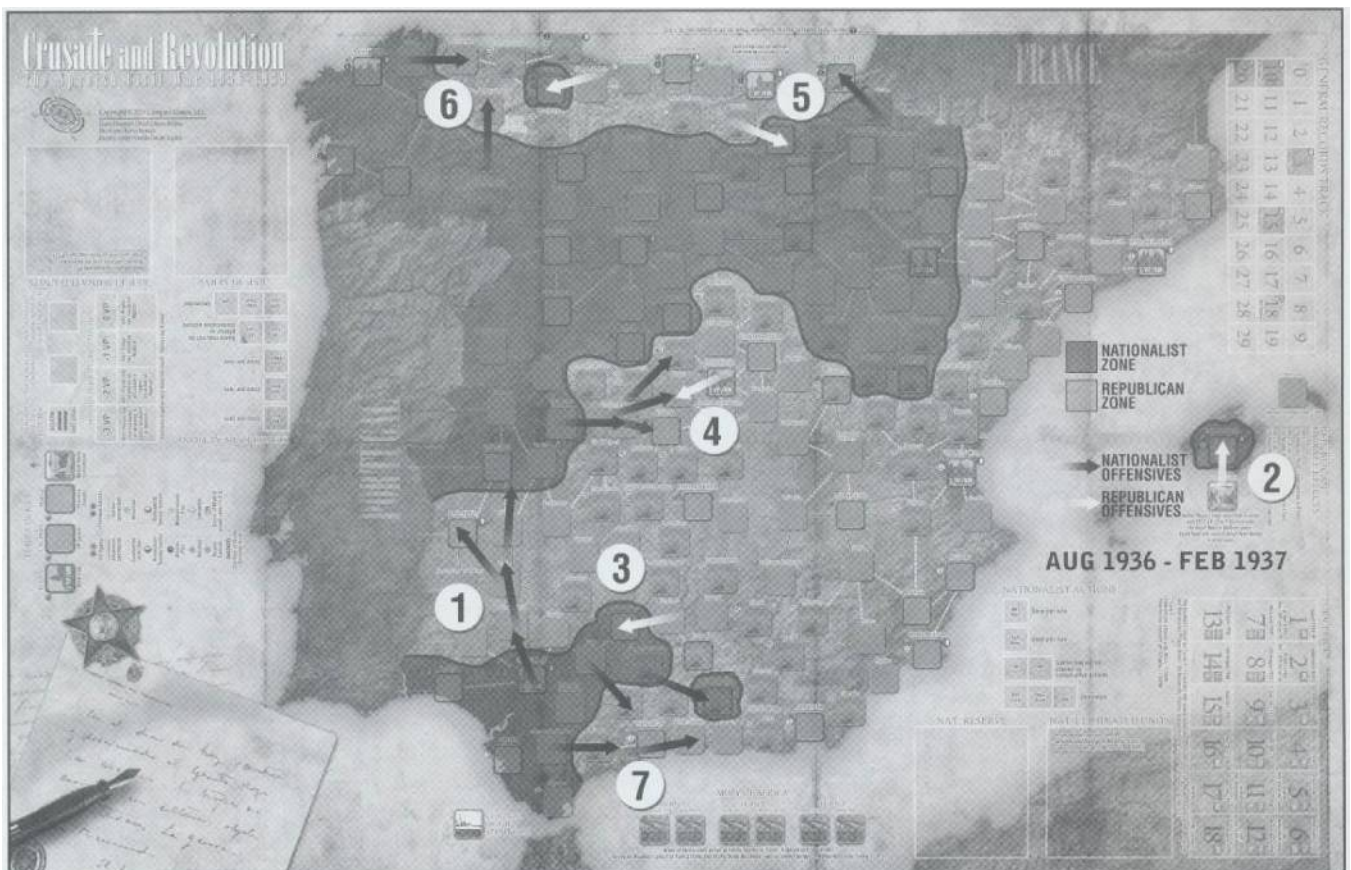
戦争最初の数週間、両陣営は手に入る限りの人的資源で闘わなければならなかった。それらは、様々な状態の戦力（共和国軍陣営では見栄えが良いものはほとんどなかった）、警察部隊、民兵に統合された数千人の熱狂的志願兵たちだった。

広大な戦線（2,000 キロメートル）では、これらは一握りにすぎず、長期戦には不十分だったため、両陣営は徴兵を開始した。1937年から開始して、反乱軍と共和国軍はすでに12回の徴兵を実施していた。

これら数十万人の兵士を編成統一するためには、多くの時間と努力を要し、装備の問題もあった。スペインは、国内に軍需工場をほとんど持たなかったため、外国列強からの軍事支援が必要不可欠だった。

反乱軍と共和国軍の進歩と成長は、同様の道筋をたどった。初期の戦隊は、大隊、連隊、旅団、師団、軍団に編成され、最後には軍となった。徴集兵の数は増加し、1938年までには両陣営に100万名の兵士がいた。

反乱軍は、疑いなく共和国軍よりも優れていた。より多くの職業軍人将校（特に中位の）、訓練された多数の軍曹、未任官将校の要求を満たす「**臨時少尉**」を持っていた。イタリアとドイツからの兵器



供給は首尾一貫しており、強力な空軍の直接介入は決定的だった（義勇航空軍団とコンドル兵団）。ムッソリーニは、CTV（*Corpo di Truppe Volontarie*）と名付けられた完全な陸軍軍団も送り込んだ。

共和国軍は、ほとんど継接ぎから開始しなければならず、左翼政党と労働組合の大部分で生じた民兵の軍隊化が政治的欠落を克服した（共産党と第5連隊のみが開始時から支援した）。多くの高級将校がいたが、中位の将校と専門家の不足が深刻だった。共和国軍は、「実戦」において軍曹や少尉たちを鍛えることで不足を埋め合わせようとしたが、決して敵のそれには敵わなかった。ソヴィエト連邦は豊富な兵器を供給したが、フランス国境の閉鎖と地中海ルートへの反乱軍の海上封鎖は、その到着を不規則なものにした。

さらに、共和国軍陣営は、中央政府が複数の派閥、委員会、地方政府に権力を分割しなければならないため、政治又は指揮の統一がなかった。状況の回復に多くの月日を要したが、北部戦線やカタルーニャのようないくつかの領域では、連携の欠如と不信が戦争を通じて続いた。

### グアダラハラとの戦いと北部戦役の開始 [The Battle of Guadalajara and the beginning of the Northern Campaign]

1937年3月、4つの優良装備自動車化師団 35,000 名を持つ CTV のスペイン展開が完了した。マラガ [Malaga] 征服の成功後、イタリア軍はマドリードの戦いを解決するべく意欲的な作戦を企図し、北東からグアダラハラ [Guadalajara] を攻撃した。

攻勢は3月8日に開始され、戦線突破に成功してブリウエガ [Brihuega] に到達した。ただし、迅速に到着した共和国軍の増援が敵の前進を止めて反撃し、イタリア軍を潰走させて失地を回復した。CTV の敗北は、プロパガンダによって誇張されたが、マドリード包囲を試みた反乱軍の明らかな失敗であることは紛れもない事実だった。

フランコは戦略の再考を強いられ、新たな目標を模索した。北部戦線が選択されたことには、多くの理由があった。：ここは共和国の主領域から孤立し、その港湾は封鎖下にあるため支援をほとんど受けられず、しかも重要な工業地帯と鉱物資源があった。防衛側は多くの部隊を持っていたが、これらは経験が浅く、装備が貧弱で軍隊化の途上にあった。最後に、北部の3つの共和国地方間には、深刻な政治的不和があり、これらの自治政府は他者に頼ったり中央政府の綱領に従ったりすることなく戦争を遂行した。

フランコは、ビスケー湾で攻勢を開始する決意をし、3月31日に北部戦役の火蓋が切って落とされた。

### ビルバオの陥落とブルネテの戦い [The fall of Bilbao and the Battle of Brunete]

重砲と近代的空軍の支援を受けて開始されたナバラ [Navarre] からの旅団の攻撃は、何者も止められなかった。荒れた地形、いくつかの共和国軍ユニットの頑固な抵抗、驟雨のみが反乱軍の進撃を遅らせることができた。

ドイツ軍とイタリア軍の航空機は、ドゥランゴ [Durango] やゲルニカ [Gernika] のような前線近くの町を爆撃し、ゲルニカは戦争テロのシンボルとなった。

5月末、反乱軍はビルバオ [Bilbao] 近郊に到達した。包囲下の都市には、防衛側の頼みの綱だった陣地線「鉄環」があった。ただし、これは堅固に構築されておらず、主任技師が設計図と共に寝返っていた。

鉄環は易々と破られ、防御部隊が撤退すると、6月19日に反乱軍はほぼ無抵抗のビルバオに入り、領域の重要な工業地帯を無傷で占領した。前進はそこで止まらず、ビスケー湾の領域全体が7月に征服された。

その間、共和国領域では大きな事件が発生していた。バルセロナ [Barcelona] での5月事件は、内戦のなかの内戦で、ラルゴ・カバリェロの辞職とネグリン政府の発足を速めた。専門家で戦略家のピセンテ・ロホ中佐は、共和国軍総司令部の幕僚となっており、戦争の行方に決定的な変化を起こそうと意図していた。

ただし、ロホは自軍の限界を認識しており、マドリード防衛戦の成功後には、攻勢能力を推し量ろうとしていた。彼は2つの限定的な作戦を計画し、1つは5月のセゴビア [Segovia] に対するもの、もう一つは6月のウエスカ [Huesca] に対するものだった。両者とも失敗し、共和国軍部隊はいまだに弱点を持つことが証明された。

北部戦線を救う唯一の方法は、共和国中央領域から大規模な攻勢を発動することだった。最初の強襲は、ビルバオの陥落を妨げず、7月にロホはマドリードを攻囲している反乱軍部隊を包囲するより野心的な作戦を計画した。ブルネテの戦いで、初期のいくつかの成功にもかかわらず、共和国軍はその戦術的、戦略的目標を達成できず、北部戦役を遅延させることはほとんどなかった。

### ベルチテの戦いと北部戦線の終焉 [The Battle of Belchite and end of the Northern Front]

ビスケー湾の喪失は、共和国軍部隊の弱体化と失望をもたらし、8月には留まることを知らない反乱軍の進撃が続いた。さらに悪いことに、バスクの国家主義者によって支配された数個大隊が、サンターニャ協約でイタリア軍に降伏し、前線の弱点を提供した。サントアンデル [Santander] は、8月26日に陥落した。

その2日前、忘れられた静寂のアラゴン戦線で、サラゴサ [Zaragoza] を脅かして北部での反乱軍の攻撃を止めさせようとして意図した、新たな共和国軍の戦略反撃が開始されていた。ブルネテに参加した、増強されて再装備された部隊は、再び初期にいくらかの成功を達成したが、その進撃は間もなく行き詰まり、その努力は戦略的に無意味な町の占領を試みることに浪費された。ベルチテの戦いは、共和国人民軍の攻勢能力の低さと、フランコが自身の戦略計画を変更する必要なく危機を克服できることを再び示した。

8月の終わりには、アストゥリアは北部戦線で共和国の支配下にある唯一の地方で、完全に孤立して救出の望みはなかった。反乱軍は、直ちに圧倒的な部隊でその征服を開始し、冬が訪れる前に北部戦役を完了させようとして試みた。

険しい地形の通過とアストゥリア人民兵の狂信的な防御に対して、進撃はゆっくりとして損害が多いものだった。数週間の死闘の後、戦役はついに終了し、10月21日の反乱軍はヒホン [Gijón] に入り、北部戦線は終結した。

北部戦役は、共和国陣営にとって厳しく決定的な敗北であり、14個師団約 150,000 人の兵士とその装備が失われた。これらの男たちの多くは、反乱軍の階級に組み入れられた。それ以上に、フランコは発展した工業地帯と鉱物資源が豊富な領域を獲得したのである。ビスケー湾の反乱軍艦隊は、自由に地中海へ移動できるようになり、共和国船団への圧力が増大した。

要約すると、北部戦線の崩壊は、部隊のバランスに決定的な変化をもたらした。反乱軍の勝利が時間の問題であることが明白となった。



## テルエルの戦い [The Battle of Teruel]

フランコの強力で経験豊富な北部の軍は、いまや新たな目標に対して使用可能だった。彼は、再びマドリードにトライすることに決め、イタリア軍が数か月前に試みたグアダラハラ [Guadalajara] を通して攻撃したが、新たな計画とより多くの資源を持っていた。直ちに、反乱軍はその戦線に向けて、部隊、後方支援機関、物資の移動を開始した。

12月上旬、共和国軍は敵部隊の集中を察知した。ロホは、いくつかの戦略的選択肢を計画していたが、マドリードを脅かす新たな切迫した危険に直面することを強いられた。

12月15日、3個の共和国軍軍団は、防御が脆弱なテルエルの都市を奇襲攻撃し、何とか完全に包囲した。フランコは、敵の挑戦に反応することを決意し、計画していたマドリード攻勢をキャンセルして、多くの増援を彼の地へ送り込んだ。テルエルの戦いは、厳冬の非常に過酷な条件下でこのように開始した。

反乱軍部隊は、1938年1月8日までに抵抗する町を攻囲し、外部からこれらを救出しようとする全ての試みは失敗した。ここは、戦争中に共和国軍陣営が奪取した最初で最後の州都であり、この時点では本質的な成功で士気が上昇した。ロホは、戦いが終了したものと誤って信じたが、フランコはこの領域に増援を送り続け、共和国軍に更なるユニットでの対応を強いた。1月17日、反乱軍の反撃が開始され、非常に激しい会戦の後に共和国軍は戦線を明け渡し、2月22日にテルエル [Teruel] は奪回された。

両陣営は大きな損害を被ったが、共和国軍は最悪の交換を行い、深刻な打撃を受けた。その上、初期成功後の最終的な敗北は、士気に非常に重大な影響をもたらした。

- 1) グアダラハラ [Guadalajara] の戦い
- 2) セゴビア [Segovia] 攻撃
- 3) ウエスカ [Huesca] 攻撃
- 4) 北部戦役ービルバオ [Bilbao] の奪取
- 5) ブルネテ [Brunete] の戦い
- 6) ベルチテ [Belchite] の戦い
- 7) 北部戦役ーサンタンデル [Santander] の奪取
- 8) ヒホン [Gijón] の奪取と北部戦線の終焉
- 9) テルエル [Teruel] の戦い

## 軍の戦争段階 1938年3月から1939年4月まで [War of the Armies Phase March 1938 to April 1939]

### アラゴンの攻勢と共和国領域の分断 [The offensive of Aragon and splitting of the Republican zone]

テルエルの戦い後、ロホは反乱軍が休息と再編のために停止するものと予測したが、彼らはそうしなかった。フランコは、敵の弱点を突いて強力かつ迅速に攻撃することに決め、3月9日にアラゴン [Aragon] 地方で攻勢を開始した。反乱軍の優位性と共和国軍の士気阻喪は、いくつかのユニットに潰走を引き起こし、前線は直後に崩壊した。

戦いは、共和国軍の連続的な東方への撤退に変わった。4月3日、反乱軍はリエイダ [Lerida] を征服し、15日にはビナロス [Vinaroz] を通過して地中海に到達し、共和国領域を2つに分断した。

カタルーニャ [Catalonia] は孤立して取り残され、かなり弱体化した部隊によって守られたため、攻撃して共和国に止めの一撃を与えることが理に適っているように見えた。ただし、彼の將軍たちの





意見に反し、フランコは南部に旋回してバレンシア [Valencia] に向かってマエストラスゴ [Maestrazgo] の山岳地帯を抜けて進撃することに決めた。

この異論ある決定について多くの議論がなされてきたが、おそらく最も可能性がある理由は、フランコの**フランス介入の脅威**への恐れだった。ヒトラーの積極外交は、危機の日々とヨーロッパの緊張を生み出し、国境線の南にドイツ軍とイタリア軍が存在することは、フランス政府を脅かしていた。その上、勝利したフランコが枢軸国と連合することは明白だった。

### レバンテ戦役 [The Campaign of Levante]

バレンシア [Valencia] に対する攻勢は4月21日に開始され、反乱軍は思いがけない抵抗に会った。共和国人民軍は効果的に防御し、険しい地形と深く掘られた**陣地線**を有効に利用した。

ゆっくりと、重大な損失を受けながら反乱軍は進撃し、6月14日にカステリオン [Castellon] を征服した。ただし、敵の抵抗は減少しなかった。

その間、共和国軍最高司令部は、フランコの決定から利点を得て、1938年春から夏の間にかタルーニャの増強と再編を行った。新たな徴兵が動員され、一時的な**フランス国境の開放**が彼らに再武装する機会を認めた。戦争の2年を闊ったベテランたちからエブロ軍が編成され、これは共和国軍陣営最強部隊だった。

5月25日、ロホはレバンテ [Levante] への圧力を軽減するため、カタルーニャ人部隊の攻勢能力を試すことに決め、トレンプ [Trempl] とバラゲ [Balaguer] で**限定攻勢**を発動した。これは若干の成功で開始したが、間もなく停止してロホが作戦を中止したため、十分な勝利とはならなかった。

他方、反乱軍陣営は、6月と7月に忘れられたアンダルシアとエストレマドゥラの戦線で副次的な攻勢を発動する有利な状況にあり、僅かな領土を占領して戦線を直線化し、ポルトガルから動かした。

7月上旬、反乱軍はレバンテ [Levante] で激しい戦役を継続し、新たな増援、空軍、砲兵、装甲を集中したが、進撃はゆっくりだった。月の終わりにはバレンシア近郊にあり、防御側は善戦したにもかかわらず時間稼ぎにしかならず、共和国軍最高司令部は非常に憂慮した。しかも、バレンシアの陥落は、戦争の終わりをもたらし得た。

ところが、共和国軍が奇襲的にエブロ川を渡ったとき、反乱軍の攻勢は突然停止した。

### エブロ川の戦い [The Battle of Ebro]

ロホによって注意深く計画された戦略反撃は、軍事目標のみならず政治目標も持っていた。まずは、反乱軍のレバンテ攻勢を止めてバレンシアを救うことが肝要で、敵の予備を引きつけるために陽動攻撃を選択した。

しかし、攻撃は、ネグリン首相のモットーである「**抵抗は勝利**」への対応でもあった。反乱軍への軍事的勝利はもはや不可能だったが、共和国軍陣営は国際仲裁を通しての和平調停に望みをかけることができた。あるいは、最悪の場合には、差し迫って見えるヨーロッパ大戦に与するために戦争を引きのばせば、イタリアとドイツに同盟するフランコに対するフランスとイギリスが共和国を救ってくれることを望んだ。

7月25日の夜明け、**エブロ川**の戦いが開始された。2個軍団が

渡河して防御側の反乱軍を圧倒してガンデサ [Kandeza] に向けて進撃した。一方、北部と南部で陽動作戦が行われた。敵の対応は迅速だったが、攻勢が停止させられる前に共和国軍部隊は広大な牧草地を征服した。経済的、軍事的には無価値だったが、士気と政治への影響は大きかった。

その前に、フランコはロホの挑戦に応じることに決め、いかなる領土の損失を認めることも拒絶し、戦闘は威信の問題に変わっていた。將軍たちの助言に対して、彼はバルセロナ攻勢を中止してエブロへ多数の増援を送り、敵軍に対して正面から**反撃攻勢**を計画した。

エブロ川の戦いは、戦争全体で最大最長の戦いで、その結果は決定的だった。各陣営からの10万 명이 30km の長さの前線で激し、戦いは第一次世界大戦の塹壕戦に似ていた。主な進歩は、反乱軍航空部隊の大量配備で、共和国軍のそれを遙かに凌駕した。

繰り返される敵の正面突撃に対して、最良の共和国軍ユニットは険しい山岳地形で防御し、血みどろの消耗戦となった。ついに、4ヵ月間近い闘いの末、11月15日に最後の共和国軍防御部隊がエブロ川を越えて撤退した。

両陣営の損失は夥しかったが、共和国軍はもはや補充を持たなかった。エブロ川の戦いは、人民軍の最大限の努力であり、その敗北は共和国陣営の軍事的許容量を枯渇させた。

### ヨーロッパの政治危機とミュンヘン協定 [Political crisis in Europe and the Munich Agreement]

エブロ川で闘っている間、ネグリンが望みフランコが恐れたドイツの膨張主義が戦争の引き金を引く脅威により、ヨーロッパ中で政治危機が生じていることに敵対者たちは気づいていた。

1938年3月のオーストリア併合の後、ヒトラーはチェコスロヴァキアのドイツ系民族が住むズデーテン地方の支配を渴望した。9月、危機を解決するために、融和政策の名においてミュンヘンで会議が行われ、大英帝国とフランスはズデーテンランドの扱いでドイツと握手した。それはスペイン共和国を大いに失望させた。なぜならば、もしも民主主義がチェコスロヴァキアを守らなければ、おそらく彼らはスペイン共和国も守らないからである。

ミュンヘン協定は、国際仲裁が起きないことを通じて、戦争の終結を決定づけた。

### カタルーニャ戦役 [The Catalonia Campaign]

エブロ川での勝利の後、フランコはカタルーニャを攻撃することに決めた。そこは兵站目標で、最良の反乱軍部隊が領域内に配置され、厄介なフランス軍の介入は消滅し、敵部隊はエブロ川の戦いでかなり弱体化しており、地方は共和国領域の残りから孤立していた。

ロホは、反乱軍の攻勢が差し迫っていることに気づいており、もう一度他の戦線における陽動作戦に頼らなければならなかった。彼は以前に実行を試みた「**P計画**」と名付けた計画に基礎を置いた。これは、3つの作戦を組み合わせたもので、モトリル [Motril] への上陸作戦で敵の予備を引き寄せ、その後エストレマドゥラとマドリッドで2つの大きな攻撃を行うものだった。編成上の問題がP計画の開始を遅らせたため、敵の攻撃に先駆けて発動できなかった。

悪天候による延期の後、12月23日にカタルーニャで反乱軍の攻勢が開始された。約300,000名、有り余る砲兵、装甲、空軍を持つ6個軍団が、防御側の装備が劣り士気が低い200,000の共和国軍を攻撃した。

戦闘初日の間、共和国軍はいくつかの地点で敵の前進を止めるこ

とができ、反撃すら実施した。しかし、間もなく攻勢を止められないことが明白になり、反乱軍は全ての防御線を蹂躪して共和国軍部隊に絶え間ない撤退を強いた。

ロホはP計画を発動したが、彼が望んでいたよりも遥かに小規模で、モトリルの上陸部隊とマドリードからの攻撃は両方とも放棄された。1939年1月5日、共和国軍の戦争最後の攻勢がペニャロヤ [Penarroya]—バルセキロ [Valsequillo] の領域で開始された。3週間に及ぶ激しい戦闘で反乱軍は10,000名以上を失い、共和国軍はカタルーニャでの戦役に影響を及ぼすことなくその2倍の数を失った。

共和国軍は撤退を続け、1月15日にタラゴナ [Tarragona] が陥落した。2年前にマドリードで起きた英雄的行為がバルセロナで繰り返されることを夢見る者もいたが、状況は一変していた。1月26日、反乱軍はほとんど無抵抗の都市へ入った。反乱軍はその瞬間から追撃し、避難民と混ざり合った共和国軍部隊はフランス国境まで潰走した。

2月10日、フランスの国境は完全に反乱軍の手中にあり、カタルーニャの戦役は終了した。

- 1) アラゴン [Aragon] 攻勢
- 2) 海への到達と共和国ゾーンの分割
- 3) レバンテ [Levante] 戦役
- 4) トレンプ [Trempl] とバラゲ [Balaguer] の攻撃
- 5) アンダルシア [Andalucia] とエストレマドゥラ [Extremadura] の攻勢
- 6) エブロ [Ebro] 川の戦い
- 7) カタルーニャ [Catalonia] 戦役
- 8) ペニャロヤ [Penarroya]—バルセキロ [Valsequillo] 攻勢 (P計画)

## 戦争の終結 [The end of War]

いまや、共和国陣営は、いかなる国境からも孤立し、スペインの3分の1を保持するのみで、その港湾は反乱軍の封鎖艦隊と空軍とによって窒息されかけていた。共和国軍は、ほぼ50万人の兵士を持っていたが、約2倍の敵と対峙していた。その装備の劣悪ぶりが公言されており、加えて人民軍は全般的な士気阻喪を被っていた。それにもかかわらず、ネグリンは抵抗継続を望み、共産主義者たちに支持されていたが、ほぼ全ての軍事指導者たちや政治勢力の残りは反対の意見だった。

共和国陣営の崩壊は急激だった。メノルカの降伏とカルタヘナ [Cartagena] での叛乱は、その明白な兆候だった。3月5日、決定的なカサドのクーデターが開始され、マドリードにおいて戦争の終了を望む者たちとネグリン政府の擁護者たちとの間に戦闘を生じさせ、カサドの勢力が圧倒した。内戦のなかの短い内戦が終了したとき、カサドはフランコと交渉による何らかのタイプの降伏を達成しようと試みたが、フランコは聞く耳を持たなかった。

フランコは共和国の無条件降伏を要求し、彼の部隊が大攻勢に出ようとしていることを宣言した。3月26日、反乱軍は無抵抗な全ての戦線に沿って進撃を始めた。1939年4月1日に、全共和国軍部隊が降伏して戦争は公式に終結した。





## 23.0 カードの歴史的注釈 [CARD HISTORICAL NOTES]

### 23.1 反乱軍陣営 [Nationalist Side]

#### 23.1.1 戦隊の戦争 [War of the Columns]

**空の架け橋 [Air Bridge]** : モラ將軍によって計画されたクーデターは、半島の反乱軍部隊がマドリードを奪取して政府を打ち倒すことが期待されていた。ただし、革命開始から数日後には、反乱軍が迅速な勝利に向かっておらず、共和国軍部隊を容易に負かせないことは明白だった。モロッコで蜂起したアフリカ駐屯軍は、反乱軍の状況を変えることができたが、半島へ移動させなければならず、ジブラルタル海峡は政府に忠実な軍艦によって支配されていた。唯一可能なルートは、空だった。史上初の空輸は、たった4機の航空機で開始された。イタリアとドイツは、反乱軍の救援要求に応え、7月30日に9機のS-81が、8月5日には20機のJU-52が到着した。これらにより、モロッコからスペインへの輸送は加速した。

**航空機が民兵を蹴散らす [Airplanes Disperse Militia]** : 戦争が開始されたとき、小規模な共和国軍戦隊は熱狂的な民兵で満たされていたが、軍事教練や戦闘経験が極端に欠けていた。いくつかの場面で、僅かな敵航空機の存在が共和国軍の攻勢を完全に停止させ、民兵を逃亡させた。再編成には数時間から数日間を要した。

**臨時少尉 [Alfereces Provisionales]** : 反乱軍陣営の司令部要員不足は、臨時「少尉」によって解決された。これらは、通常十分な訓練を受けていない若者たちで（普通は中等教育卒業）、3カ月間の教育後、若年将校として「alferez」（少尉に相当するスペイン軍の階級）の階級で戦闘に送られた。常に、彼らは前線で高い損失を被り、「臨時少尉、事実上は死体」というフレーズが生まれた。

**枢軸軍装甲 [Axis Armor]** : 反乱軍を支援した装甲車両は、共和国軍が受取っていたものよりも常に性能が低かった。イタリア軍のCarro Veloce 33とドイツ軍のI号戦車は、機関銃や稀に火炎放射器を装備する軽戦車に過ぎず、ソヴィエト製のT-26に抗すべくもなかった。捕獲した敵戦車は重宝され、元の所有者に対して直ちに使用された。捕獲したT-26には、500ペセタの賞金がかけられた。

**枢軸国の軍事援助 [Axis Military Aid]** : ドイツとイタリアの反乱軍への援助は、1936年7月のジブラルタル海峡を越えての空輸を加速させた航空機の供給で開始された。当初、反乱軍は迅速に勝利を達成すると思われたが、間もなくスペインが内戦に入ったことは明白となり、両陣営は増加する莫大な量の戦争物資を要求して消費した。不干渉委員会で調印したにもかかわらず、ムッソリーニとヒトラーは、戦争中に断固としてフランコを助けた。

**背信 [Defection]** : 反乱後、警察部隊の半数以上は共和国の兵舎にいた。それにもかかわらず、多数の警護兵たちが反乱に共感し、最初の数カ月間に反乱軍が前線に到着した際、ときには部隊全体で寝返った。

**海峡封鎖の終了 [End of the Strait Blockade]** : 大部分の軍艦では、初期の蜂起に失敗した。その結果、共和国軍艦隊は反乱軍艦隊に対して圧倒的に優勢で、反乱の開始時からジブラルタル海峡を支配してきた。それにもかかわらず、共和国軍支配下の軍艦上で反乱将校の大部分が処刑されたため、有能な司令官を持たずに有効性を失ったことを意味した。1936年9月、共和国政府は艦隊の多くをビスケー湾に移し、孤立した北部の救援を試みた。反乱軍に支配されたエル・フェロル [El Ferrol] では、2隻の近代の巡洋艦が建造の最終段階にあった。同月、反乱軍はそれらの1隻カナリアス [Canarias] を完成させ、巡洋艦セルベラ [Cervera] と共に海峡に移し、共和国軍を駆

逐して支配を獲得した。政府は共和国艦隊に帰還を命じ、反乱軍と対峙することなく夜間にジブラルタルの正面を通過した。これらは二度と再び海峡の支配を争うことはなく、反乱軍は自由に海を渡って越えることができるようになった。

**飢餓 [Famine]** : 共和国軍は、様々な要因のために反乱軍よりも欠乏を被っていた。: 反乱軍は主な穀物と家畜の領域を支配したが、大都市は共和国領域にあり、共和国の沿岸部では封鎖の締め付けが増大しつつあった。共和国の状況は、時間とともに厳しくなり、配給は切り詰められ、士気は地に落ちた。例えば、ミルクは医療処方によってのみ摂ることができる食物となった。

**フィアット CR32 「Chirri」 [Fiat CR 32 「Chirri」]** : 戦争中の最も有名な航空機の1つ。この優秀な複葉機は、反乱軍戦闘機隊の中核で、イタリアから合計 377 機を受け取った。ソヴィエト製の I-15 とのドッグファイトは容易にできたが、I-16 には劣った。

**フランコの指揮権掌握 [Franco Takes Command]** : 共和国陣営で起きたこととは対照的に、集約化された軍事司令部の存在は反乱軍にとって必須と考えられた。フランコは海外で最も有名な将軍で、セビリヤ [Sevilla] からマドリード [Madrid] へのアフリカ戦隊による急進撃で、軍事的成功を達成していた。反乱軍の軍事評議会は、戦争が続く間のみという原則の下、1936年10月1日に彼を「総帥」[「Generalísimo」] で国家元首に選んだ。

**ガルシア・モラト [Garcia Morato]** : パイロットのガルシア・モラトは、戦争中に空中戦で40機を撃墜した最高の「エース」だった。、「Patrulla Axul」（青い哨戒隊）と名付けられた、もっぱらスペイン人パイロットから成る航空隊を彼は率いた。その存在は、戦場上空でしばしば反乱軍に制空権をもたらした。ガルシア・モラトは戦争中に2度撃墜されたが、どちらも生き残った。戦争が終結した僅か数日後、彼は飛行中の事故で死んだ。

**イタリア軍の増援 [Italian Reinforcements]** : 不干渉委員会は公式に承認されていたが、イタリアは反乱軍陣営に援助物資を送り続けた。国際旅団の到着は、スペインへの派兵をムッソリーニに決意させた。1936年12月、最初の派遣団である4,000人のイタリア軍が到着した。1月までに10,000人となり、その数は軍団CTV (Corpo di Truppe Volontarie) を形成するまで増加し続けた。これらの大部分はファシスト志願兵だったが、優れた能力レベルを示した正規兵部隊もあった。その自動車化率は、スペイン軍部隊のそれを遥かに凌駕した。

**イタリアとドイツの国家主義スペイン承認 [Italy and Germany Recognize Nationalist Spain]** : イタリアとドイツは迅速に反乱を支援し、このような支援は成長し続けた。両国、特にドイツはフランコを優先的に扱い、彼がドゥーチェ [Duce] やフューラー [Führer] に相当する「国家元首」[「Caudillo」] や「総帥」[「Generalísimo」] として総司令官に就任することを促進した。いまだに、ムッソリーニとヒトラーは、反乱軍を承認するためにマドリードの陥落を待っていた。1936年11月18日、マドリードが抵抗して戦争終結が程遠い事実にもかかわらず、ついに彼らは反乱軍を承認した。彼らのフランコへの非公式な同盟は、この行動で決定的となった。

**民兵の訓練不足 [Militia's Lack of Discipline]** : 共和国は、戦線に様々な民兵を送ることで、その領域内でほぼ消滅した陸軍に対抗した。概して、民兵は戦争経験を持たず、政治的熱狂だけでこれを埋め合わせることはできなかった。民兵はしばしば夜寝るために家に戻ったり、攻撃を行うか否かを投票で決めたりするといった、馬鹿げた状況がしばしばあった。これらの民兵を真の軍隊に変換させるのは、長く険しい道程だった。



**モロトフ・カクテル [Molotov Cocktail]** : 1936 年 10 月のソヴィエト製戦車の戦線到着は、反乱軍にとって嬉しくない驚きだった。自軍装甲車両が劣ることは明白で、適切な対戦車砲の不足は、兵士たちに T-26 に対する効果的な新兵器である火炎瓶（後に 1939 年のソ・フィン戦争で「モロトフ・カクテル」と名付けられた）を發明させた。このシンプルな兵器は、複数の敵戦車を戦力外に置いた。

**海上支援 [Naval Support]** : 数的劣勢にもかかわらず、反乱軍艦隊は戦争を通じて非常に活動的だった。最初の数ヶ月間は、沿岸部を進撃する反乱軍部隊をその巨砲で支援するなど、価値ある貢献を行った。

**一步も退くな！ [No Step Back!]** : 優勢な共和国軍部隊によって攻撃された反乱軍部隊が、増援の到着が遅れたときですら耐えることが、戦争中に何度かあった。この例は、初期のオビエド [Oviedo]、ウエスカ [Huesca]、マヨルカ [Mallorca]、あるいは戦争末期のベレチテ [Belechte] やガンデサ [Gandesa] の防御戦である。無政府主義者の指揮官ガルシア・オリベルは、こう述べている。「ファシストは、都市を攻撃するときに多くを費やすが、我々は何も費やさない。彼らが小都市を包囲すると 2 日後に奪取する。我々はそこを包囲し、全人生を費やすことができる。」

**赤色テロ [Red Terror]** : 反乱が失敗して闘争が開始された後、両派閥の後背領域で多くの恥ずべき出来事が開始された。共和国の労働組合と政党への武器供給は、政府が事態の掌握力を失ったことを意味し、これは多くの犯罪やテロ行為を伴う革命的暴走を誘発した。テロは戦争の最初の数ヶ月間で最高レベルに達し、権力が部分的に回復されるに連れて死に絶えた。それにもかかわらず、決して完全に消滅せずにしばしば赦され、公式声明によってさえ促進された。これらの蛮行は、それが真実か否かにかかわらず、敵と見なされた誰もが標的になった。犠牲者たちは、軍人、政治家、知識人、地主、雇い主の全タイプだったが、労働者、女性、子供たちすら含まれた。カトリック教会は特にターゲットになり、数千人の聖職者や修道女が処刑された。混乱した状況下で、個人的な復讐、略奪、窃盗を行うために悪意を持った行為があった。数ヶ月間、統制がない集団が共和国の後背領域で気楽に活動し、望むように人々を監禁して処刑していた。政党と労働組合の派閥は、「chekas」と名付けられた拘留所を組織し、敵と見なされた者たちは拷問されて殺された。いわゆる人民裁判所の創設はややマシで、政府からこの「革命的正義」を標準化するために与えられた試みで、実際に裁判所は逮捕された無力の者たちを従わせた。人々に対する犯罪に加えて、多くのかけがえのない文化遺産が失われた。芸術作品、図書館、教会は、カトリックに属するというだけで破壊された。これらの事件は、共和国陣営の威信を大きく失わせることになった。反乱軍は、これを闘争の正当化に使用し、「赤のマルキストの群れ」に対する国際世論の重要層を動揺させた。

### 23. 1. 2 動員段階 [Mobilization Phase]

**装甲増援 [Armor Reinforcements]** : 戦争が進むに連れて、反乱軍はイタリアとドイツの装甲車両とすでにスペインにあるそれを維持するための予備部品を送るよう懇願し続けた。送られた車両は軽装甲戦車だった。CV-33 と I 号戦車は、大部分が機関銃搭載車両だった。戦争中に、反乱軍は合計で 122 両の I 号戦車と 155 両の CV-33 を受取った。

**集中砲撃 [Artillery Concentration]** : 反乱軍は、共和国軍よりも砲兵を豊富に持っていた。僅かな数的優勢は、多くの要素によって増加した。それは、装備の保守整備、イタリア軍団野砲の追加、最も重要なことは戦場での効率性だった。反乱軍は、非常に狭い前線に増加し続ける砲を集中させて、圧倒的な火力の雨を降らせることができた。

**僧侶の共同書簡 [Bishops' Collective Letter]** : 1937 年 7 月 1 日、バスク戦役終了直後（カトリックの指導者を持つ、中立化した唯一の共和国地域）、スペイン人僧侶たちは共同書簡に署名した。その中で、カルディナル・ゴマが先導する僧侶たちは、戦争における教会の姿勢を明らかにし、革命と反乱軍に味方することを正当化した。署名しなかった唯一の高位聖職者たちは、タラゴナ [Tarragona] の大主教 ビダル・イ・バラケルとビトリア [Vitoria] の司教ムヒカである。書簡は、スペイン内外に大きな反響を呼び、反乱軍派閥に味方する公的意見がカトリックの多数派を占めた。

**橋梁の捕獲 [Captured Bridge]** : 1937 年 2 月 10 日、反乱軍と共和国軍は、マドリードの南を流れるハラマ川の両岸で、血まみれの闘いを演じた。川は雨のために溢れかえり、反乱軍司令部は浅瀬を渡ることができないという結論に達し、唯一渡河可能な 2 つの橋梁は敵の手中にあった。2 月 11 日の夜明け、Ifni 大隊からの兵たちがピンドケ [Pindoque] 橋梁に奇襲攻撃を行い、占領して防御側を一掃した。橋梁には爆薬が仕掛けられ、共和国軍兵士が点火したが、完全には破壊されなかった。朝には、反乱軍の騎兵と歩兵が渡河を開始した。翌日、サン・マルティン・デ・ラ・ベガ [San Martin de la Vega] の橋梁も無傷で捕獲された。

**共産主義者の干渉 [Communists Interference]** : 共和国軍陣営では、軍事的決定はしばしば政府内の異なる派閥間での政治的内紛に影響された。社会主義者のラルゴ・カバリェロは大統領だったので、UGT 労働組合と無政府主義者の支援を受けたが、PSOF の中間セクターと、特に彼を権力と影響力の成長にとって障害と見ていた共産主義者たちから増大する妨害に直面した。これら中傷戦は、ラルゴ・カバリェロに軍事的名声を与えることを避けるため、政敵が戦争作戦をボイコットする地点まで彼の立場を貶めた。例えば、1937 年 4 月末、共産主義者たちはエストレマドゥラ [Extremadura] 方面への攻勢を何とか取りやめさせた。

**コンドル兵団 [Condor Legion]** : 共和国軍が受け取っていたソヴィエトの物資、特に航空機の重要性という観点から、ヒトラーは反乱軍に航空隊を送ることに賛成した。彼の条件は、ドイツ軍の戦闘組織がフランコの直接指揮下に自律的な特別軍団として一緒に留まることだった。ドイツの条件が認められた後、1936 年末にコンドル兵団が結成され、戦闘機と爆撃機から構成された 100 機の航空機集団に対空砲が組み込まれていた。戦闘の主戦線での活動は、間もなく決定的に証明されることになった。

**イタリア軍潜水艦 [Italian Submarines]** : ムッソリーニのフランコ支援には、反乱軍艦隊への 2 隻の近代的水艦と、地中海を通して共和国の港湾へソヴィエトの補給を運んでいる艦船への、イタリア軍艦隊による散発的な攻撃が含まれた。1937 年の夏、装備の流入が顕著だったため、反乱軍司令部はイタリアに支援を要求した。間もなく、イタリア軍の潜水艦と駆逐艦の哨戒隊が、中央と東の地中海に出現し、黒海のロシア港湾で開始される船積み妨害が始まり、1 ヶ月間で 13 隻の艦船が撃沈又は捕獲された。

**義勇航空軍団 [Legionary Air Force]** : 1936 年終りのイタリア軍部隊の到着は、初期に「Aviacion del Tercio」（飛行連隊）と名付けられた多数の航空部隊組織に伴われていた。年明けと共に、イタリア軍はスペインの自国空軍を大量に増強し、その名称は「Aviacion Legionaria」（義勇航空軍団）に変更された。結局、75 機の戦闘機と爆撃機が、マヨルカ [Mallorca] 島にある 1 ダースの機体と共に、海上交通の妨害と地中海沿岸の共和国都市の攻撃任務に就いた。義勇航空軍団は、戦争の主戦役参加とは異なる戦歴を持った。

**5 月事件 [May Events]** : 1937 年 5 月 3 日から 8 日まで、バルセロナ [Barcelona] は内戦のなかの内戦を目の当たりにした。これらの日々起きた出来事は、共産主義者（PSUC 内にカタルーニャ社会

主義者を統合)とCNTの無政府主義者とPOUMの反スターリン主義者との対決の最高潮だった。電信局ビルディングを占領するカタルーニャ・ヘネタリタート [Generalidad] (自治政府)の試みは、CNTとPOUMの民兵たちが武器を手にして通りへ出てバリケードを造りはじめるための口実だった。革命は共和国政府部隊の到着と、無政府主義者の指導者が支持者たちに行動を中止するよう求めたことにより鎮圧された。「5月事件」はラルゴ・カバリェロの評判を落とさせ、PCEとPSOE中道によって引き起こされた政治的圧力が増大したことにより、彼の政府は倒された。数日にして、ネグリンの政府が実権を握った。無政府主義者は、カタルーニャとアラゴンで持っていた多くの影響力を失い、それに対して共産主義者の直接的弾圧が始まった。これには、POUMを反動主義と告発し、POUMの指導者アンドレウ・ニンの逮捕、拷問、暗殺が含まれる。

**メッサーシュミット BF109 [Messerschmitt BF 109]** : 1936年10月、これらの最初のドイツ軍航空機がセビリヤ [Sevilla] に到着した。戦争を通じて、反乱軍は様々な形式の合計139機を受け取った。これは驚異的な戦闘機で、疑いなく世界最優秀だった。そして、第二次世界大戦で伝説となる。

**攻勢 (北部戦線) [Offensive (Northern Front)]** : マドリードに対する直接攻撃と南部 (ハラマ川) と北部 (ラ・コルーニャとグアダラハラへの道路) から首都を目指す試みの失敗後、フランコは共和国軍を攻撃する別の戦線を必要とした。地勢的に共和国スペインの残りから孤立し、重要な工業地帯と鉱山資源を持つ北部戦線こそが、論理的選択肢だった。最初、バスク地方を通して攻撃することに決め、1937年3月31日に攻勢が開始された。反乱軍は押しまくり、兵員と装備の優越がビスケー [Biscay] (7月)、サンタンデル [Santander] (8月)、アストゥリアス [Asturias] (10月) の早期陥落をもたらした。北部の戦争は、1937年10月21日のヒホン [Gijón] の征服で終了した。

**サントーニャ協約 [Pact of Santona]** : バスク民族党 (Partido Nacionalista Vasco, PNV) は、戦争の最初の数日間に不明確さを維持していた。そのイデオロギーがカトリックと右翼であったため、人民戦線の左翼部隊と歩調を合わせるのは容易でなく、反乱軍は自分たちに同調するか少なくとも中立の態度を保つことを期待していた。バスク人国家主義者たちを政府支持に押しやった要因は、思いがけぬバスク地方自治の約束だった。いったん北部戦役が開始され、反乱軍がビスカヤ [Bizkaia] を抜けて進撃すると、PNVの指導者たちは、共和国政府の知らぬところで、カトリック教会と調停者としてのイタリア軍を利用して、単独講和を模索し始めた。1937年1月19日のビルバオ [Bilbao] の陥落後に交渉が進捗する一方、ムッソリーニとバスク民族党は、彼らの計画を危機に押しやりかねない、いかなるタイプの攻勢にも対立し始めていた。ついに、8月中旬に合意に達した。PNVからの使者がイタリア軍に送られ、彼らが攻撃すべき場所を教え、自軍大隊が抵抗しないことを保証したため、反乱軍の進撃と沿岸の間で包囲されるのを認めた。それは、左翼バスク人を含む共和国軍の残りにとって裏切りだった。イタリアの抗議にもかかわらず、バスク人国家主義者が受け取った代償は望んだものではなく、フランコは彼らがあまりにも長く降伏を引き延ばしたので、いかなる特別な扱いにも値しないと信じていた。

**鉄環の計画書 [Plans of the Iron Belt]** : 鉄環の防御構築物は、技師のムルガとゴイコエチエアに設計が任された。1936年にムルガは逮捕され、敵に情報を送っていたことが露見した後に銃殺された。ゴイコエチエアは、1937年2月に、陣地線の弱点を示した情報を携えて反乱軍ゾーンに脱走した。鉄環の小さな防御効果は、完全に無効化された。要塞化建造物について、フランコはこう述べている。:「何という過失! 何という莫大な過失!」

**SIPM (軍事情報監察部) [Military Information and Police Service]** : 1937年9月に創設され、反乱軍陣営の異なる情報収集機関と防諜機関、並びに共和国軍後背領域内に編成された第五列を一つの情報機関に統一したものである。SIPMは、あらゆる手段を用いて、全レベルの敵についての情報収集と評価を行うことに集約されていた。これは、共和国の情報機関に対する闘いと銃後の保安も統括していた。フランコの機関は、特に軍事情報の取得に有効で、敵部隊の情報や、ときには直前の意図について完全にタイムリーな情報を収集した。共和国軍の多くの攻勢は、それが開始される前にSIPMによって察知されたが、他の状況下では敵の計画が正しく評価されず、又は反乱軍司令部は受け取った情報を正確に認識しなかった。

**ヤグエ [Yague]** : ファン・ヤグエ・ブランコ中佐 (1891~1952) は、戦前にファランヘ党 (スペイン・ファシスト党) の一員で、数少ない高級将校の一人だった。彼はセウタ [Ceuta] で反乱を指揮し、アフリカ駐屯軍の指揮をフランコが与えた。8月初旬、彼が指揮した戦隊はエストレマドゥラ [Extremadura] を抜けてマドリードへ急進撃した。彼はフランコの部下で友人だったが、その異なる軍事的野望と彼のファランヘ党員イデオロギーは、戦争中に何度かヤグエが部隊の指揮を外される原因となった。将軍に昇進すると、彼はモロッコ軍団の指揮を与えられた。これらは、テルエル [Teruel]、アラゴン [Aragon]、エブロー川 [Ebro]、カタルーニャ [Catalonia] 等の主要な戦いに参加した打撃部隊から構成されていた。ヤグエの部隊は最初にバルセロナに入り、彼は戦友たちから最も称賛され尊敬された反乱軍将軍の一人として戦争を終えた。

### 2.3.1.3 軍の戦争段階 [War of the Armies Phase]

**封鎖艦隊 [Blockade Fleet]** : ニオン会議は、イタリア軍潜水艦に攻撃の終了を強制したが、共和国軍の補給線には僅かな支援に過ぎなかった。北部戦線の崩壊後、反乱軍艦隊は地中海の征服を企てた。いまだ数的に劣勢だったが、共和国軍が損失を被った後に差は減少した (カルタヘナ [Cartagena] で爆発事故のため沈没した旧式戦艦「ハイメ一世」 [Jaime I] を含む)。共和国船団に対する積極的な戦いは、黒海のソヴィエト港湾との海上連絡に、大きな損失と混乱を引き起こした。クズネツォフ提督は、状況についてこう述べている。:「1937年の終りに、スペイン共和国に対する海上の部隊バランスが変化し、地中海を通して連絡を行うことが不可能になってきた。我々はバルト海からフランス港湾のル・アーヴル [Le Havre] とシェルブール [Cherbourg] へ、次にそこから鉄道でフランス国内を通す行程の使用を要求された。」その勝利を確実にするため、マヨルカ島に封鎖艦隊と呼ばれた反乱軍艦隊が編成され、大部分の軍艦が集められた。結果として、国境を合法的に開くことのフランスへの圧力は増加したが、すぐには実行されず、その代わりにフランス政府は密貿易システムを整備し、フランスとスペインとの間で交通量を増加させた。ただし、経路の変更を強いられたことは、明らかにソヴィエトの援助を減少させた。

**カサドのクーデター [Casado's Coup]** : 中央軍の指揮官セヒスムンド・カサド大佐は、戦争の負けは確実でこれ以上の抵抗が人々を苦しめるだけと信じる共和国の軍人と市民の一派を先導した。職業軍人に加えて、共産主義者を除く政党派閥からの集団がカサドの周りに集まった。共産主義者は敵と見なされており、戦闘継続を切望していた。陰謀は1939年1月と2月1日に開始され、カサドはマドリードで反乱軍が持っていたスパイ網と極秘裏に接触した。彼は停戦を望んだが、フランコの司令部は明白に妥協の余地がなく、無条件降伏以外は認めない旨を回答した。ただし、カサドはいまだに報復を減少させて共和国軍に組した者たちの国外追放を可能とする、何らかの保証を得られるものと考えていた。事態は、急速に進展した。2月27日、ファン・ネグリン首相は、中央ゾーンで共和国軍部隊の最高軍事司令官たちと会見した。ミアハ将軍を除く全員が、



抵抗継続に反対した。ブイサ提督は、もしも直ちに和平交渉が行われないのであれば、艦隊を中立港に持っていきとさ述べた。同日、フランスと大英帝国は国家主義スペインを承認し、マヌエル・アサニャは共和国大統領を辞任した。その後すぐ、ロホ将軍も参謀総長を辞任した。カサドのネグリンへの恐怖（今日では根拠がない）と共産主義者の完全な権力集中は、クーデターを起こさせた。3月5日、カサドはマドリードからラジオで、政府が解体されて戦争終結の目的で国防衛委員会が結成されたことを述べた。ネグリンはこの委員会との交渉を試みたが、回答を得られず、3月6日に飛行機でスペインを離れる決心をした。多数の共産主義指導者たちが彼に従った。ただし、新たに結成された政体は、いまだ大勝利を得ていなかった。カサドは、共産主義者の指導者たちの関与に、委員会の決定を承認させることで勝利を得たが、3月5～6日の夜に第1軍軍団長バルセロ大佐は自らを総参謀長と公言し、彼の指揮下に共産主義者部隊をカサドに対して投入した。内戦のなかでもう一つの内戦が開始された。両陣営で多数の共和国指導者たちが銃殺され、混乱した市街戦の結果、死傷者が増大した。3月7日、状況は共産主義者の有利に見えたが、無政府主義者シプリアノ・メラに指揮された第IV軍軍団の介入が決定的だった。3月10日までに、共産主義者の蜂起は打ち負かされ、バルセロは銃殺されたが、いくつかの部隊は12日まで抵抗した。蜂起の間、敵が互いに殺し合いをしていることに気づいた反乱軍は、距離を置いていた。国防衛委員会は、フランコから何らかの和平条項を得ようと試みたが、降伏は無条件でかつ敗者は勝者の慈悲のみを信用できるとフランコは主張した。自身の努力が無駄だったことを知り、カサドと国防衛委員会の残りは国を離れることを決意した。社会主義者フリアン・ベステイロは、他の共和主義者のために慈悲を請うという根拠のない望みを持ってマドリードに残った。彼は一年後に刑務所の中で死ぬことになった。フランコは、全戦線で大攻勢に出るので、共和国軍に白旗を上げた秩序ある降伏で応えなければならぬと警告した。3月26日、「勝利攻勢」が開始され、それはほとんど抵抗に遭遇せず、速やかに共和国ゾーンを占領した。1939年4月1日、フランコは最後の戦時日誌に署名した。「今日、赤軍は捕えられて武装を解除され、国家主義部隊は最後の軍事目標を達成した。戦争は終了したのだ。」

**デザイナーの注釈：**これは、マップの左下に書かれた注釈です！

**フランス国境の閉鎖 [Closing of the French Border]：**1938年6月13日、レオン・ブルムの短命政府によってほぼ3か月間開かれた後、彼の後継者エドゥアル・ダラディエは、フランススペイン境界の閉鎖を命じた。彼とその外相は、イギリス首相チェンバレンの助言に従い、フランスが外交をリードするイギリスに従っていることが再び明らかとなった。この決定は、フランコが黄鉄鉱のフランス供給の条件として、国境閉鎖を要求したためとも言われている。いずれにしても、この決定は共和国政府にとって厳しく思いがけぬ打撃で、再び封鎖下にある地中海の補給線に頼ることを強いられた。

**反撃攻勢（エブロ川） [Counteroffensive (The Ebro)]：**1938年7月25日にエブロ川で共和国軍によって発動された奇襲攻勢は、当初大きな成功を収め、計画された目標は達成できなかったものの、川の対岸に600平方キロメートルのポケットを何とか征服した。反乱軍の迅速な対応が攻撃を停止させ、8月3日までに戦線は膠着した。この瞬間、反乱軍司令部には2つの選択肢があった。：戦線が被った「凹み」を許容し、他の場所で攻勢を発動するか、又は反撃して元の戦線を確立するかである。ブルネテ [Brunete] とテルエル [Teruel] の戦いでは、共和国軍の攻勢後に失地を回復しようと試み（その価値がどうであれ）、威信の問題としていた。どちらの場合でも、軍事的に無価値な土地を取り返したが、一方で大きな損害を被って敵を決定的に打ち破ることに失敗している。それにもかかわらず、フランコは再びロホの挑戦に応じ、将軍たちの意見に逆らって敵軍を消耗戦で全滅させることに決めた。エブロの狭い戦線内に、反乱軍は最良の師団、砲兵、空軍を投入した。彼らの正面では、共和国軍最

良の3個軍軍団（V、XII、XV）が、入り組んだ山岳地形の助けを借りて、必死に防御していた。各陣営からほぼ100,000人の兵が最長で、血まみれとなった戦争で最も決定的な会戦に参加した。ほぼ4ヵ月間に渡り、反乱軍は共和国軍を陣地から追い出すために7回の攻勢を発動し、エブロ川の対岸に押しやった。フランコは、敵が完全に敗北するまで戦争を伸ばすことに決め、一方ロホは大規模なヨーロッパ大戦の勃発を信じていた共和国政府の時間稼ぎのために、戦いを長引かせようとしていた。1938年9月にミュンヘン協定が調印され、この望みへの手痛い打撃となった。戦闘損失は夥しかった。共和国軍は75,000人を戦死、負傷、捕虜で失ったと見積もられ、反乱軍は65,000人だった。これらの損失の5分の1は、戦闘での死者だった。それは両陣営にとって厳しい損失だったが、共和国軍は人的物的資源が枯渇していたため補充不能だった。エブロ川の戦いの後、ついにカタルーニャ征服の道筋が開かれた。

**フランスと大英帝国が国家主義スペインを承認 [France and Great Britain Recognize Nationalist Spain]：**カタルーニャ [Catalonia] の陥落後、共和国は明らかに崩壊した。フランスと大英帝国は、可能な限り早期に苦悩が終わることを欲したが、戦争にかかわる2つの大きな利害関係があった。一つは、両列強がイタリア軍とドイツ軍がスペインに基地を保つこと、特にバレアレス諸島とモロッコのそれを恐れたこと。もう一つは、想定されるヨーロッパ大戦で、フランコが中立を維持することに両国が大きな関心を寄せていたことである。1939年2月に国家主義政府との秘密交渉が開始されたが、計算づくの両義性により、いったん戦争が終結したら、イタリアとドイツの軍事的圧力を払拭し、戦争の場合には中立に留まることを保証した。同意への道程には、たった一つの障害があった。：フランスととりわけイギリスは、フランコが敗者に行使する報復を恐れた。国家主義者は、終戦についてのいかなるタイプの約束の調印も拒否し、キリスト教徒の資質と統領の言葉は、戦争犯罪のみが正義をもたらし、いかなる報復の意図もないことを保証するのに十分だと述べた。それは、イギリスとフランス政府の信頼を得るのに十分で、公開討論前に自己の立場を守るための土台を与えた。1939年2月27日、チェンバレンとダラディエは、公式にフランコ政権をスペインの正統政府と認めた。

**ガルシア・バリノ [Garcia Valino]：**ラファエル・ガルシア・バリノ（1898～1972）は、アフリカ植民地戦役のベテランで、戦争が開始されたときに少佐だった。彼はモラの招聘を受けるために素早くパンプロナ [Pamplona] へ行き、ギプスコア [Guipuzcoa] の攻勢に参加した兵士とレクテ（伝統的民兵）の戦隊の1つの指揮を与えられた。1937年3月、いまや大佐となった彼は、反乱軍の最も打撃力がある部隊の1つであるナバラ第1旅団を率いて北部戦役を開始した。戦役の終了までに、ガルシア・バリノはテルエルの戦いでナバラ第1師団を指揮し、都市の再征服に参加した。いまや将軍は数個師団を率い、1938年のアラゴンから海への攻勢に参加し、その後はバレンシア [Valencia] に向かった。レバントでは、彼の部隊が共和国軍の強固な抵抗を打ち破ることができず、厳しい頓挫のみを被った。エブロ川の戦いでは、マエストラスゴ軍軍団の指揮を与えられ、反乱軍の反撃攻勢と、続くカタルーニャ戦役で大きな成功を収めた。多くの損害を出したにもかかわらず、ガルシア・バリノの名は常に効率性と結びつけられた。

**恐慌 [Helter-Skelter]：**パニックと慌ただしい退却は、戦争開始時から共和国軍部隊に蔓延する問題だった。初期の数ヵ月間、未経験の民兵はアフリカ駐屯軍のベテラン戦隊に包囲されることを恐れ、この脅威に直面するとすぐに崩壊した。いったん人民軍が創設されると、これらの部隊の準備に時間を掛けることが可能となり、より訓練されて信念と勇気を持つようになった。ただし、共和国軍は、いまだに軍事的挫折、人民戦線の異なる政治派閥間の内部紛争、士気低下、勝利への信念の損失により、厳しい欠陥を持っていた。1937年には、まだ算を乱して退却する場合があったが、最悪の事態はま



だきていなかった。北部戦線の崩壊とテルエル [Teruel] の戦いで、共和国軍の失敗後、フランコは優勢な軍力をアラゴンに集中させた。1938年3月9日、初期攻撃が開始され、反乱軍が戦争中最も目覚ましい攻勢を発動して共和国軍の防御計画を崩壊させ、潰走を強制した。この危機から回復した後に、共和国軍は闘い続け、精力的に防御したが、パニックになる場面はしばしば繰り返された。エブロ川の決定的な闘いの後、フランコの部隊は容易にカタルーニャを占領し、組織的防衛ができない敗残の敵のすぐ後に続いて進撃した。

**叛乱 [Insurrection]** : 戦争最後の月中旬に、共和国の敗北はより確実になっており、戦争終結と勝者の到着を準備するために、政府の後方守備隊のいくつかに謀反が生じた。カルタヘナ [Cartagena] で、これらの存在の1つが発生し、1939年3月5日に新たな共産主義者司令官フランシスコ・ガランが蜂起した。「スペインのため！ 平和のため！」のスローガンとともに、反乱者たちは素早く町を奪取した。ただし、市民階級の参加がネグリン政府に対する蜂起から、海上から部隊を送るよう頼まれたフランコのクーデターへと変換された。反乱軍の最初の爆撃と沿岸砲台からの危機に直面して、共和国軍艦隊は港湾を離れて戻らなかった。それにもかかわらず、共和国軍第206旅団の到着で3月6日にカルタヘナ [Cartagena] の支配が迅速に回復したため状況が変化した。ニュースが届いたとき、反乱軍司令部は増援として送り出した艦船の帰還を命じたが、これらの何隻かは無線機を持たず護送船団内で航海できなかったため、命令を受けなかった。反乱軍兵員輸送艦カステーリョ・デ・オリテ [Castillo de Orite] は、港湾に入る際に沿岸砲台から洗礼を浴びて弾薬庫に砲弾が命中して爆沈した。戦争終結の数日前に、艦船内で千人以上が死んだ。

**メノルカ島の降伏 [Menorca Surrenders]** : カタルーニャ戦役の最後の数日間に、バレーレス諸島 [Balearics] で唯一共和国が支配していたメノルカ島が降伏した。1939年2月3日から6日まで、イタリア軍航空機がビラを撒いて守備隊に降伏を促した。2月7日、イギリス軍艦デヴォンシャーは、共和国権力への最後通牒を携えたフランコの使者を乗せて接近した。これらは降伏を認めたが、あくまでもイギリス国旗の保護下でだった。交渉は、艦船を爆撃して島から追い払うイタリア空軍の活動によってぶち壊しとなった。イタリアは、再びメノルカ島降伏の役割を先導することを企て、一方、イギリスはムッソリーニの手中ではなく直接フランコに行くことを望んだ。デヴォンシャーが到着した際、人民戦線の権力に対して部隊の一部が反乱すら起こしていた。2月9日、上陸した反乱軍部隊は、抵抗なしに島しよの支配を奪取した。

**ミュンヘン協定 [Munich Agreement]** : 1938年、ヒトラーは国際的危機を悪化させる積極的な膨張政策で脅迫した。3月に、オーストリアが侵攻されて帝国に併合され、次の要求はチェコスロヴァキアのズデーテン地方で、そこには300万人以上のドイツ系住民が暮らしていた。ヒトラーはその地域の併合を要求し、チェコスロヴァキア政府は当然反対した。チェコスロヴァキアは何らかの譲歩を行う準備はできていたが、国家として消失することは考えていなかった。9月には、ドイツの脅迫が戦争脅威の極限まで増大し、チェコスロヴァキア政府は軍隊の総動員を命令することで応えた。フランスとソヴィエト連邦は、チェコスロヴァキアと協定を結び、新たなヨーロッパ大戦の危機が迫った。ネグリンが先導する共和国政府は、共和国スペインがドイツとイタリアの敵と手を組み、国際事件がスペイン内戦の方向性を完全に変える可能性に希望を持った。フランコは、その可能性を恐れ、ズデーテンランド危機の最中に、国家主義スペインはヨーロッパ大戦が起きても中立に留まると宣言し、盟友のドイツとイタリアの驚きと不興を買った。9月28日、ドイツ (ヒトラー)、イタリア (ムッソリーニ)、大英帝国 (チェンバレン)、フランス (ダラディエ) の指導者たちは、危機の解決を試みるためにミュンヘンで会合し、会議からチェコスロヴァキアとソヴィエトは意図的に外された。協定が調印され、ズデーテンランドはドイツに

与えられ、イギリスとフランスの融和政策の極致となった。スターリンは、民主主義列強がヒトラーの友人になろうと試み、それが彼をUSSRの正面に押しやると信じていた。この時点から、彼はドイツとの良好な関係を築こうと強く努力し、1939年8月の独ソ不可侵条約に行きついた。スペイン共和国にとって、ミュンヘンでの出来事は希望に冷水を浴びせられた。もしもフランスと大英帝国がチェコスロヴァキアをヒトラーに売ったのであれば、彼らは指一本動かさないであろう。国家主義者にとって、協定は救いだった。ヒトラーは、ズデーテンランドを持って彼の領土要求が終わったと断言した。しかし、1939年3月、チェコスロヴァキアの残りは帝国に併合され、9月1日にドイツ軍部隊はポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が始まった。

**攻勢 (アラゴン) [Offensive (Aragon)]** : テルエルの戦いの勝利と、アラゴン戦線における部隊の集中は、1937年末にフランコが計画したマドリッド攻撃について彼の考えを変化させた。地中海に向かう攻撃を発動することで、彼は有利な状況を取った。ビゴン將軍によって立案された作戦は、1938年3月にダビラ將軍の指揮下で開始された。彼は1個騎兵師団と25個歩兵師団を含む、6個軍軍団と数個師団に集約された200,000名を持っていた。紙の上では、共和国軍は、同様の部隊 (22個師団) を集結できたが、その全てが前線にあったわけではなく、いくつかはテルエルの戦いから回復しておらず、結束した前線を持たず、これらの部隊の士気は全般的に低かった。3月9日、エブロ川の南からの攻撃が開始され、反乱軍は局地的に部隊の優勢、膨大な数の砲兵、航空支援を持った。このゾーンは、第XIIとXXI軍軍団が防御していた。XXI軍軍団は頑強に闘い、ゆっくり秩序だって後退したが、第XII軍軍団は抵抗できず、部隊は戦線を放棄して混乱し、反乱軍はその間隙に突入した。続く数週間に、ロホ將軍は敵の攻勢を止めるためにあらゆることを試み、予備を送って新たな防御線を構築しようとしたが、全てが失敗で、反乱軍は東方への進撃を維持した。4月15日、ナバラ第4師団はビナロス [Vinaroz] で地中海に到達し、共和国ゾーンを2つに分割した。カタルーニャのエブロ川の北では、トレンプ [Tremp] (重要な水力発電所)、バラゲ [Balaguer]、リエイダ [Lerida] は、すでに征服されていた。アラゴンの攻勢は、恐らく戦争中の反乱軍が実施した最も輝かしい攻撃だった。広大な領土を占領し、夥しい敵部隊を全滅させ、共和国スペインを2つに分割したのだから。

**無防備都市 [Open City]** : 1939年1月、カタルーニャ戦線は、たちまち崩壊し、国民軍部隊はバルセロナ [Barcelona] に向かって急進撃した。共和国陣営では、2年前にマドリッドで起きたごとく、敵が首都の門前で停止したことが繰り返されるという、夢を見ている指導者たちがまだいた。ただし、間もなく明らかになるように、状況は全く異なっていた。兵士や市民たちは、過去の敗北と喪失で士気が低下し、敵の勝利が目前にあることを確信していた。マドリッドの英雄的行為が繰り返されるのは不可能だった。なぜならば、バルセロナを防御するための兵員、物資、士気の支えがなかったからである。1月23日、共和国政府は、フィゲラス [Figueras] へ移り、26日夜明けに、ヤグエ將軍のモロッコ軍軍団は、ほぼ無抵抗の都市を奪取した。

**ソヴィエト援助の縮小・日本軍の中国攻撃 [Reduction of Soviet Aid. Japan Attacks Chibna]** : 1930年代の極東における日本の膨張政策は、ソヴィエトの注意を引いた。中国は内戦で傷つき、日本はその影響力をアジア大陸に広げていた。1932年に、日本は満州に傀儡国を建国し、1937年には中国に宣戦して迅速な軍事的成功を達成したが、敵を完全に降伏させることには失敗した (実際、この戦争は1945年まで続いた)。ソヴィエトはこれらの事態に苦慮し、新たな共通の敵に直面して自国の内戦を放棄した中国へ軍事援助を送るまで長い時間を要しなかった。結果的に、共和国スペインのための支援は縮小された。1938年半ばまでに、すでに共和国は戦争に敗北したと考えたスターリンは、極東とナチ・ドイツに焦点を集中させた。

**スペイン航空旅団 [Spanish Air Brigade]** : 1937 年を通して、増強されたコンドル兵団と義勇航空軍団は、北部戦役や他の主要な戦いに参加した。同時に、反乱軍航空部隊も練成された。これらは、大部分がドイツとイタリア製の航空機を装備し、戦闘に参加することが増えた。スペイン空軍は、第 1 スペイン航空旅団に集約され、1938 年春には 3 個爆撃飛行隊 (合計 48 機) と約 50 機の戦闘機集団を持っていた。独立した集団内に、他に 50 機ほどの航空機も持っていた。1938 年夏の間、新たな資材が到着し、多くのイタリア人パイロットが本国帰還に際してスペイン人の手に乗機を残したため、第 2 航空旅団の練成が可能となった。

**国際旅団の撤退 [Withdrawal of International Brigades]** : 1938 年 9 月 21 日、エブロ川の戦いの期間中に、ネグリンはジュネーブの国際連盟で記者会見を行った。彼は共和国政府が全ての外国人部隊を除隊させることを一方的に決めたと声明した。数か月間にわたり、国際義勇兵の本国帰還について、不干渉委員会で不毛に議論された。1938 年夏、各陣営から 10,000 人が除隊することで合意された。ネグリンの声明は、同意が得られる前に発せられたもので、明らかに宣伝的要素と政策的意図を持っていた。それは共和国の国際的位置づけを保証し、他の諸国が共和国に武器を売るよう試みたものだった。ミュンヘン協定がまもなく開示されたため、これらの期待は満たされなかった。戦争のこの時点で、残っている国際義勇兵は共和国軍内で重要性が非常に低かったため、無事に解散することができた。実際、この時点まで、国際旅団は大部分がスペイン人兵士から構成されていた。9 月 25 日から開始して、旅団は前線から引き揚げられ、10 月には感謝と解散の式が行われ、11 月に義勇兵たちは国を離れはじめた。しかし、数百人がスペインに留まり、戦争の終りまで闘った。共和国政府は、「いったん戦争が終了したら、スペイン市民権の権利」を義勇兵たちに与えると保証したが、それはフランコの死後に民主主義が訪れるまで実現しなかった。

### 23. 1. 4 選択カード [Optional Cards]

**8.8 cm Flak 18** : 史上最も有名な兵器の一つ。Flak 18 型は 1933 年にドイツで生産が始められ、1936 年にコンドル兵団と共にスペインに到着した。後に、100 門近くがフランコの軍に送られた。対空砲として設計されたにもかかわらず、間もなく地上目標に対して使用され始め、要塞化建造物に対して非常に有効で、その上あらゆる装甲車両に対しても同様であることが証明された。ハチ・ハチは、第二次世界大戦で伝説になる。

**騎兵襲撃 [Cavalry Charge]** : 1938 年 2 月 7 日、アルファンブラの戦いの間、史上最後の騎兵襲撃の 1 つが発生し、しかもそれは勝利だった。反乱軍第 1 騎兵師団 3,000 の騎兵が敵の陣地を攻撃し、何百人もの共和国軍兵士を恐慌状態に至らしめ、反乱軍攻勢の完全な成功に貢献した。数日以内に前線が崩壊し、数千名の損失とテルエル奪回切迫の結果になった。襲撃が成功したいくつかの要因を説明すると：防御している部隊は人員・物資が共に不足し、大部分は士気の低い新兵部隊だった。反乱軍の砲兵と航空部隊が効果的に活躍し、騎兵は素早く前線に接近して奇襲で不意を突いた。

**ドイツ海外派遣軍団 (GEC) [German Expeditionary Corps]** : 選択ルール 18.4.2.2 の注釈を参照。

**神、国、王のため [For God, Country and King]** : 内戦が開始される前、レクテと呼ばれる、主にナバラ地方からの数千人のカルロス派義勇兵によってスペイン国内で編成された準軍事的部隊があった。その保守主義的イデオロギーとカトリック教の守護は、彼らを反乱側と結びつけ、反乱軍内で際立ったパフォーマンスを発揮した。約 60,000 人のレクテが戦争に参加し、6,000 人以上が戦死した。これらは打撃部隊であり、多くの主要な戦いに参加した。そのモットー「神、国、王」は賛美歌、軍歌の中で唱えられた。逆説的に、これ

らは勝利側陣営の一員であつたにもかかわらず、カルロス主義は戦後に廃れた。ファランジ・ムーブメントとの強制的な統一、フランコ政権の疎外、その多くの内部分裂は、結局は近代スペインの残余イデオロギーに転じさせた。

**Qui nos copan** : 「俺たちは包囲された！」これは、戦争最初の数ヶ月間に、共和国軍民兵が逃げ始める前に叫んだ必死の声である (ただし、算を乱した退却は、戦いが終了するまで起きることになった)。民兵の大部分は以前に軍隊経験を持たず、反乱軍兵士たちによって囲まれることを恐れ、真偽はともかく、罠に掛かりそうな疑いが持たれたら直ちに逃げ出す機会を窺っていた。単純な側面機動によって平地や脆弱な陣地内の防御側共和国軍を一掃することで、反乱軍戦隊の初期の進撃を容易にした。

## 23. 2 共和国軍陣営 [Republican Side]

### 23. 2. 1 戦隊の戦争 [War of the Columns]

**装甲トラック [Armored Trucks]** : 戦争最初の数週間に装甲車両が不足したため、装甲トラックが仕立てられた。これら即席で作られた奇妙な装置は、戦闘にはほとんど役に立たなかったが、その心理的インパクトは少なくとも緒戦期には明白だった。

**マヨルカ島上陸 [Disembark in Mallorca]** : クーデター後、メノルカ島 [Menorca] を除くバレアレス諸島 [Balearic Islands] は地中海の反乱軍要塞拠点で、それ以外は共和国によって統治されていた。マヨルカからスペイン地中海沿岸の海上交通を支配でき、カタルーニャとバレンシアを爆撃できた (実際に起きた) ため、その戦略的重要性は明らかだった。2 個の左派戦隊が編成され、1 個はカタルーニャ州政府 [Generalidad] の主導で、他はバレンシア内だった。これらは、共和国政府の指揮下に置かれた。これらは、それぞれアルベルト・バヨ大尉とマヌエル・ウリバリ大尉に指揮され、共和国軍艦隊によって防護されたイビサ島 [Ibiza] へ上陸した。島が占領された後、2 人の遠征部隊指揮官の間で意見の相違があり、ウルバリは撤収することに決めたが、バヨはマヨルカ島を征服する計画で留まった。共和国軍が海峡を封鎖しているため、増援を受け取る機会がない反乱軍は非常に困難な状況にあった。防御が準備され、補充が動員され、志願兵が募集された。8 月 16 日夜明け、2,500 人の遠征部隊が島の南東に上陸した。その数的優勢は明らかだったが、島内への進撃は優柔不断のために停滞し、防御側は攻撃を含む迅速果敢な対応をした。更なる上陸で、共和国軍の実兵力は 10,000 人に増加したが、初期の奇襲効果は失われ、思いがけぬ抵抗と反撃が作戦を頓挫させた。侵攻の失敗と艦隊を撤収させるという共和国政府からの圧力は、9 月 3 日、バヨに自軍部隊の乗船と撤退を命じさせた。5 日、マヨルカ島は再び完全に反乱軍の手中となり、数日後に反乱軍はイビサ島を奪還した。

**外国の政策支援 [Foreign Political Support]** : 共和国は多くの国々の同情を勝ち取ったが、大部分は物資支援が後に続かなかった。イギリスの試みによって示されたヨーロッパ諸国の政策指標は、ヒトラーを宥めて大きな戦争を避けることで、不干渉委員会は民主主義諸国が中途半端な遅延策を採用したことを明らかにした。これには、スペイン同様に中道左派の人民戦線によって統治されていたフランスを含んだ。一方で、アメリカ合衆国は、中立を堅持していた (ただし、テキサコ会社からフランコに石油を売ることは停止しなかった)。共和国は、USSR、メキシコ、コミンテルンからの支援のみに甘んじた。他の諸国内には、大きな積極的親共和国集団が存在したが、自国政府のスペインへの姿勢を変えさせることはできなかった。

**構築陣地 [Fortified Positions]** : 戦争最初の月中に、両陣営は危険な前線を強固にするため、構築防御陣地を使用した。それらの大部分は単純な陣地で、砂囊、石壁、ときにはコンクリート壕から成って



いた。実際、極わずかな場所のみが強固な防御を持っていた。共和国軍は、主に未経験な民兵から構成され、大規模な攻勢を發動できず、多くの場所の防御に徹することになった。アフリカ駐屯軍戦隊の進撃を抑えるため、構築陣地の使用を試みたが、何度もプロフェッショナル部隊の戦術的優位性が、人員の損害と引き換えにこれらの障害を打ち砕いた。

**知識人と芸術家の共和国支持 [Intellectuals and Artists Favor the republic]**：戦争開始前の数か月間に、反ファシスト知識人同盟が生まれた。それは、文化保護国際会議のスペイン部会で、コミンテルンによって左派組織が開始した。ホセ・ベルガミン、ラファエル・アルベルティ、ルイス・セルヌーダ、マリア・サンブラノ、ルイス・ブニエール、ラモン・J・センデルなど多くの著名な芸術家が同盟の一員で、彼らの大部分はスペインと世界の注目を共和国陣営に振り向けることを目的とした文化的プログラムに努力を傾注した。彼らの夥しい活動には、演劇、映画、ラジオ番組、宣伝、定期刊行物が含まれた。その上、同盟は1937年7月に共和国政府の出資を受けて、反ファシスト作家の第2インターナショナル大会を組織し、27の国から百人以上の作家が参加した。

**国際旅団 [International Brigades]**：世界中（多くはフランス、ポーランド、イタリア、ドイツ）からの反ファシスト義勇兵によって構成された国際旅団は、直接的にUSSRが関与することなく共和政スペインを支援することを望んだスターリンから直接命令されたコミンテルン（共産主義者インターナショナル）によって編成された。彼らを訓練するための基地がアルバセテ [Albacete] に置かれ、6個の部隊が創設された。国際旅団は、ほぼ全ての主要な戦いに参加した。約60,000人の旅団兵士がスペインで従軍し、10,000人近くが命を落とした。

**鉄環 [Iron Belt]**：鉄環は、ビルバオ [Bilbao] を直接防御するための陣地線で、1936年9月に構築が開始された。実際には本物の要塞でなく、コンクリート、鉄条網、機関銃座で増強された塹壕線だった。大部分の防衛線は複線化されておらず、極端に脆弱となっていたが、共和国のプロパガンダは鉄環を「難攻不落」と宣伝していた。

**ラルゴ・カバリェロ政府 [Largo Caballero's Government]**：ホセ・ヒラル政府は、軍事革命に対応することに決定的に失敗したカサレス・キログやマルティネス・バリオの辞職後、1936年7月19日に組閣された。指導者たちは、優柔不断で、過ちを犯し、その上左派政党や労働組合に武器を与えたときに、統治するための権威を全て失った。スペインの主要部で反乱が成功し、到着したアフリカ駐屯軍と一緒にマドリードへの勝利の進撃は、ヒラル政府を窮地に置いた。異種の共和国軍部隊は、統一的な指揮、訓練、軍の編成の必要性を認めることを強いられた。これを実行するため、新たな政府が要求された。ただし、武器を与えられていた政治的、労働組合の部隊は、他から統治されることを拒んだ。1936年9月4日、ヒラルは辞任して、フランシスコ・ラルゴ・カバリェロが引き継いだ。彼はUGT労働組合の領袖で、最も保守的な政党PSOEの指導者だったため、「スペインのレーニン」とあだ名された。新政府は、共通の敵に対して統一のシンボルを提供し、ほぼ全ての左派部隊を統合した（ただし、CNTやPNVはいまだに除外された）。それは「勝利の政府」と名付けられ、ラルゴ・カバリェロは多くの地方行政体の間で分割されていた権力を、中央政府で統合すべく一歩を踏み出した。軍事教練が推進され、統一された指揮統帥が形成されて、新たな軍を編成する莫大な仕事が始まった。それは *Ejército Popular de la Republica*（共和国人民軍）と名付けられた。

**混成旅団 [Mixed Brigades]**：ラルゴ・カバリェロ政府は、民兵を真の軍である人民軍に編成するために軍隊化を実行した。ソヴィエト赤軍に触発され、この新たな軍の中核として第1混成旅団の創設が命じられた。これらは小規模な師団で、各4個歩兵大隊で編成され、

必要な武器と砲兵、騎兵、工兵、医療、幕僚、補給品等の支援組織を持った。第1旅団は、1936年10月に戦闘に投入された。

**奴らを通すな！ [No Pasaran]**：「奴らを通すな！」は、共産主義指導者ドロレス・イバルリ「受難者又は情熱の花」がマドリード防衛戦の間に有名にしたスローガンである。1936年夏を通しての、止めることができないアフリカ戦隊の進撃と初秋の首都への接近は、共和国指導者間で不可解な不穏を生じさせた。悪化している軍事情勢は、首都が早期に陥落するように見えたので、政府をバレンシア [Valencia] へ移すことに決め、マドリードを臨時防衛委員会委員長ミアハ將軍の手に委ねた。防御施設を構築するため、10,000人近くの労働者が動員された。都市の郊外に一本また一本と塹壕線が掘られ、退避壕、 bunker、機銃座が構築された。これらの陣地線、市街地形の優位性、新たに動員された部隊（数千人の兵士と治安部隊）を頼りに、防衛委員会は誰もが可能と信じなかったマドリードを救う任務に備えた。

**作戦命令書の捕獲 [Operation Order Captured]**：マドリードの戦いの中盤、ベレラ將軍の反乱軍部隊が首都門前にあったとき、運命の女神が共和国軍に微笑んだ。1936年11月7日、反乱軍の決定的な攻撃が発動される1日前に、民兵分遣隊が破壊されたイタリア製戦車の中で死んだ反乱軍将校を発見した。死体を探ったときに、彼らは6日にベレラから与えられた作戦命令書を見つけた。共和国軍の幕僚は敵の計画を知り、陽動攻撃を無視して主要な自軍部隊を移動させ、主要攻撃ゾーンを補強することができた。反乱軍は、計画どおりに攻撃した。対峙しているのは、未経験で装備が劣悪な民兵だったが、2倍の人員と強力な陣地を持っていた。反乱軍の戦隊は停止させられて大きな損害を被り、共和国軍の大勝利の中で防御側の士気は高まった。

**ポリカルポフ I-15 「チャト」 [Polikarpov I-15 "Chato"]**：1936年10月半ば、USSRから送られた最初のI-15がスペインに到着した。「チャト」（しし鼻）は、優秀な複葉戦闘機だった。戦争初期の数か月間にドイツから反乱軍に送られたハインケル 51よりも明らかに優秀で、フィアット CR-32 「Chirri」と対等に張り合うことができた。共和国は、153機を受けとり、スペインで237機が造られたため、共和国空軍は合計で390機のI-15を使用し、最多の戦闘用航空機となった。

**ロシア製戦車 [Russian Tanks]**：1936年10月半ば、最初の50両のソヴィエト製T-26戦車がカルタヘナ [Cartagena] に到着し、アルケナ [Archena]（ムルシア [Murcia]）に基地を置いた。戦争中に、USSRは数百両の戦車と装甲車を共和国軍へ送った。これらの車両は、性能が優秀だった。疑いなく、最も傑出した形式は、近代的で優秀なT-26Bで、反乱軍陣営にライバルを持たなかった。このおかげで、イタリアやドイツから送られた軽戦車に対して、共和国軍は装甲に関して総合的な優秀性を得た。ただし、彼らはその優越性を上手に活かせなかった。

**デザイナーズ・ノート**：より正確な「ソヴィエト製戦車」の代わりに、「ロシア製戦車」という用語が使用されてきた。なぜならば、1936年に共和国軍がそのように呼んだからである。当時のスペインでは、ソヴィエト連邦全体を指す用語として、普通に「ロシア」を用いた。

**厳冬 [Severe Winter]**：1937～38年のスペインの冬は歴史的な寒さで、気象条件は軍事作戦に直接影響した。このため、テルエルの戦いの間、両陣営の戦闘部隊は狂暴な雪嵐とシベリアに近い寒さを被り、凍傷による損失はしばしば戦闘によるものよりも酷かった。

**ソヴィエトの軍事援助 [Soviet Military Aid]**：大英帝国とフランスが不干渉委員会を尊重し、一方イタリアとドイツが反乱軍陣営への



援助を増加させた事実は、スターリンに共和国軍への軍事援助を決意させた。これは、戦時物資の代金を USSR へ支払うためにスペイン銀行の金備蓄を送ることで賄われた。ソヴィエトの援助は、極めて重要で、豊富で、多岐に及んだ。：軽火器、弾薬、大砲、航空機、装甲車両。ソヴィエトは、軍事顧問団やパイロットも送り込んだ。

**T-26**：疑いなく、スペイン内戦で最高の装甲車両である。ソヴィエトは、イギリスのヴィッカーズ 6 トン戦車を基にこれを設計した。USSR は、45mm 砲塔砲と 2 丁の機関銃を持つ T-26 B 型を合計 281 両送った。

**第5連隊 [The Fifth Regiment]**：マドリッドに起源を持つ第5連隊は、首都での叛乱が失敗した数日後に共産主義者によって編成された。開戦時から、共産主義者たちは将校、訓練、有効性を持つ、真の軍隊創設に励んでいた。徴兵と訓練の中枢だった第5連隊は、その目標を達成するために用いられた。その成功は申し分のないもので、約 30,000 人の民兵を訓練し、これにはモデスト、リステル、「エル・カンペシーノ」(百姓)、タグエニャ等の共和国軍陣営の主要な上級職者も含まれた。そこから編成された中隊や大隊は、より優秀だった。

**白色テロ [White Terror]**：軍事クーデターの準備期間中でさえ、関係者は迅速に権力を獲得する手段としてテロの利用を計画した。「指揮者」として知られ、革命の主要な組織者だったモラ將軍は、以下のように書き残している。：「強力でよく組織された敵を可能な限り素早く鎮圧するためには、行動が極度に暴力的でなければならないことが考慮される。[...] 恐怖の雰囲気を増殖させる必要がある」。共和国陣営については、戦争の最初の数ヶ月間は流血だった。反乱軍兵士は、反乱軍ゾーンを制御したが、鎮圧には時間がかかることになった。1936 年の終わりを通して、後背地では無秩序状態が存在することで優位性を得たファランヘ党员、保守主義者、右翼による多くの犯罪が行われた。犯罪のいくつかは見過ごされたか、軍事官憲によって直接鼓舞された。犠牲者たちは非常に異なる出自で、政治家、左派労働組合員、兵士、政府の下級官僚等だった。しかし、テロは革命の敵と見なされた誰にでも訪れた。鎮圧の悲劇は、状況を味方にした悪人や、恐ろしい犯罪に参加しなければならない権力によって悪化した。より国際的に有名な蛮行の 1 つは、グラナダ [Granada] の詩人フェデリコ・ガルシア・ロルカの暗殺だったが、それは数千の犯罪の 1 つに過ぎなかった。最初の戦隊の軍事作戦は、やはりテロの宣伝に貢献し、特にアンダルシアとエストレマドゥラがそうだった。これらは小規模な部隊で、広大な地域を支配できず、進撃に伴って征服した領土内で更なる蜂起の根源を断つために、狂暴な鎮圧を企てた。モロッコ人兵士たちは特に恐れられ、無慈悲で悪名が高かった。戦争の進展に連れて、フランコ派の鎮圧は法制化され、殺人は減少したが、いかなる手続き上の保証もなく裁判や戦争裁判が継続し、多くの死刑判決が下された。フランコ派と同様に、共和国は自らの不行跡を糊塗し否定するために努力する一方で、反乱軍の凶悪犯罪への関与を告発した。彼らは世界に「ファシストの犯罪者と人民の敵」を問題提起するためにプロパガンダを用いた。

## 2.3. 2. 2 動員段階 [Mobilization Phase]

**悪天候 [Bad Weather]**：悪天候は、戦争中に何度も軍事作戦に影響を与えた。例えば、北部に対する戦役で、豪雨が反乱軍の進撃を遅延させ、グアダラハラ [Guadalajara] に向かうイタリア軍の攻勢を著しく妨げた。両陣営は、テルエルの激戦中に雪と低温を被った。

**グアダラハラはアビシニアではない・・・ [Guadalajara is not Abyssinia]**：1936 年 12 月、ムッソリーニによって送られた最初の兵士たちがスペインに到着し、増援が続々と送られた。1937 年 2 月、イタリア軍は反乱軍のマラガ [Malaga] 攻勢に参加して迅速な輝かしい勝利を達成し、敵は弱く易々と打ち負かせるという誤った幻想

を彼らに抱かせた。実際イタリア軍は、戦場で訓練されていない、武装が貧弱で未経験の民兵と対峙した。3 月には、Corp di Truppe Volontarie (CTV) が創設され、イタリア軍の指揮を執る将校たちは、北西からマドリッドの包囲を企て、フランコにグアダラハラへの攻勢発動を提案した。攻撃は CTV の機動力を利用した *guerra celere* あるいは電光石火の概念の使用を望んだが、その装甲車両は軽く、明らかに共和国軍の T-26 に劣っていた。雨と霏が航空機の飛行を妨げたにもかかわらず、3 月 8 日に攻勢が発動され、弱体な前線は容易に突破された。共和国軍の対応は迅速で、最良の部隊が増援の戦車と共にグアダラハラ [Guadalajara] へ送られた。9 日、イタリア軍は進撃を継続し、10 日にはブリウエガ [Brihuega] を奪取したが、戦場の自然がもう一つの敵となっていた。数百の車両が狭い道路にあるか原野の泥にはまっており、降り続く雨が不整滑走路を使用不能にしたために反乱軍航空機は離陸できず、一方共和国軍航空機はコンクリートの滑走路から作戦できた。11 日、堅固な防御線に直面して進撃が遅滞し、12 日には共和国軍が反撃して敵の攻勢を停止させた。翌日、イタリア軍の状況は悪化し、それは自軍将校と敵の航空優勢により更に酷くなった。18 日、共和国軍により発動された反撃が潰走を生じさせ、リットリオ師団のみが退却中に秩序を維持した。人民軍は前進し、失われた領土を回復した。イタリア軍は遙か彼方へ退却したが、戦線を再編成して持ちこたえた。グアダラハラにおける敗北は、直ちに共和国のプロパガンダによって大々的に宣伝され、それはドーウチェの部隊に代表されるファシズムに対する勝利のシンボルとして価値があった。奇妙にも、反乱軍ゾーン内でも、高飛車な態度とムッソリーニの尊大さでスペイン人の自尊心を傷つけた同盟軍の失敗を喜んでいる者たちがいた。多くのジョークや笑い話にされ、ファシスト賛歌「ファッチェッタ・ネラ [Facceta Nera]」の歌詞を変えた歌さえ唄われた。

グアダラハラはアビシニアじゃない、  
ここでは、赤どもが手榴弾をなげる。  
ニーガス\*と同じじゃない、  
ここスペインではうまく命中する。

\*アビシニアの皇帝に与えられた名前。

**ゲルニカ [Guernica]**：1937 年 4 月 26 日、戦争で最も知られた悪名高いエピソードが起きた。：ゲルニカ爆撃である。戦闘機に護衛された 25 機ほどの爆撃機は、大部分がコンドル兵団の一員で、何波にもわたってバスクの町を攻撃し、30 トンの爆弾を投下し、その 3 分の 1 は焼夷弾で、逃げ惑う民間人を機銃掃射した。ゲルニカは炎に包まれた。200 人以上が殺され、建物の 70% が破壊されたが、象徴的なオークと町役場は無傷に残った。町は前線から僅か 15 ないし 20 キロメートル後方に過ぎず、敵を混沌状態に置いて連絡線を切断する試みとして、反乱軍はすでに後背地に同様の爆撃を行っていた。同様の爆撃は、オチャンディアーノ [Ochandiano] やドゥランゴ [Durango] で起きた。ゲルニカの爆撃は、戦争中最大ではなかったが、付随した状況がその重要性を莫大なものにした。：町がほぼ壊滅したこと、その象徴的性格(特に、バスク人の愛国精神について)、外国特派員の熱狂的報道、後にパブロ・ピカソの絵画を通して不滅の出来事となったこと等である。攻撃による動揺のため、フランコの司令部は爆撃を否認し、共和国軍がゲルニカを破壊したと訴えた。不名誉な告げ口は、伝説的名声と爆撃に対する怒号を増加させた。

**諸外国からの増援 [International Reinforcements]**：外国人の流入は、合計で 6 個国際旅団の創設を可能にした。ただし、時間の経過とともに、義勇兵の欠員はスペイン人兵士によって補充されることが要求された。実際、最後の旅団は、創設時から外国人義勇兵大隊よりもスペイン人のそれを多く持っていた。

**リステル [Lister]**：エンリケ・リステル・フォルハン (1907~1995) は、スペイン共産党 (*Partido Comunista de Espana*, PCE,) の一

員で、ソヴィエト連邦内で軍事教練を受けていた。戦争が開始されたとき、リステルは反ファシスト労働者と百姓民兵 (*Milicias Antifascistas Obreras y Campesinas, MAOC*) を訓練しており、民兵と連携した日から戦闘に参加し、少佐に昇進した。リステルは、第5連隊の主組織者の一人で、1936年11月に前線でマドリードを防衛した。彼は第1混成旅団、第11師団、次いで第V軍軍団と全てエリート部隊の指揮を与えられ、ハラマ [Jarama]、グアダラハラ [Guadalajara]、ブルネテ [Brunete]、ベルチテ [Belchite]、テルエル [Teruel]、エブロ川 [the Ebro] の戦争中の大きな戦いで指揮を執った。彼は大佐の階級で戦争を終え、ソヴィエト連邦に飛んだ。彼は軍人栄達の道を追及し続け、第二次世界大戦ではソヴィエト陸軍の將軍として闘った。

**ネグリン政府・ロホの指揮権掌握 [Negrin's Government. Rojo Takes Command]** : 「5月事件」は、ラルゴ・カバリェロの政敵によって、彼を失墜させるために利用された。1937年5月17日、疲れ切った彼は辞任し、19日にファン・ネグリンが政府のリーダーシップを掌握した。ネグリンは、前任者と同様に社会党員だった。彼はラルゴ・カバリェロ政府では財務相で、戦争物資の支払い保証としてスペイン銀行の金をソヴィエト連邦へ送る決断を下した一人だった。政府の長として、彼は人民軍を再編成し、軍需工業を発展させ、地方の議会や政府から権力を奪った。戦争の終了まで、彼は共産主義者の支持を受けて頑なに抵抗を続け、ヨーロッパ大戦の勃発が共和国を救うことになることと信じた。政変は、ピセンテ・ロホ中佐が共和国軍中央司令部参謀長になることを可能にした。彼は1936年11月にマドリードの防衛を成功させた聡明な戦略家だった。新たな地位から、彼は終戦まで直接フランコに対峙した。ロホは、主導権を維持して繰り返し反乱軍を叩くために、奇襲と反撃を用いた。彼は戦争中の最も重要な攻勢のいくつか: ブルネテ、ベルチテ、テルエル、エブロ川等を計画した。全てが聡明で技術的に完璧な計画だったが、望まれる結果は決して達成されることがなかった。

**ニオン会議 [Nyon Conference]** : 1937年夏、地中海におけるイタリア軍「海賊」潜水艦の攻撃は、国際緊張と、公海上の自由な航海が制限されたことに我慢できないフランスと大英帝国からの断固とした反応を引き起こした。9月6日、スイスの小さな都市ニオン [Nyon] で、ドイツとソヴィエト連邦を伴う、全ての地中海国家の会議が招集された。ドイツとイタリアは会議を欠席し、自由航海の保護、それを脅かすいかなる潜水艦への攻撃と破壊も誓約することが主要調印国によって同意された。状況がどのように進展したかを見ると、ムッソリーニは自軍潜水艦、駆逐艦、航空機の撤退を命じ、ドイツとイタリアは会議の同意事項に調印した。

**ポリカルポフ I-16 「モスカ」 [Polikarpov I-16 "Mosca"]** : このソヴィエト製航空機は、1936年11月のマドリードの戦いで最初に使用された。首都の「下水管から現れた」ように見えたため、反乱軍は「ネズミ」[Rat] のニックネームで呼んだ。これは近代的な単葉戦闘機で、ドイツ軍のメッサーシュミット BF-109 が到着するまでライバルを持たなかった。ソヴィエト連邦は、合計 276 機のポリカルポフ I-16 「モスカ」 (ハエ [Fly]) を送り、10 機以上がスペインで造られた。

**SIM (軍事調査部) [SIM (Military Information Service)]** : 1937年8月9日、共和国国防省は、防諜、サボタージュ停止、調査、武装部隊の搜索作戦を実行する目的で、SIM (Servicio de Investigacion Militar) を創設した。SIM は、第五列に対する効果的手段だったが、弾圧的な機関は共和国軍の階級内で恐れられ、軍事裁判に不信感が広がった。共産主義者たちは SIM の支配を増加させ、ソヴィエト諜報員はスペインで NKVD 式の弾圧を適用し始めた。: チェカ (秘密監獄)、「科学的」拷問、合法的手続きの省略、失踪、暗殺等である。

**戦艦エスパーニャの沈没 [Sinking of the Battleship *Espana*]** : 戦艦エスパーニャ (1931年まではアルフォンソ XIII 世) は、1909年から1921年に建造された3隻の同型艦の1隻で、世界最小のドレッドノート型戦艦だった。革命開始時、エスパーニャはエル・フェロル [El Ferrol] で予備状態にあり、大改装するかスクラップにするか検討中だった。反乱軍は、直ちに就役させるとビスケー湾に配備し、沿岸を砲撃して共和国港湾を封鎖した。1937年4月30日、イギリスの商船を追跡中に、戦艦エスパーニャは反乱軍自身によって敷設された機雷に接触した。爆発は巨大な破孔を開け、艦は傾いて間もなく沈没した。駆逐艦ベラスコは、5人の死者を除き、残りの乗組員を救助した。エスパーニャの喪失は、ビスケー湾の封鎖に影響を与えなかったが、共和国軍の士気高揚をもたらした。

**戦略反撃 (ブルネテ) [Strategic Counterattack (Brunete)]** : 1937年春、共和国政府が直面していた最大のジレンマは、フランコ部隊からの北部戦線への圧力をいかにして無効にするか (又は少なくとも軽減させるか) だった。現実として、アストゥリアス、サンタンデル、特にバスク自治政府の間に連携はなく、援助は陽動作戦を通して与えなければならなかった。4、5、6月にマドリード周辺で行われた最初のそれは失敗した。夏に、ロホ中佐は「共和国軍の最初の攻勢試行」として、追加の作戦を計画し、それはネグリンに率いられた新政府のためのプロパガンダ勝利をも意図していた。共和国軍参謀本部は、マドリードを攻囲していた反乱軍部隊を包囲する、野心的な計画を立案した。主攻撃を発動し、素早く二次攻勢が続くことで、両方の攻撃が一緒に前線を突破して敵を袋の鼠にする作戦である。攻勢は6月5日夜に開始され、奇襲と圧倒的な数で初期の作戦は成功し、共和国軍部隊は6日にブルネテ [Brunete] を占領した。それにもかかわらず、共和国軍将校の積極性の欠如と、包囲陣内の抵抗を終わらせるために前進が遅れたため、進撃速度は間もなく鈍った。これは部隊を消耗させ、攻勢を遅らせた。その上、反乱軍は、脅威に晒された地域に増援を送ることで素早く対応した。7月7日に開始されていた二次攻撃についても、完全に失敗した。12日、攻勢は終了し、共和国軍兵士たちは征服した土地の強化を開始した。フランコは挑戦に応えることを決め、北部戦線の部隊と共に空軍とコンドル兵団の大部分を含む多くを送るよう命じた。7月18日、反乱軍の反撃攻勢が開始され、25日にブルネテが奪回された。激しい戦いが続いたが、共和国軍は何と占領した土地の一部を保持した。ブルネテの戦いは、両陣営に大きな損失を与えて終了したが、共和国軍の損害は 23,000 人が死傷とかなり酷く、対する反乱軍のそれは 17,000 人だった。

**戦略反撃 (ベルチテ) [Strategic Counterattack (Belchite)]** : 1937年夏、北部戦線での反乱軍の進撃を停止させる必要から、共和国軍司令部は新たな陽動攻勢の開始を強いられた。今度は、アラゴンを攻撃することに決められ、主要目標はサラゴサ [Zaragoza] の都市だった。計画された攻勢の正面は、エブロ川北のタルディエンタ [Tardienta] と南のベルチテ [Belchite] の町間約 100 キロメートルの広さだった。ブルネテの戦いに参加した最良の部隊が、再編と増強された後にそこへ送られた。ブルネテの過ちを避けるため、目標への進撃は包囲陣の抵抗を減殺させるために停止することなく行われなければならないと共和国軍司令部は命じた。8月24日、共和国軍部隊は、奇襲によって敵の脆弱な戦線を突破した。ただし、北部ではスエラ [Zuera] と ビリャマヨール [Villamayor] の町の奪取に失敗し、攻勢はサラゴサの数キロメートル手前で停止した。南部では、エブロ川とベルチテとの間の戦区で縦深突破した。この攻勢の激しさにもかかわらず、フランコはサンタンデルへの進撃を停止させず、マドリード近郊に配置されていた4個師団と多数の空軍部隊でアラゴン戦線を増強した。他方、停止することなく進撃せよとの命令に従っていた共和国軍部隊は、クイント [Quinto]、フエンテ・デ・エブロ [Fuentes de Ebro]、ベルチテ [Belchite] を強襲する誘惑に打ち負けていた。ベルチテに対して本格的な攻囲戦が行われ、その征服は戦争の叙事詩的戦いの1つとなった。攻囲戦の12日間に、攻撃側



と防御側は家一軒ごとに仮借なき接近戦を闘い、9月5日までに共和国軍は何とか荒廃した町を奪った。これは戦術的な成功で、攻勢全体の戦略的失敗を通して被った損失を埋め合わせることはできなかった。

**戦略反撃 (テルエル) [Strategic Counterattack (Teruel)]** : 1937年10月、いったん北部戦線での闘いが終了すると、フランコは(再び)次の目標をマドリードに決め、部隊の準備と移動を開始した。共和国軍参謀総長ロホ将軍は、エストレマドゥラでの野心的な攻撃を計画していたが、この新たな脅威に直面して攻撃を放棄した。反乱軍の攻勢を頓挫させるため、敵の予備を引き寄せてフランコにマドリードから離れた場所での闘いを強いる目的で、彼はテルエル [Teruel] 突出部での作戦を立案した。悪い気象条件にもかかわらず、12月15日夜明けに共和国軍の攻勢が開始された。複数の師団に支援された3個の軍軍団が攻撃を発動した。テルエルは、武装が貧弱な僅か4,500名の旅団によって防御されていたため、共和国軍部隊は容易に戦線を突破し、迂回移動で都市を包囲した。翌日以降、共和国軍はテルエルに到着する反乱軍増援を停止させるための防御線を確立する一方、自軍は都市の奪取を企てた。攻勢の規模が判明すると、フランコは挑戦に応じることに決め、予定されたマドリード攻撃を中止し、強力な軍を持って攻囲を救出するために突進した。テルエル内の防御側が僅かな建物を防御している間、反乱軍の反撃の圧力が共和国軍戦線を押し戻し、12月31日までに被攻囲者とその解放者との間は200メートルのみとなった。夜間と豪雪が最後の一押しを延期させた。一方、この地域を守っていた共和国軍は、恐慌状態となって陣地を放棄したが、厳しい譴責を受けた数時間後に戻ってきた。この間に、都市は反乱軍によって無抵抗のうちに解放された。1938年1月1日、状況は完全に変化し、増強された共和国軍が反乱軍の前衛をテルエル近郊で退け、ロホは増援を送った。1月7日、25日間の英雄的抵抗の後、都市の反乱軍司令官レイ・ダルコール大佐は降伏を認め、8日にテルエルは共和国軍の手中となり、テルエルは戦争中に共和国軍によって征服された唯一の州都となった。1月17日、反乱軍は攻勢を強め、より多くの部隊を送り、2月5日までに共和国軍の防御は破綻し始めた。ロホは、自身で作戦を指導するためにテルエルへ行ったが、21日に反乱軍が都市を包囲するのを妨げることはできなかった。孤立を避けるため、最後の共和国軍部隊が撤退し、2月22日にテルエルは再び反乱軍の手中となった。戦いは、両陣営に大きな損失を与えたが、人民軍は瓦解した。初期成功後に悲惨な敗北を被ったことで、士気は地に落ちた。

**戦車増援 [Tank Reinforcements]** : 1937年を通じて、ソヴィエト連邦は共和国に優秀な装甲車両を供給したが、1938年春には船荷を停止させるいくつかの状況があった。1937年3月から1938年3月までに、175両のT-26と50両のBT-5が共和国の港に到着した。逆説的に、スターリンはフランコ軍最良の装甲車両の供給者でもあった。共和国軍によって使用された装甲車両の性能と火力を知ると、反乱軍司令官たちは第一にそれらに対して防御し、第二にそれらを捕獲することに努力を傾注した。戦争中に、50両以上のT-26とBT-5が捕獲され、反乱軍戦闘部隊内に組み入れられた。

### 23.2.3 軍の戦争段階 [War of the Armies Phase]

**経済再編 [Economic Reorganization]** : 反乱軍と共和国軍陣営は、政策的、イデオロギー的、社会的、そしてもちろん経済的に大きな差があった。緒戦時から、共和国政府は新たな経済体系の基盤確立を実行した。: 企業の押収、土地の没収、工場と基盤機関の国営化、銀行収支の管理等である。これらの国家主導は、多くの地方、とりわけアラゴン、カタルーニャ、レバントで拒絶された。なぜならば、戦争の最初の数か月間に、無政府主義者労働組合 CNT や FAI が、強烈な集産化キャンペーンを行ったからである。各企業は、優れた企業感覚が欠如するのみならず、共和国の戦争努力の必要性も満たせない労働者委員会の支配下に置かれたままだった。生産性は相当

に落ち込み、重苦しい官僚主義が生まれた。つまり、それは経済破綻だった。共和国政府は、あらゆる手立てによって、状況を回復させようと試みた。彼らは、多くの自治政府や地方委員会の間に分割された権力を回復し、中央集権化しなければならなかった。ラルゴ・カバリェロの下で、財政相ネグリンはさらに中央集権化を実行し、経済政策を連携させて鍛錬した。彼は相対的に成功し、なんとか戦争努力を向上させたが、生産と供給の厳しい問題があった。

**要塞化建造物 [Fortifications]** : 敵の進撃を停止させるため、共和国政府は防御線構築に数千人の労働者を動員した。大部分は、前線で闘うには年を取りすぎた男たちで、いわゆる労働と陣地大隊が編成された。軍の工兵隊と共に、彼らは何キロメートルもの塹壕を掘り、胸壁、陣地、退避壕、拠点を構築した。これらの構築物は、共和国軍の防御努力に不可欠のものだったが、しばしば反乱軍は容易に突破した。概して、陣地の強度は、防御側の士気に直接負っていた。戦争最後の年に構築された陣地、X-Y-Z 線 (バレンシア北のエスパダ [Espadan] の麓に位置した) には、触れる価値がある。反乱軍は1938年7月にこれを破壊し、カタルーニャ防御のために構築されたL-1、L-2、L-3、L-4線を無力化した。

**フランス軍介入の脅威 [French Intervention Threat]** : アラゴン攻勢の成功後、反乱軍は1938年4月15日に海へ到達して共和国領土を二分した。この決定的な瞬間に、フランコはこの戦争で最も議論の的となった戦略的決定の1つを行った。孤立したカタルーニャを攻撃する代わりに、彼はバレンシアに向けて南部への進撃を命じた。この決断の理由は、全く知られていない。総帥はカタルーニャの征服を望まなかったということも考えられる。なぜならば、それは共和国の急速な崩壊と戦争の早期終結を意味し、一方で彼の意図は進撃を遅らせてきちんと共和国とその全ての支持者たちを叩くことにあったというものである。他の考え方としては、これは重大な軍事上の誤りで、フランコの限られた能力をあらわしているというものである。ただし、最も頻繁に引用される意見は、当時、国際政策の不安定が発生していたことに関係があるというもので、オーストリアの併合が起り、ドイツはチェコスロヴァキアに関して国際的圧力を増加させていた。フランスはこれを心配して見つめており、ピレネー国境近辺にドイツ軍とイタリア軍の部隊がいることも恐れていた。フランス軍がマヨルカ島に侵攻するという噂があり、新聞は3個又はおそらく5個のフランス軍師団がカタルーニャ戦線に送られようとしていると報じた。3月15日、実際のパリでは、スペイン介入の可能性とフランコへの最後通牒について議論するため、ブルム首相は国家防衛委員会を招集した。出席者全員がこれに反対し、いかなる介入もイタリアとドイツに casus belli (開戦口実) を与え、フランスが未だ準備できていないヨーロッパ大戦を誘発すると見なされた。さらに問題なのは、大英帝国はおそらくこの決断を正当と見なさず、支援してくれないと考えられたことである。

**枢軸軍援助の中断 [Interruption of Axis Aid]** : フランコと彼の同盟国ドイツ、イタリアの関係は、危機の瞬間を迎えていた。その理由は、軍事作戦の実行方法、経済協定、国家主義政府とフランス、大英帝国間の外交接触における意見の相違だった。1938年3月、全ドイツの航空機生産をルフトヴァッフェに吸収する原因となるオーストリア併合が起き、スペインへの供給がカットされた (ただし、後に復活することになる)。1938年8月、ズデーテンランドの危機が全ヨーロッパ大戦誘発を脅かし、それを恐れたフランコは仮定の大戦では中立に留まることをいち早く宣言した。イタリアとドイツはこの宣言に困惑したが、彼らはそれがアングロ・フランスへ圧力をかける対応と認識した。ただし、フランコと大英帝国の間には多くの同意があり、それにはコンドル兵団とドイツ人義勇兵抑留の噂を含んだ。これはヒトラーをいらいさせ、それを消すために時間を要する緊張状況をつくり出した。ミュンヘン協定と戦争脅威の消滅は、関係を回復させた。エプロ川の戦いは、多くの人的資源と戦争資源を消費した。損失を償い、新たな師団を武装するため、フラン

コはヒトラーに莫大な援助を送るよう頼んだ。ドイツは同意したが、経済的、政策的、軍事的な条件を要求した。これらの全てが、援助物資の到着を遅らせた。

**イタリア軍の撤退 [Italian Withdrawal]** : 1938 年 7 月、不干渉委員会は、スペインからの外国人戦士が部分的に撤退するというイギリスの案に賛成した。ドイツとイタリアは、フランコにこの案を呑むように勧めたが、その実施は遅らせた。共和国政府は、委員会が反乱軍に交戦国としての立場を与えたことに不快だったが、敵部隊内に重要な外人部隊が存在し、それらが空と海の支配に不当な影響を与えていると主張した。フランコは、自身の同意の上に状況を置き、交渉を引き延ばした。一方、ヨーロッパではズデーテンランド危機が勃発し、戦争の危険が増大し続けていた。9 月 21 日、ネグリンは驚くべき声明を行い、自軍の国際義勇兵を一方的に撤退させた。9 月 29 日、ミュンヘン協定が行われ、ムッソリーニはイタリア軍兵士 10,000 人の撤退を声明し、10 月 20 にナポリで大きな名誉を受けることになった。これはイタリア支援の終わりを意味するわけではなく、戦争を継続するために必要とされる戦争物資をフランコに送り続けた。CTV は、再編されて規模を縮小し、その瞬間から構成員の半数はスペイン人となった。

**最後の動員 [Last Mobilization]** : アラゴンの崩壊後、共和国政府は、軍を再建して再編するために、何もかも利用した。その任務には、莫大なマンパワーが要求された。1938 年春の終わりに夏の間開始まで、共和国は 1925~1929 年兵と 1940~1941 年兵を徴兵した。徴兵された 16 歳 (有名な「ミルクビン徴兵」) から中年までの男性で、新たに 12 個師団を編成した。1922~1924 年兵の予備役も、陣地構築要員として動員された。これら全ての努力は、後方地域の脱走兵や逃亡兵の捕獲に専念した回復センターの創設によって補完された。戦時捕虜の間からすら徴兵が行われた。カタルーニャ戦線崩壊の中盤、1939 年 1 月 5 日に、1915 年~1921 年の 7 年間からの補充が動員された。共和国ゾーン内では、18 歳から 45 歳までの全ての男の市民が軍に奉仕するため要求されたが、高齢者は陣地を構築するためにのみ使用された。加えて、17 歳から 55 歳までの全てのスペイン人が布告によって徴兵された。共和国陣営の人的資源は、明らかに枯渇していた。

**限定攻勢 [Limited Offensive]** : 1938 年 5 月、中央ゾーン内の共和国軍は、バレンシアの防御戦闘で厳しい闘いをしてきた。一方、カタルーニャの部隊は平穏な期間を迎え、部隊を再編して装備する機会を与えられた。いったんそれが終わると、ネグリンは軍の有効性を証明する時期だと考えた。ロホは、2 方向への攻勢を立案し、敵の予備を引きずり出してレバント戦線への圧力減少を企てた。300 門の砲を持つ 14 個師団と戦車の集団が作戦に参加した。彼らの正面には、8 個の反乱軍師団があった。攻撃は 21~22 日の夜間に開始され、トレンプ [Trempl] とバラゲ [Balaguer] の防御側に困難な状況が現出した。共和国軍は、部分的な成功を達成したが、強襲全体としてはうまくいかず、進撃は停止させられた。5 月 27 日、共和国軍中央司令部は、「目的の 1 つを達成し (予備を引きつける)、自軍部隊の消耗を避けるため」攻勢の停止を命じた。部隊は開始時の基地に戻され、全てが攻撃前の状態に置かれた。しかし、実際には、国民軍は総予備を移動させず、バレンシア近郊の前線からいくつかの部隊さえ移動させていた。

**ネグリンの 13 カ条 [Negrin's 13 Points]** : 1938 年 3 月、共和国は前線と後背の両方で危機の時期に遭遇していた。反乱軍はアラゴン攻勢を発動して共和国領土内に楔を打ち込み、地中海への進撃によってそれを 2 分した。あらゆる場所で、共和国軍の士気は敗北の影響を受けた。状況を好転させるため、ネグリンはこの危機のさなかに政府を完全掌握し、首相と防衛相の両方の役割を担った。労働組合は、4 月 6 日に組閣された新たな政府に再び組み入れられ、その中で生きていく上で絶望的な状況において、仮想上の適切な統一性

を与えた。4 月 15 日、ネグリンは戦争と政策目的について要約した、13 カ条 (第一次世界大戦中のウィルソンの 14 カ条に類似) として定義した。実際には、戦争を終了に持っていくための条件と、戦後スペイン人の生命を救うための基礎を提示したものだ。プロパガンダ・キャンペーンが 13 カ条を公表したが、多くの収穫は得られなかった。

**フランス国境の開放 [Opening of the French Border]** : 1938 年 3 月初旬、明らかなスペイン共和国擁護者であるレオン・ブルムに率いられた新たな人民戦線政府がフランスで組閣された。彼が提案した軍事介入は、政府の他のメンバーや高級軍人から完全に拒絶されたが、彼は 3 月 17 日にスペインとの国境開放を命じることができた。このため、ソヴィエト連邦からの援助がフランスの港に到着し、次に鉄道でスペインへ送ることで封鎖を回避できた。この追加の軍需品により、共和国軍部隊は再編して後にエブロ川で攻勢を発動できた。

**「P」計画 [Plan "P"]** : 1936 年 8 月から 10 月にかけて、セビリャ [Sevilla] からマドリッド [Madrid] まで反乱軍戦隊が急進撃したため、バダホス [Badajoz] 地方には薄く弱い側面が残された。1937 年 3 月になるまで、両陣営の関心はマドリッドの戦いとそれに続く反乱軍の首都包囲の試みに集められた (ラ・コリユナ道路、ハラマ、グアダラハラ)。これらの攻勢の失敗は、作戦を北部へ移し、他の二次的戦線の重要性が復活した。共和国人民軍戦略家たちの注意を引いた戦区は、ほぼ忘れられたエストレマドゥラ戦線で、反乱軍の領土を二分できる作戦発動の可能性があった。このような作戦は、2 度計画され実行されなかったが、共和国の状況が破滅的になった際に、遂にこれらのオリジナルな計画に似たそれが実行に移されることになった。最初の攻勢計画は、1937 年 4 月と 5 月の間に発動されるはずだったが、何度も延期され、政敵の軍事的勝利を望まない共産主義者たちから完全に拒絶された。ラルゴ・カバリエロの失脚を強制した政治的危機のため、最後にはキャンセルされた。1937 年 10 月、北部戦線の陥落直後、ロホ大佐は「P」計画と呼んだ、以前の計画を拡大増幅したものを計画した。しかし、差し迫ったマドリッド攻撃が彼に迅速な戦略反撃の発動を強制し、目標にはテルエル [Teruel] が選ばれた。1938 年夏、反乱軍はエストレマドゥラで複数の作戦を行い、広く領土を獲得してポルトガルから遠くに前線を押しやり、共和国軍が反乱軍ゾーンの 2 分割をより困難にすることが目的だった。1939 年 1 月、戦争がほぼ敗北するカタルーニャ戦役の中盤、ロホは反乱軍のバルセロナへの進撃停止を企て、エストレマドゥラで絶望的な攻勢を発動した。計画には、中央戦線からの攻撃に呼応した、敵の後背地モトリル [Motril] 地方への侵攻上陸が含まれた。ただし、部隊はすでに乗船していたにもかかわらず、ブイサ提督の反対で侵攻は発動されなかった。攻勢は前線に穴を穿ち、共和国軍はなんとか突破したが、包囲されると危険が彼らを開始地点まで戻らせた。カタルーニャの陥落には、何ら影響を持たなかった。

**ポリカルポフ I-16 「スーパーモスカ」 [Polikarpov I-16 "Supermosca"]** : 1938 年 4 月、共和国は最初の船荷として「スーパーモスカ」(超ハエ) として知られたポリカルポフ I-16 型を 30 機受取った。これは発展型で、胴体に 2 丁の機関銃を追加装備していた。他の重要な向上は酸素装置で、より高空を飛んで敵のメッサーシュミット BF-109 と対峙することを認めた。

**巡洋艦バレアレスの沈没 [Sinking of the Cruiser Baleares]** : 1938 年 3 月 5 日、共和国軍と反乱軍の艦隊は、それぞれカルタヘナ [Cartagena] とマヨルカ [Mallorca] の港からほぼ同時に出港した。両者は、互いに気づかないまま航行し、パロス岬沖海戦で会敵した。共和国軍は、パルマ [Palma] に錨泊した反乱軍艦隊への攻撃を意図しており、ソヴィエト製魚雷艇を使用し、5 隻の駆逐艦と 3 隻の巡洋艦に守られていた。荒れた海が魚雷艇に港への帰還を強制したが、



作戦は続行された。反乱軍は、カディス [Cadiz] までイタリア軍の物資を運ぶ輸送船を護衛するために出撃しており、師団は3隻の巡洋艦を使用していた。3月6日真夜中過ぎ、両艦隊は接触した。共和国軍駆逐艦は、2本の魚雷を発射したが目標に命中せず、両陣営は闇の中に紛れた。午前2時頃、両者は再び互いに発見し、反乱軍によって使用された照明弾が自艦隊の位置を曝け出した。共和国軍駆逐艦は、少なくとも12本の魚雷を発射し、はっきりしない数の魚雷が巡洋艦バレアレスを直撃し、酷い損害を受けた同艦は水上で炎に包まれた。他の2隻の反乱軍巡洋艦カナリアスとセルベラは、攻撃の再興を恐れて海域から逃走した。数分後、バレアレスの艦上で大爆発が起り、それは130キロメートルの彼方まで聞こえ、艦は瞬時に沈没した。朝には、乗組員を救助するため2隻のイギリス軍駆逐艦が到着し、カナリアスとセルベラも合流した。800名近く(乗組員の4分の3)が戦死した。バレアレスはカナリアスの2隻は同型艦で、反乱軍の最強最新鋭艦であり、その沈没は共和国海軍の戦力と士気に思いがけない高揚をもたらすことを意味した。ただし、全般的な反乱軍の海上優勢に違いはなく、敵空軍は共和国軍艦船を港湾内に留め、沿岸封鎖は維持された。

**戦略反撃 (エプロ) [Strategic Counterattack(Ebro)]** : 反乱軍のアラゴン攻勢と海への進撃後、フランコの師団は東を攻撃する代わりに南への前進を続け、1938年4月と5月の間にフランス国境の開放と豊富な戦争物資の到着に助けられ、カタルーニャの共和国軍部隊は再編の機会を与えられた。4月の終りに、レバント戦役が開始され、間もなくこの反乱軍の進撃が容易ではないことが明らかとなった。強固な共和国軍の防御、困難な地形、連続した防衛線は、これを困難な前線にした。数週間にわたり、両軍は互いに酷い消耗戦に直面し、共和国軍は防御的勝利で成功を収めたが、反乱軍によるカステリオン [Castellon] 征服を妨げることができず、サグント [Sagunto] とバレンシア [Valencia] へ向かう敵のゆっくりした進撃を遅らせることもできなかった。これら2都市の陥落を避けるため、ロホは新たな攻勢を準備し、その主要な目的は軍事的ではなくむしろ政治的なものだった。戦争のこの時点で、共和国の唯一の希望は、国際調停を通しての和平交渉か、又は間もなくヨーロッパで発生すると信じられていた大戦がスペイン内戦を巻き込むために十分な長さの抵抗を継続することだった。第V、第XII、第XV軍軍団で構成され、新たに創設されたエプロ軍によって、エプロ川を越えて攻撃することが決められた。主攻撃とは別に2つの陽動作戦が行われ、一つは北でもう一つは南だった。エプロ川を防御していた反乱軍第50師団は、敵の動きに警報を発していたが、最高司令部はエプロ川を通過不能の障害と見なして危険を過小評価し、バレンシア [Valencia] に対する攻勢に全ての部隊を必要としていたため、いかなる増援もエプロ川に送らなかった。1938年7月25日の最初の数時間に、6個共和国軍師団からの部隊が12の異なる地点でエプロ川渡河を開始した。奇襲を受けた第50師団は、圧倒されて撃破された。その日の終りに、共和国軍は数回の強襲にもかかわらず陥落しなかったガンデサ [Gandesa] を除く全ての主要進撃目標に到達した。北での2番目の攻撃は重要な橋頭堡を確立する一方、南では渡河に失敗した。反乱軍の対応は迅速だった。使用可能な全ての空軍と地上増援を直ちに送り、エプロ川を溢れさせて橋梁を破壊するために上流のダムをいくつか開門した。反乱軍は、この最新の共和国軍の強襲に反撃することができた。8月初旬、共和国軍部隊の攻勢能力は枯渇し、ほぼ30kmの長さで最も深い地点で20kmの征服した領土の防御を固め始めた。エプロ川の攻勢は、流れが早い河川を渡河する複雑な機動を何とか実施し、奇襲によって素早く防御側を敗北させたことにより、共和国陣営にとって明らかな戦術的勝利だった。たとえその目的を達成できなかったとしても、エプロ川の攻撃は明らかに経済的、軍事的に無価値の広大な領土を占領したが、士気と政治に大きな影響を与えた。僅か数日間で失われた山岳地形を回復するために、反乱軍は4ヵ月間を必要とすることになった。

**タグエニャ [Taguena]** : マヌエル・タグエニャ・ラコルテ (1913~1971年) は、中流階級に生まれたが、若い時期に恐らく共和主義者とカルロス派の祖父から受け継いだ政治的関心を述べており、革命的な道程を歩むことを決意した。1929年、高等学校を卒業し、物理学/数理学を勉強するために大学に入学した。彼は、プリモ・デ・レベラの独裁に対抗する組織に入り、左派同志との関係を強め始めた。独裁の消滅後、新たな敵は君主制となった。この時期、タグエニャは自身の政治闘争を輝かしい学術成果と組み合わせた。1932年には、すでに共和国が布告されており、彼は共産主義に魅せられ、若年共産主義者の仲間となった。彼は準軍事的共産主義者組織 MAOC (*Milicias Antifascistas Obreras y Campesinas*, 労働者と農民の反ファシスト民兵) に加入した。1934年10月、彼は政府に対する革命蜂起への参加を企てたが、逮捕された。1935年、彼は軍隊勤務を始め、良好な成績で軍曹に昇進した。彼は戦争勃発時から闘い、すでに大尉の階級になっていた。1936年9月までに、彼は大隊を指揮し、1937年8月に師団長となった。防衛相プリエトは、「若すぎる」としてこの抜擢を無効にしようとしたが、共産主義者からの圧力が彼の地位を確保した。タグエニャは、たとえ不公平に最前線に送られていると告発され、同僚から転向について批判されても、名声を獲得し続けた。1938年3月、彼はアラゴン戦役に参加し、中佐に昇進した。7月、彼はエプロ川攻勢に参加した第XV軍軍団の指揮を執った。僅か24歳で、彼は35,000人を指揮した。困難な戦いの間、タグエニャは訓練を積んだ聡明な兵士として優秀さを示し、彼の部隊は最後に川の対岸に退いた。カタルーニャ陥落の後、彼はフランスに行き、そこからマドリッドへ戻った。カサドのクーデターは、彼にUSSRへの亡命を強制した。この彼の人生の新たな段階は、貧困と解放によってマークされた。第二次世界大戦後、彼はユーゴスラヴィアへ、後にチェコスロヴァキアへ移った。そこで彼は、共産主義者の理想ではないPCEを放棄した。1955年、タグエニャは生きるためにメキシコへ行き、1960年にスペインを訪問する許可を獲得した。ただし、彼自身の言葉で「恐ろしい苦痛が私の尊厳を痛めつけ、共産主義諸国で経験した類似の状況になる」悔恨者の役割を演じなければならないため、滞在を望まなかった。彼は、自伝を書き終えた後まもなく死んだ。

**抵抗は勝利 [To Resist is to Win]** : 反乱軍部隊によるテルエル [Teruel] の回復と、続く地中海への勝利の進撃によるアラゴン戦線の破裂は、共和国軍の士気を激しく叩き、継続する戦争の真実についての議論が開始され、戦争が最後に終わるまで軍事的失敗の度に悪化した。ネグリン、共産党、軍の一部は戦いの継続を支持した。共和国大統領マヌエル・アサニャ、防衛相プリエト、軍隊の一部は、和平交渉の開始を望んだ。実際、ネグリンが送った調停者は反乱軍と接触していたが、フランコの唯一の回答は無条件降伏の要求だった。唯一の選択肢は、ヨーロッパの危機的状況が持ちこたえられずに戦争となり、それが共和国を救うかも知れないことに望みを託して抵抗を続けることだった。プリエトは更迭されてネグリンが防衛相の地位に就き、共産主義者たちからもっと多くの支援を集めた。共和国人民軍は、回復してバレンシア [Valencia] を効果的に防衛した。エプロ川の戦いの4ヵ月後、占領した土地は辛うじて保持されていた。この時期、共和国軍のスローガンは「抵抗は勝利」だった。戦略的状況はネグリンを圧倒しようとしていたが、無条件降伏は受け入れ難かった。闘いの最後の数ヵ月間は、闘いは自身の誇りといかなる種類の勝利への信頼よりも、報復の恐れのためだった。カタルーニャに対する反乱軍の攻撃は、共和国軍部隊を動揺させ、ロホの最後の反撃は失敗した。多くの共和国軍指揮官は、国外へ逃亡したが、ネグリンは闘いを継続するために孤立した共和国ゾーンへ飛んだ。ただし、彼の死ぬまで闘う政策は、カサドのクーデターで終わり、それは戦争の終りももたらした。

## 23. 2. 4 選択カード [Optional Cards]

**無統制攻撃 [Disorganized Attack]**：戦争初期の数ヶ月間、アフリカ駐屯軍の戦隊が最初に進撃し、その軍隊経験は共和国軍民兵の未経験に乗じた。単純な側面機動を通して、特に平野で敵を打ち負かすことができた。この選択カードは、アフリカ戦隊間の連携欠如によって生じた架空の失敗をあらわす。それは指揮官たちのミス、自信過剰、待ち伏せ、共和国軍部隊による統制された奇襲攻撃によって発生し得るものだった。

**ソヴィエト海外派遣軍団 (SEC) [Soviet Expeditionary Enthusiasm]**：選択ルール 18.4.2.1 の注釈を参照。

**革命的熱狂 [Reolutional]**：スペイン全土を奪うクーデターの失敗後、共和国政府による統制が失われた結果として発生した革命がスペインの大部分を覆い、左派政党と貿易組合は自身の民兵戦隊を編成するために武器の獲得を訴えた。多くの左派は、自らの政治信条の優越のみが反乱軍を打ち破るために十分だが、軍事教練と近代的兵器がより有効な手段であることをすぐに認識した。それにもかかわらず、ときには革命の勇敢さと決断が戦闘結果に何とか影響を与えたことは事実であり、それはこの選択カードに反映されている。

**秩序だった退却 [Organized Retreat]**：戦争中、共和国軍はしばしば前進よりも退却し、防御態勢を強いられ、可能なときに可能な場所でのみ反撃を發動した。退却は、特に敵砲火の下では容易でなく、共和国軍は多くの潰走を被った。ただし、指揮官たちが退却を整然と行える機会もあり、人員や物資を失うことなく土地を明け渡した。良い例は 1938 年のエプロ橋頭堡からの退却で、4 ヶ月間の激しい戦いの後、共和国軍部隊が支えきれない状況に直面したときである。

**ツポレフ SB「カチューシャ」 [Tupolev SB "Katiushka"]**：この飛行機は、ソヴィエト製の双発軽爆撃機で、当時の最も進んだ航空機の 1 つだった。1935 年に生産が開始され、SB [Skorostnoi Bombardirovshchik] は高速爆撃機を意味する。愛称の「カチューシャ」は、戦争中に 93 機を受け取った共和国軍によって加えられた。反乱軍は、これが米国製マーチン B-10 であると誤認して「マーチン爆撃機」と呼んだ。非常に高速で、戦争初期に反乱軍の戦闘機を振り切る能力を持ったが、爆弾積載量はイタリア軍やドイツ軍のそれに劣った。以前の反乱軍戦闘機よりも高速のメッサーシュミット Bf-109 の到着は、ツポレフの撃墜を増加させた。共和国軍陣営が反乱軍と同様にこの航空機を爆撃機として使用する一方、それらは決して体系的、破壊的なものではなかった。この選択カードは、「カチューシャ」が共和国軍の支援又は反乱軍の攻撃への反撃のため戦術的に使用された仮定をあらわす。

## 23. 2. 5 追加のデザイナーズ・ノート [Additional Designer's Notes]

**マドリード山脈 (11.2.6) [Sierra de Madrid]**

なぜ、これらの山岳スペースの内外へ攻撃しているときに、追加の 1 コラム・シフト左があるのか？

マドリード山脈は、反乱軍が北から首都に向かって前進を試みた戦争初日に、激しい戦闘が行われた。反乱軍が停止して戦線は安定し、この地域は「忘れられた戦線」、つまり終戦までほぼ活動がない地域に転じた（唯一の例外は、1937 年 5～6 月のセゴビアに向けた共和国軍の失敗した攻勢だった）。

特異な地形と強固な陣地が、両陣営の攻撃を非常に困難にして奇襲の可能性を排除した。つまり、これがマドリード山脈内外への攻撃に追加罰則がある理由である。

**大西洋沿岸の共和国軍の港湾 (12.7.1 と 13.1.4.2) [Republican ports in the Atlantic coast]**

なぜ、共和国軍プレイヤーは戦略再配備又は補給線をたどるために大西洋の港湾を使用できないのか？

これらの港湾は、戦争初日から反乱軍によって封鎖された。封鎖は完璧ではなかったが、それを非常に困難にし、共和国の通商にとっては戦争が進むに連れて更に困難となった。

1936 年 9 月、共和国海軍は大西洋に移ったが、いったんそうなるのと、いくつかの理由により、重要な活動は行われなかった。反乱軍の海軍は、ジブラルタル海峡を支配する可能性のために良く利用され、10 月には敵艦隊を地中海に戻らせ、大西洋の封鎖を突破する選択肢を打ち消した。共和国軍の大西洋港湾へ商船の航行を認めるため、英国海軍がしばしば介入したことは述べる価値があるが、決して封鎖の妨害は試みなかった。

大西洋沿岸の封鎖状況のより詳細な再現を試みることは、ルールと例外（「What If」さえも）を加えることが予想された。私は複雑さを避け、起きたことを総合的に反映する単純なルールの確立を望んだ。

**アストゥリア師団規模ユニット (13.1.5) [Asturian Division-sized Units]**

なぜ、アストゥリアス内に位置する非補給下のアストゥリア師団規模ユニットは、損耗フェイズに除去されないのか？

アストゥリアスは、共和国軍民兵の戦闘と抵抗の精神が最高の北部戦線地方だった。それが、サンタンデルやバスクのユニットよりも比較的アストゥリア・ユニットが多い理由である。

アストゥリアンの抵抗は、ヒホン（共和国軍の北部戦線最後の砦）の陥落後も続き、反乱軍部隊が関わなければならない、中立化するために何ヶ月も必要としたゲリラを生み出した。アストゥリアス内に位置する非補給下のアストゥリア師団規模ユニットは、ゲリラの活動を反映するために除去されない。

Text: David Gomez Relloso  
Translation: Ion Calafel Barroso  
Checking and Correction: Larz Welo  
Proofreader: Wendell Albright



## 24.0 拡張されたプレイの例 [EXTENDED EXAMPLE OF PLAY]

以下は、キャンペーン・ゲーム・シナリオ第1ターンのプレイの例です。表示された開始時の移動や攻撃は、可能な最良の移動を示しているわけではありません。この拡張されたプレイの例では、選択ルールを使用していません。

プレイヤー：ジョン（反乱軍）対デビッド（共和国軍）

ターン1（1936年8月）

### 24.1 [A.1-A.3] 戦略カード引きフェイズ [DRAW STRATEGY CARDS PHASE]

キャンペーン・ゲームの第1ターンに、ジョンは「空の架け橋」カードに加えて、6枚の無作為に引かれたカードで開始します。自身のカードを引いた後、ジョンの手札は以下のとおりです。「空の架け橋」(カード N1)、「海上支援 (CC)」(N5)、「海峡支配の終了」(N6)、「航空機が民兵を脱散らす(CC)」(N7)、「背信(CC)」(N14)、「飢餓」(N16)、「フィアット CR32 「Chirri」 (CC)」(N17)。



デビッドの手札は、以下のとおりです。「外国の政策支援」(R1)、「白色テロ」(R3)、「鉄環」(R4)、「ポリカルポフ I-15 「チャト」 (CC)」(R5)、「マヨルカ島上陸」(R11)、「第5連隊」(R13)、「知識人と芸術家の共和国支持」(R15)。



### 24.2 [B] アクション・フェイズ [ACTION PHASE]

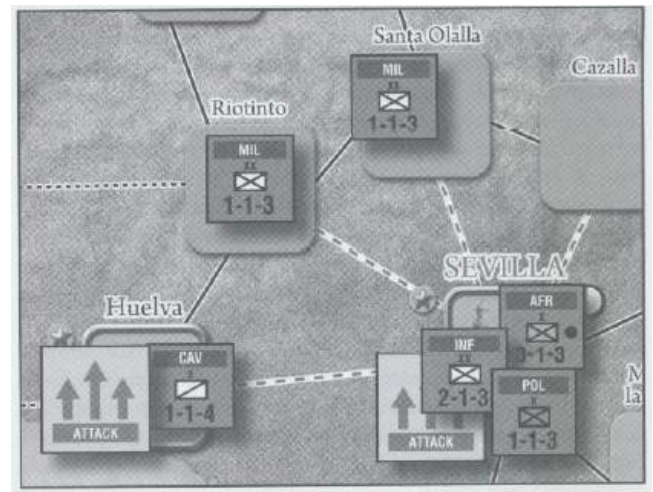
反乱軍 (NAT) アクション・ラウンド1



反乱軍陣営は、常にターンの第1アクション・ラウンドを行い (6.0 Bを参照)、しかもこれがターン1の最初のアクション・ラウンドであるため、ジョンは「空の架け橋」カードをイベントとしてプレイしなければなりません (4.3.1を参照)。そのタイトルにアスタリスクを持つため、カードはプレイされた後で直ちにゲームから取り去られます。カード上で述べられているように、アフリカ駐屯軍の増援が開始され (最初のユニットは、彼の次のラウンドーNATラウンド2に到着します)、ジョンはセビリア [Sevilla] と他の1スペースを活性化できます。彼はウエルバ [Huelva] を選択し、両スペースを戦闘のために活性化させます。AFR ユニットの除く全ユニットでリオテ

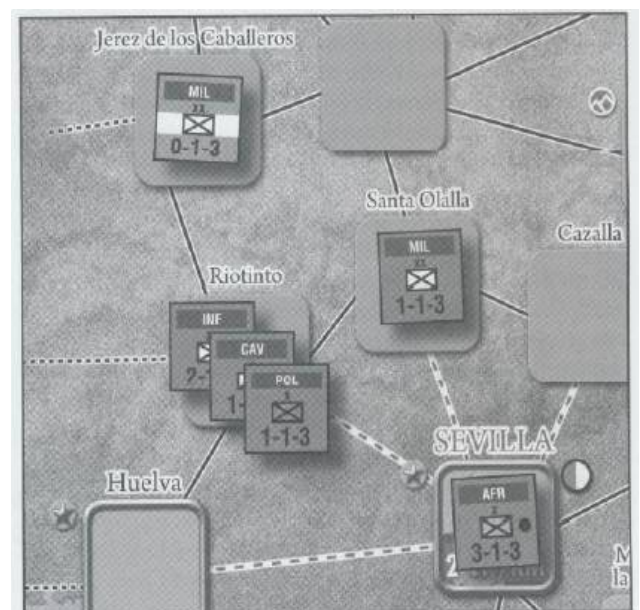
イント [Riotinto] を攻撃します。

注釈：もしもアフリカ駐屯軍ユニットが攻撃に参加すると、敵ユニットの撃破は保証されますが、AFR ユニットの攻撃で最初の損失要件を持つため (11.3.6を参照)、ジョンは低い戦力で攻撃して自軍のエリート・ユニットが損害を被る危険を回避しました。



両陣営が師団規模ユニットのみを持つため、両者が師団規模ユニット戦闘表でサイを振ることになります。戦闘カード (CC) が使用されないため、ジョンは「4」コラムでサイを振り、デビッドは「1」コラムで防御します。ジョンのサイの目は「1」で、「1」損失ナンバーの結果となり、デビッドのサイの目は「3」で、「0」損失ナンバーの結果となります。ジョンは1対ゼロで勝利したため、REP 民兵ユニットが裏返され (完全戦力から減少戦力へ移行)、ヘレス・デ・ロス・カバジェロス [Jerez de los Caballeros] へ1スペース退却します (損失ナンバーの差が1のみなので、1スペースのみ退却しなければなりません。11.4.2を参照)。防御ユニットが1スペースのみ退却したため、攻撃ユニットは防御側がカラにしたスペース内にのみ前進でき (11.5.2を参照)、それができる全てです。

反乱軍アクション・ラウンド1終了時の状況

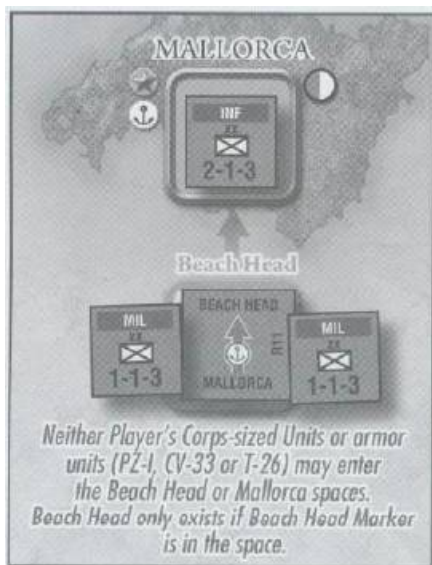


## 共和国軍 (REP) アクション・ラウンド1

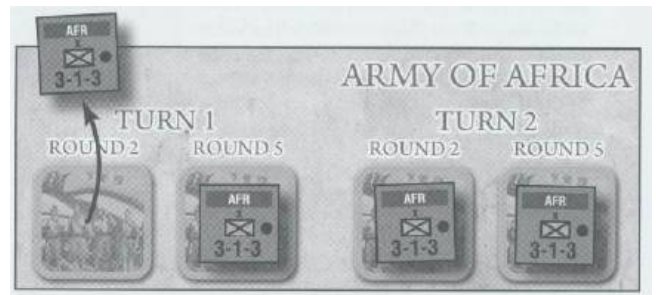
デビッドは、「マヨルカ島上陸」カードをイベントとしてプレイすることに決めます。カード上のイベント説明に従い、マヨルカ [Majorca] スペースの隣に、橋頭堡マーカーが2つの REP MIL 師団規模ユニットと共に置かれます。イベントはいかなる活性化も与えないため (ユニットが置かれた後でさえ!)、デビッドのアクションはマヨルカに対して攻撃を行うことができる前に終了します。8.5.4に従い、デビッドはマヨルカを占領するために2ターンを持つため、デビッドがターン2の終了までに自身の目標を達成することを両プレイヤーが忘れぬよう、彼はゲーム・ターン記録欄上のターン2に「上陸ターン」[“Turn of Embark”] マーカーを置きます。

## REP アクション・ラウンド1終了時の状況

**注釈:** デビッドは、このイベントをプレイするのに良い時期と感じました。: ジブラルタル海峡が REP 陣営によって支配されているため、NAT プレイヤーがマヨルカに援軍を送るのが容易でないことを意味するからです (反乱軍プレイヤーは、自軍予備ボックス内の単一 MIL ユニットのみを、戦略再配備を介して送ることができます)。



## 反乱軍 (NAT) アクション・ラウンド2



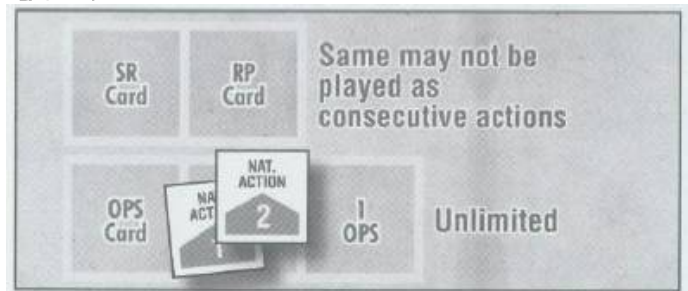
最初に、プレイする最初のカードを選択する前に、ジョンはターン1の NAT ラウンド2に予定された、アフリカ駐屯軍ユニットの増援を配置します。彼はこれをセビリャ [Sevilla] 又はカディス [Cadiz] に配置でき、2番目の選択肢を選びました。

**注釈:** 普通、増援の AFR ユニットの、前線に近いセビリャに置かれますが、この場合には次に見るようにカディスを選択する正当な理由があります。

ジョンは、次に自身の手札から「海峡封鎖の終了」をプレイします。彼はこれをイベントとしてプレイし、ジブラルタル海峡の支配を反乱軍陣営に移行させるため、いまやジョンは自身が支配する地中海の港湾を、補給をたどるためや戦略再配備のために使用することになります。それに加えて、ターン3に到着するアフリカ駐屯軍からの増援は、そのターンの NAT ラウンド1と2へ前倒しされます (通常の NAT ラウンド2と5の代わりに)。最後に、このイベントは、共和国軍の士気 (RM) を 26 から 25へ1ポイント減少させます。



最初に2つの NAT アクション・ラウンド後の NAT アクション・



**注釈:** ジョンがこのイベントを最初の手札に受取ったことは幸運でした。マップ上の港湾からマヨルカのスペースへユニットを移動させることができるため、いまやマヨルカに対する脅威は減少しました。実際、彼は増援の AFR ユニットのセビリャ (港湾を持ちます) へ配置することに決め、これにより必要とあらばマヨルカへ移動させることができます。ただし、ジョンがデビッドにマヨルカ内の単独 INF ユニットの対して攻撃する可能性を与えたため、このプレイはリスクなしではありません。いずれにしても、もしもデビッドがマヨルカを攻撃したら、戦闘で敗北する (そして島を失う) 危険を回避するために、ジョンは自身の「航空機が民兵を蹴散らす」(CC) をプレイする選択肢を持つことができます。



## 共和国軍 (REP) アクション・ラウンド2

デビッドは、マヨルカ [Majorca] の単独 INF F への攻撃を行わないものの、1対0の結果（この場所を奪取するための唯一の方法）を達成するために幸運が必要となることを知っていました。その代わりに、デビッドは自身の「白色テロ」カードを戦略再配備 (SR) としてプレイします。このカードの数値は4ですが、ターン1と2には両プレイヤーがカードをSRとしてプレイするときに罰則を被ります（その数値が1だけ減少します）。このため、彼は3SRポイントを持ちます。



彼は、これらを、1つの RPA ユニットの海上でバレンシア [Valencia] からマヨルカ [Mallorca] 近郊の橋頭堡へ、1つの MIL ユニットの予備ボックスから南部戦線のサンタ・オラージャ [Santa Olalla] へ、1つの POL ユニットのバルセロナ [Barcelona] からやはり南部のヘレス・デ・ロス・カバレロス [Jerez de los Caballeros] へ移動させるために使用します。

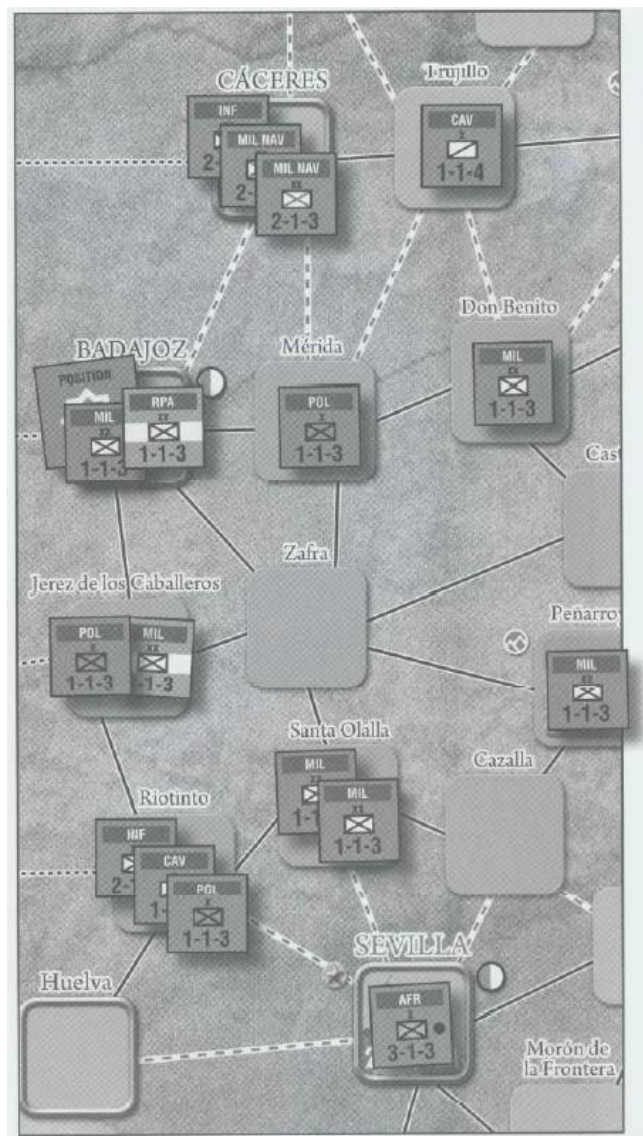
**注釈：**マヨルカ侵攻の増援で脅威を増加させる一方、部隊を南部へ送ることは AFR 戦線の進撃を遅滞させるか、又は少なくとも移動に負担をかけさせることになります。

## 反乱軍 (NAT) アクション・ラウンド3

増大するマヨルカ [Mallorca] への脅威を目の当たりにして、共和国軍プレイヤーに圧力を与えなければならないのが彼であることを知っていても、ジョンには対応するしかありません！ 彼は自身の「飢餓」カードをSRとしてプレイします。その4の数値は、上記ですでに述べたように、罰則のため3に減少します。賢明にも、彼はAFRユニットを海上でカディス [Cadiz] からマヨルカ [Mallorca] へ置き（両方の場所が港湾を持ちます）、2つのナバラ民兵 (MIL-NAV) ユニットのベアサイン [Beasain] とプエルト・デ・ベラテ [Pto. de Velate] (北部) からエストレマドゥラ戦線のカセレス [Caceres] へ送ります。



## NAT アクション・ラウンド3終了時の状況



**注釈：**マヨルカは非常に重要なスペースなので、NAT プレイヤーは全力を挙げて喪失を回避しなければなりません。そこへ AFR ユニットの移動させることは、少なくともマヨルカへの脅威が去るまで半島に置かないことを意味しますが、REP プレイヤーにとって島を占領することも極めて困難になります。2つのナバラ民兵ユニットをエストレマドゥラへ移すことは、南部と北部間との NAT ゾーン連結のスピードアップを認めることになります（弾薬欠乏ルールを無効にし、アフリカ・ユニットを他の戦線へ持っていくため）。

## 共和国軍 (REP) アクション・ラウンド3

デビッドは、「第5連隊」カードを補充ポイント (RP) としてプレイすることに決めます。通常、3のOPS値のカードは2のREP又はNAT RPのみを生み出しますが、カード上に示されるように、この特殊カードはREP RP マーカーを使用して、総合記録欄上に3 RP を記録することを認めます。



**注釈：**たとえカードが追加の1SOVRPを表示していても、REP プレイヤーがいまだに「ソヴィエトの軍事援助」イベントをプレイしていないので、SOVRPを記録しません。

## 反乱軍 (NAT) アクション・ラウンド4

自軍の損失を補充する能力で後れを取らないジョンは、敵のアクションをコピーすることを選択し、「背信」カードを RP のためにプレイします。彼は総合記録欄にNAT RP マーカーで2 NAT RP を記録します。



**注釈：**上記と同様に、NAT プレイヤーはいまだに「枢軸国の軍事援助」イベントをプレイしていないので、AXIS RP を記録しません。

## 共和国軍 (REP) アクション・ラウンド4 :

反乱軍の攻撃が小康状態になったので、デビッドは「知識人と芸術家の共和国支持」カードをイベントとしてプレイします。結果的に、RMは1ポイント増加して25から26になります。



**注釈：**デビッドは、低い数値 (2) のカードをイベントとしてプレイすることで、敵によって与えられた休憩を上手に使用しました。これは、2つの利点を持ちます。: 第1はイベントの効果 (+1 RM) で、第2は自軍デッキから低い数値のカードを除去したことです (カード上の「\*」は、カードがイベントとしてプレイされた後にゲームから取り去られることを示します)。

## 反乱軍 (NAT) アクション・ラウンド5

ジョンは、アフリカ駐屯軍から別の増援ユニットを受取り、セビリア [Sevilla] に配置します。彼は、主導権の奪回が必要と感じており、「航空機を撃散せよ」カードをオペレーション (OP) としてプレイします。カードは3の数値を持つため、3OPSが与えられます。ジョンは、セビリア [Sevilla]、リオティント [Riotinto]、カセレス [Caceres] のスペースを攻撃のために活性化させます。



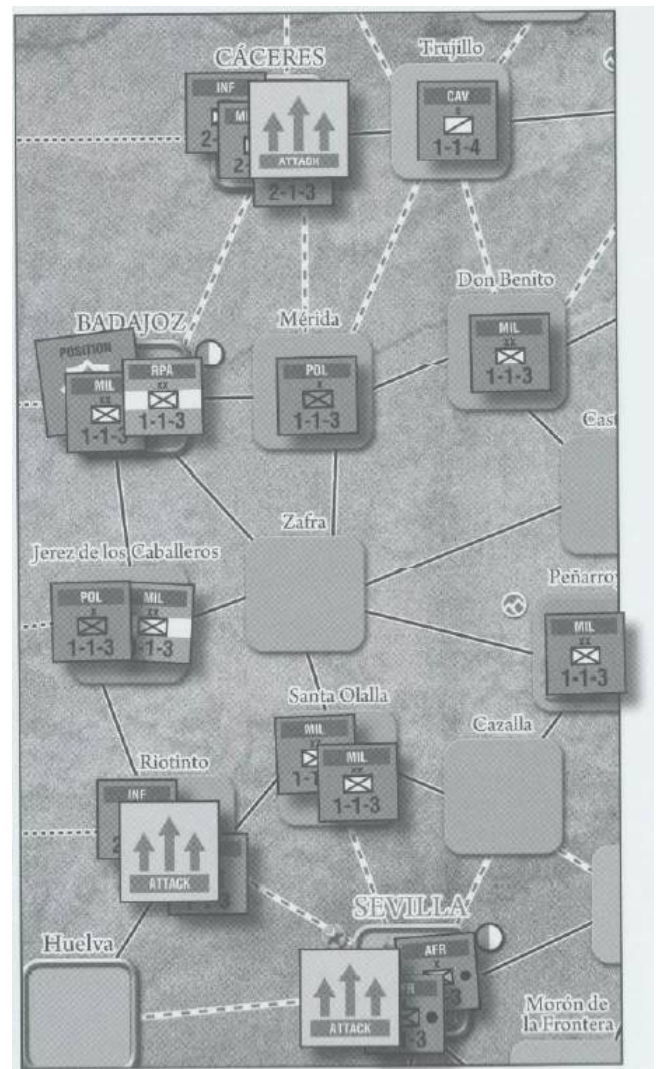
**注釈：**彼はいくつかのスペースを移動のために、いくつかを戦闘のために活性化することを選択できましたが、彼の多くのユニットが攻撃するために良い場所にあるため、3つ全てのアクションを攻撃に使用することを選

択しました。

ジョンが攻撃しようとしているスペースを指定せず、攻撃を開始するスペースのみを示していることに注意してください。

カセレス [Caceres] からは、INF ユニットの2つのMIL-NAV ユニットがメリダ [Merida] を攻撃します。どちらもCCをプレイしないので、戦闘は6のコラム対1のコラムで解決されます。ジョンは「4」の目を出し (2の損失ナンバーを生み出します)、デビッドは「1」の目 (LN=0) なので、ジョンが2対0で勝利し、いかなる損失も被ることなく敵のPOL ユニットを除去します。敵ユニットが完全に除去されたので、たとえ彼の損失ナンバーが相手のそれよりも2以上超過していても、カラのスペース内にもみ前進できるため (11.5.2を参照)、彼は2つのMIL-NAV ユニットで防御側のスペース内へ前進します。

セビリア [Sevilla] 内の2つのAFR ユニットは、リオティント [Riotinto] の騎兵ユニットと共に、サンタ・オラージャ [Santa Olalla] を攻撃します。再びどちらのプレイヤーもCCカードをプレイしないため、戦闘は7のコラム対2のコラムで解決されます。ジョンはほぼ勝利することが保証されていますが、サイコロは再び彼に有利



な3対0の結果で (彼は「5」の目で、デビッドは恐れていた「1」を振りました)、1つのREPMILL ユニットを除去し、もう一つを減少させ、カサリヤ [Cazalla] を通過してペナリョーヤ [Penarroya] まで2スペース退却させます。1つのAFR ユニットとCAV ユニットがサンタ・オラージャへ前進します (敵が退却した最初のスペー



スはカサリヤなので、これらはカサリヤへ前進できます。カサリヤは敵ユニットによって占められていませんが、ジョンはサンタ・オラージャで停止することを選択しました。もしもデビッドがサフラ [Zafra] を通過して退却していたら、前進しているユニットの1つ又は両方が、この致命的なスペースを占領することができました。

最後に、リオティント内に残っている INF と POL ユニットのヘレス・デ・ロス・カバレロス [Jerez de los Caballeros] を攻撃します。ジョンは、彼の CC 「フィアット CR-32 「Chirri」」のプレイを望むかもしれませんが、彼はいまだ「枢軸国の軍事援助」イベントをプレイしていないので、それは不可能です。戦闘は、3のコラム対1のコラムで解決されます (0-1-3 ユニットの、防御には関与しますが、POL ユニットの戦闘値には0を加えます)。両ブ

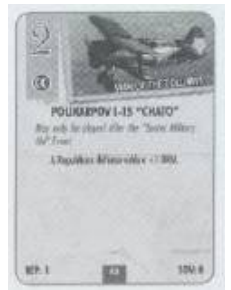
レイヤーが「6」の目を出し、反乱軍の勝利です。: 2対1でデビッドは減少戦力の MIL ユニットの除去し (「2」損失ナンバーの「1」を受けます)、POL ユニットの減少面に裏返し (最後の LN ポイントを吸収します)、ジョンは自身に対する1LNを吸収するために自軍 POL ユニットの裏返しします。生き残っている REP POL ユニットの、サフラ [Zafra] へ1スペース退却し、攻撃している両ユニットはヘレス・デ・ロス・カバレロスへ前進します。

**注釈:** 戦闘なしの数ラウンドの後、ジョンは南部戦線を活性化させ、自軍部隊の優秀性を示して、ほぼ自軍の2つのゾーンを連結するまで前進しました。

#### NAT アクション・ラウンド5終了時の状況

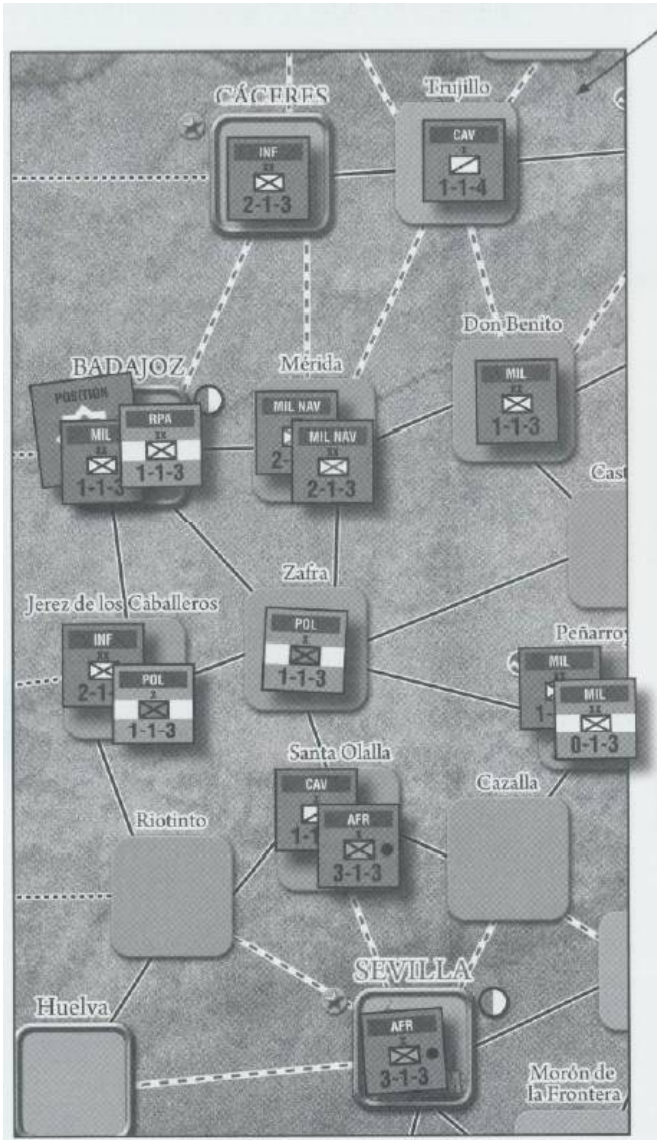
#### 共和国軍 (REP) アクション・ラウンド5

デビッドは、「ポリカルポフ I-15 「チャト」」カードを2OPSとしてプレイし、ペニャロヤ [Penarroya] (南部) とタラベラ・デ・ラ・レイナ [Talavera de la Reina] (トレド [Toledo] 近郊) を移動のために活性化させます。完全戦力の MIL ユニットのペニャロヤからサフラへ移動しますが、タラベラ・デ・ラ・レイナ内のユニットは移動しません。



移動の完了後に、デビッドは移動のために活性化されて、少なくとも1ユニットが移動しなかったスペース内に陣地の構築を試みることができ、この場合には両スペースです。彼はペニャロヤのためにサイを振り、「2」(成功)を獲得して陣地マーカーをそのスペース内に置きます。彼はタラベラ・デ・ラ・レイナについてサイを振って「6」(失敗)を出したため、そこへ陣地マーカーを置きません。ただし、そのスペース内で次の陣地構築の試みに-1DRMを持つことを表示するため、サイの目修正 (DRM) マーカーを置きます。

**注釈:** NAT プレイヤーがエストレマドゥラを通して2つのゾーンを連結させることを回避することは、非常に困難です。これらのオペレーションで、REP プレイヤーはもしも AFR ユニットの攻撃するのであれば損害を生じさせる可能性を増加させることを試み、加えて将来を見越して、タラベラ・デ・ラ・レイナのスペースの防御強化を試みます。いったん反乱軍が2つのゾーンを連結させると、マドリード [Madrid] とトレドのアルカサル [Alcazar in Toledo] への自然な道筋となります。

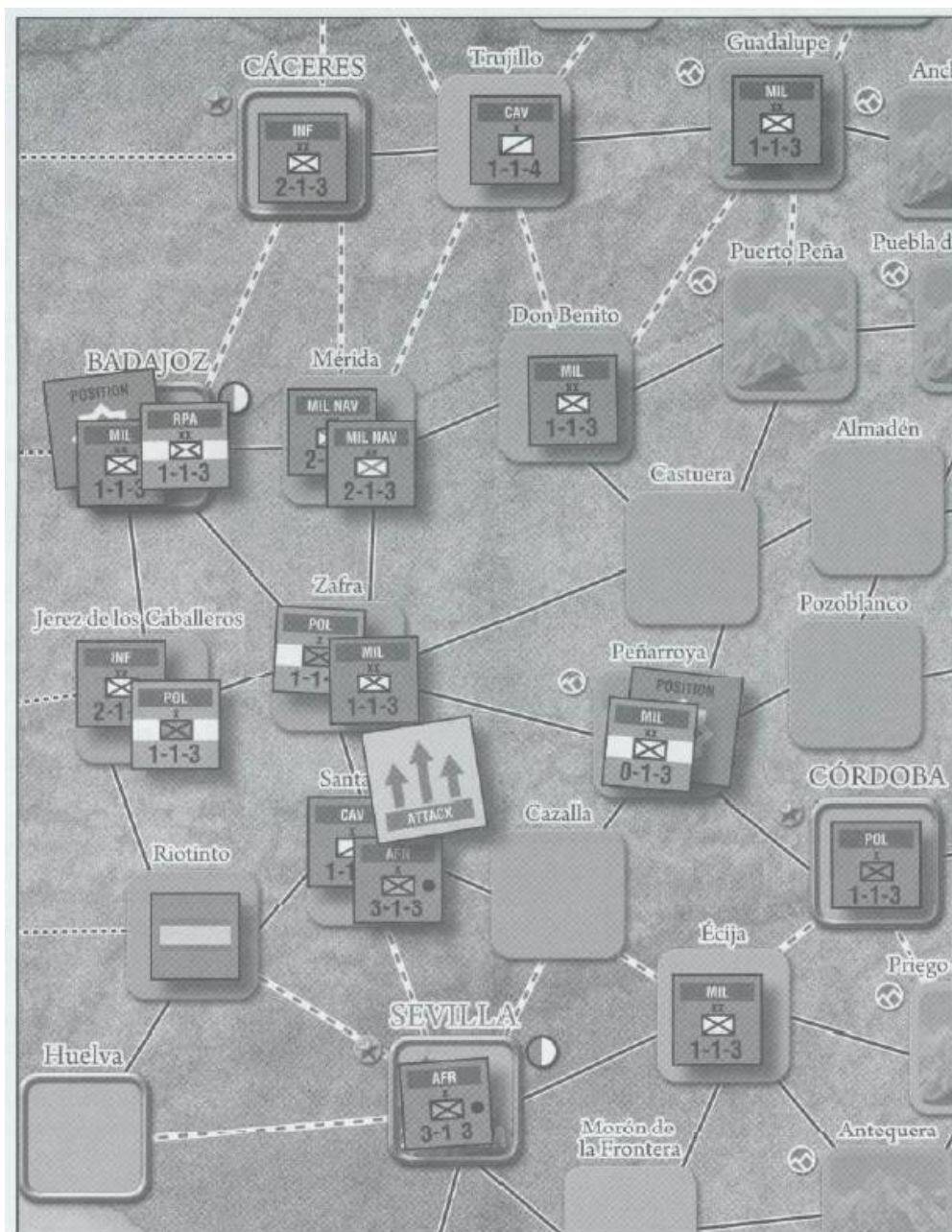


## 反乱軍 (NAT) アクション・ラウンド6

ターンの自軍最終ラウンドに、ジョンは「フィアット CR32 『Chirri』」カードを2 OPS としてプレイします。サンタ・オラージャ [Santa Olalla] とビラルバ [Villalba] (北部ゾーンのアストゥリアス近郊) を戦闘のために活性化させます。

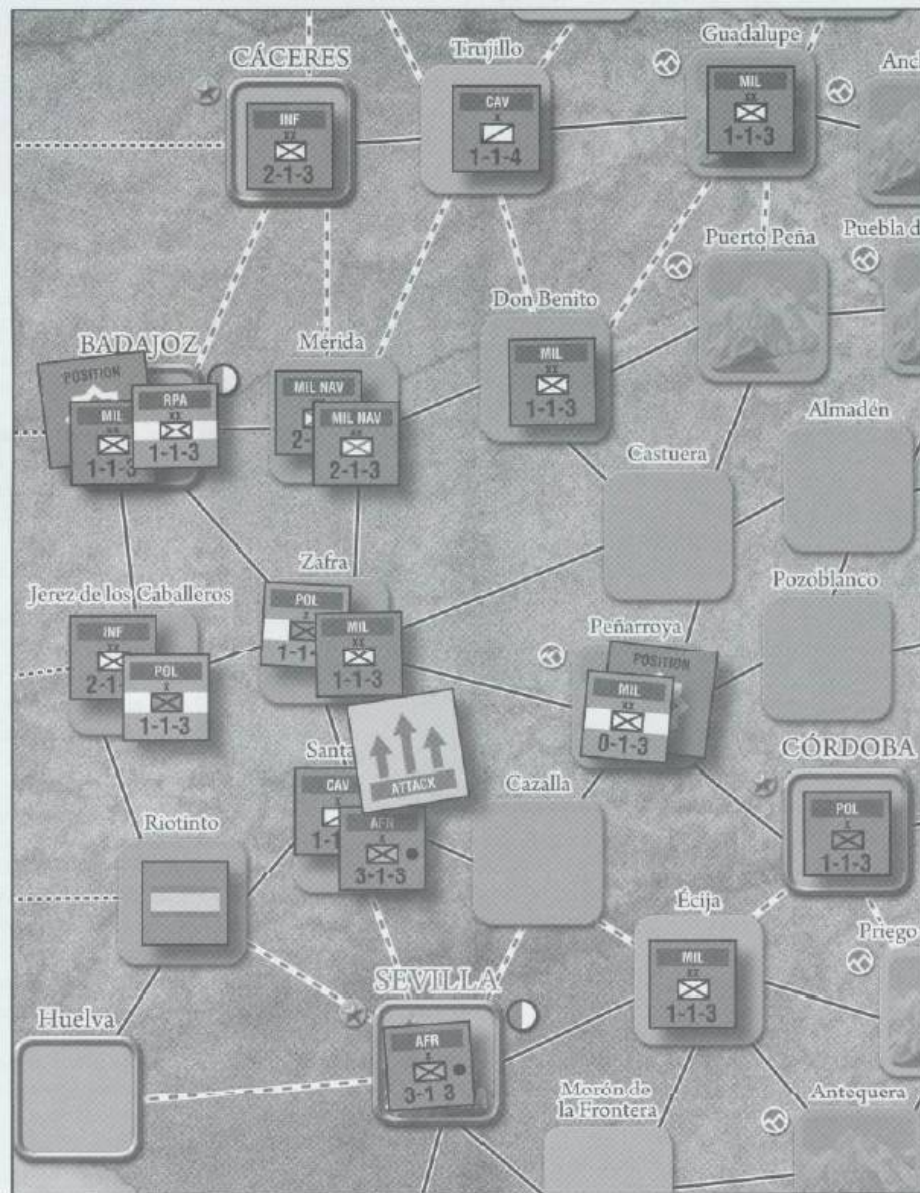


彼はサンタ・オラージャ [Santa Olalla] からサフラ [Zafra] を攻撃します。どちらも CC をプレイしません。結果は引き分けて、1対1です。REP MIL と NAT AFR ユニットが減少戦力へ裏返されます (AFR ユニットは、11.3.6に従って損失を被らなければなりません)。結果が引き分けなので、退却や前進はありません。

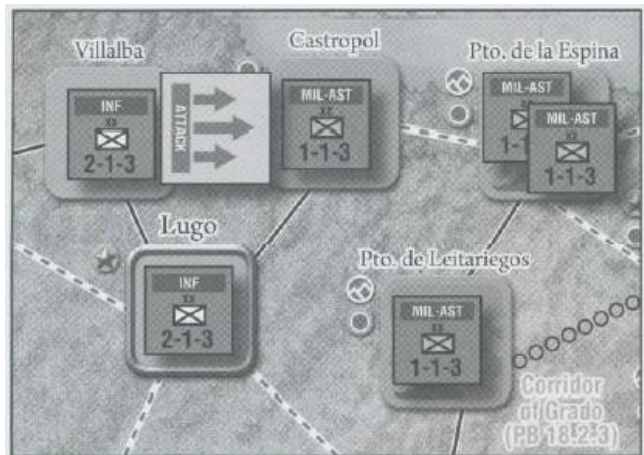




反乱軍アクション・ラウンド6終了時の南部の配置



ビラルバ [Villalba] から INF ユニットのキャストロポル [Castropol] を攻撃し、ジョンは+1 DRMを与える「海上支援」CCを使用します。デビッドは、CCをプレイしません。ジョンは1対0で勝利し、REP MIL-ASTは裏返されてプエルト・デ・ラ・エスピナ [Pto. de la Espina] へ退却します。NAT INF ユニットのキャストロポルへ前進します。プレイされたCCがタイトルにアスタリスクを持つため、ゲームから除去されます。



**注釈：**サフラに対する攻撃が失敗したため、ジョンは自軍の2つのゾーンを連結できず、弾薬欠乏ルールはまだに有効です。それにもかかわらず、両 NAT ゾーンの連結は、時間の問題に見えます。ビラルバへの攻撃で、ジョンは自軍戦線を短縮してルーゴ [Lugo] 内の INF ユニットの解放し、自軍のデッキから低い数値のカード（その攻撃でプレイされたCC）も除去しました。

**NAT 消耗フェイズ：**非補給下 (OOS) の NAT ユニットのスペースがないので、ジョンは損耗を被りません（戦隊の戦争段階には、孤立スペースが OOS でないことを忘れないでください。16.2を参照）。

#### 共和国軍 (REP) アクション・ラウンド6

ターンの自軍最後のラウンドに、デビッドは「鉄環」カードをイヴェントとしてプレイすることに決めます。：彼は、イヴェントで指定されたビルバオ [Bilbao] に特別な塹壕マーカーを配置します。カードはアスタリスクを持つため、ゲームから取り去られます。



**注釈：**デビッドは、ビルバオの主要都市を防護するためにイヴェントのプレイを選択し、自軍デッキから低い数値のカードを除去しました。彼は、OPS、SR、RPとしてプレイできた高い数値のカード（「外国の政策支援」、4 OPSに相当）も持っていました。ただし、彼は状況を利用することに決め（目立った敵の脅威を受けていません）、イヴェントをプレイしました。これは、防御を強化して自軍デッキを中位の数値にする、将来を見越したタイプのプレイで、より補充ポイントを蓄積せずにパスしたことを後悔しない場合にのみ望めます！

**REP 損耗フェイズ：**非補給下 (OOS) の REP ユニットのスペースがないため、デビッドは損耗を被りません。

#### 2 4. 3 損耗フェイズ [ATTRITION PHASE]

上記で述べたごとく、このヘクスは実際には各プレイヤーの6番目のラウンド終了時に発生します。

#### 2 4. 4 戦争状態フェイズ [WAR STATUS PHASE]

VP 又は RM に、新たな変更は適用されません。どちらのプレイヤーも自軍の自動的勝利を達成していません。

#### 2 4. 5 補充フェイズ [REPLACEMENT PHASE]

**REP セグメント：**デビッドは、3 REP RP を記録しています。彼はステップを補充してマップ上にある減少戦力の複数の師団規模ユニットを完全戦力に戻すためにこれらを消費します（各 1/2 ポイント）。サフラ [Zafra] 内の MIL と POL ユニットの、プエルト・デ・ラ・エスピナ [Pto. de la Espina] 内の MIL-AST、ペニャロヤ [Penarroya] 内の MIL ユニットの（失われたステップの補充に合計で2ポイントを消費します）。最後に、彼は除去された MIL ユニットの再建し、完全戦力で予備ボックスへ置きます（1ポイント）。デビッドは、除去された MIL ユニットの 1/2 ポイントで減少戦力に再建し、もう一つの減少戦力 MIL ユニットの再建するか又は他の減少戦力ユニットを完全戦力へ裏返すことができたことに注意してください。

**NAT セグメント：**NAT プレイヤーは、2 NAT RP を記録しています。彼はステップを補充してマップ上にある減少戦力の複数の師団規模ユニットを完全戦力に戻すためにこれらを消費します（各 1/2 ポイント）。：ヘレス・デ・ロス・カバレロス [Jerez de los Caballeros] 内の POL ユニットの、パンプロナ [Pamplona] 内の MIL-NAV ユニットの、ヘレス・デ・ラ・フロンテラ [Jerez de la Frontera] 内の INF ユニットの、ハカ [Jaca] 内の INF ユニットの。AFR ユニットの RP を受取れないため、ジョンがこれらの失われたステップを補充できないことに注意してください！

#### 2 4. 6 ターンの終了 [END OF TURN]

どちらのプレイヤーも、任意に自軍の陣地や塹壕を除去することを望みません。

ターン・マーカーが前方に移され、ターン2が開始されます。



## 参考文献 [CONSULTED BIBLIOGRAPHY]

ALONSO BAQUER, Miguel: *El Ebro. La batalla decisiva de los cien días*. Editorial La Esfera de los Libros. Madrid, 2003.  
 BEEVOR, Anthony: *The Battle for Spain: The Spanish Civil War 1936-1939*. Penguin Books. June 2006.  
 CARDONA, Gabriel: *Historia militar de una guerra civil. Estrategia y tácticas de la Guerra de España*. Flor del Viento Ediciones. Barcelona, 2006.  
 ENGEL, Carlos: *Historia de las Brigadas Mixtas del Ejército Popular de la República*. Almena Ediciones. Madrid, 1999.  
 LANNON, Frances: *The Spanish Civil War 1936-1939* (Essential Histories). Osprey Publishing. Oxford, 2002  
 MANRIQUE GARCIA, Jose Maria / MOLINA FRANCO, Lucas: *Las armas de la Guerra Civil española*. Editorial La Esfera de los Libros. Madrid, 2006.  
 MIGUEL, Jesus de / SANCHEZ, Antonio: *La Guerra Civil Española día a día. 1936-1939*. Editorial Libsa. Madrid, 2004.  
 MOA, Pio: *Los mitos de la Guerra Civil*. Editorial La Esfera de los Libros. Madrid, 2003.  
 RELLOSO ZORRILLA, David: *Mis memorias*. Edición propia. San Sebastian, 1975.  
 REVERTE, Jorge M.: *The Spanish Civil War: A Military History*. Palgrave Macmillan. March 2014.  
 SALAS LARRAZABAL, Ramon: *Historia del Ejército Popular de la República*. Editora Nacional. Madrid, 1973.  
 SALAS LARRAZABAL, Ramon y Jesus Maria: *Historia general de la Guerra de España*. Ediciones Rialp. Madrid, 1986.  
 SEMPRUN, Jose: Del Hacho al Pirineo. *El Ejército Nacional en la Guerra de España*. Editorial Actas. Madrid, 2004.  
 THOMAS, Hugh: *The Spanish Civil War: Revised Edition*. Modern Library; Rev Upd edition. December 2001.  
 VV.AA.: *Atlas escolar de España*. Editorial Ramon Sopena. Barcelona, 1985.  
 VV.AA.: *La Guerra Civil*. Historia 16. Madrid, 1986.  
 VV.AA.: *La Guerra Civil Española*. 50 años después. Editorial Labor. Barcelona, 1986.  
 VV.AA.: *La Guerra Civil Española mes a mes*. Unidad Editorial. Madrid, 2005.  
 VV.AA.: *La Guerra de España. 1936-1939*. Editorial La actualidad Española. Madrid, 1971.  
 VIDAL, Cesar: *La guerra que ganó Franco*. Historia militar de la Guerra Civil Española. Editorial Planeta. Barcelona, 2006.

## Credits

**Designer:** David Gomez Relloso.

**Developer:** Kevin Bernatz.

**Graphic Artist:** Nicolas Eskubi.

**Produced by:** Ken Dingley and Bill Thomas for Compass Games, LLC.

**Main Collaborators and Playtesters:** Ignacio Baca, Ion Calafel, Jon Etzaniz, Angel Heras and Angel Valdezate.

**Playtesters:** Miquel Adell, Wendell Albright, David Aguirre, Julio Cesar Albarran, Jesus Amor, Gonzalo J. Alvarez, Pablo Alvarez, Miguel Anton, Jose Ignacio Arribas, David Barquilla, Hernan Bilbao, Alberto Buj, Lluís Bullich, Martí Cabre, Carlos Castillo, Victor Catala, Enrique Celis, Pere Cerdan, Daniel Echevarria, Andreu Farran, Armando Felgueroso, Daniel Figueroa, Juan Diego Fito, Alex Folch, Enric Garcia, Miguel Angel Garcia, Pedro Garcia, Fernando Gomez-Juarez, Humbert Gonzalo, Joaquin Grana, Enrique Gutierrez, Miguel Heras, Jose Lopez Jara, Miguel, Angel Lasiera, Mercedes Lopez, Mikel Lopez, Adolfo Lopez de Arregui, Raul Lopezosa, Eloy Lorente, Jose Maria Lorente, Matias Marce, Angel Marina, Jordi Mata, Jose Martinez, Ruben, de Miguel, Mark Mistiaen, Jorge Mons, Alberto Moyano, Javier Nacarino, Mikel Ochoa de Retana, Jose Luis Ordonez, Mauricio Ordonez, Mike Owens, Federico Pacheco, Carlos Palacios, Jordi Parera, Gerardo Peinador, Luis Perez, Oscar Perez, Rafael Perez, Xabier Perez, German Peris, Fernando Pozas, Rafa Pujol, Xaime Recio, Julien Rodriguez, Yago Rodriguez, Javier Roman, Luis, Sacristan, Aintzane Sanchez, Alejandro Sanchez, Antoni Sanchez, Ivan Sanchez, Maialen Sanchez, Patxo Sans, Gonzalo Santacruz, Miguel Santacruz, Pedro Enrique Santamaria, David Sanz, Igor Sanz, Sten Svensson, Marcos Tejado, David Tejero, Nacho Torres, Javier Vilarroig and Larz Welo.

**Cyberboard Module:** Fernando Gomez-Juarez, Miguel Angel Lasiera, Alberto Moyano and Rafa Pujol.

**Vassal Module:** Gonzalo Santacruz.

**Rulebook Correction:** Andrew Maly and Mike Owens.

**Proofreader:** Wendell Albright.

**Thanks to:** David Barderas (El Viejo Tercio, Alcorcon), Diego Garcia (Grupo Hal), Pere Cerdan (Alpha Ares, Barcelona), David Tejero (Crisol Ludico, Burgos), Rafael Vallejo (A.J.C. Ciudad Blanca, Santander), Santiago Penco (Antebellum, Almeria) and Club Dragon (Madrid). Thanks also to Antonio Benitez-Donoso, for his support on BoardGameGeek.

Special thanks to Ted Raicer, because *Crusade and Revolution's* rules are based on his excellent game *Paths of Glory*.

My most sincere gratitude to Compass Games, for trusting in this project; to Kevin Bernatz, the best developer I could have ever wished for this game; and to Niko Eskubi, for his patience and sensational artwork.

Dedicated to my grandfather David and my grandmother Juana, who lived the Spanish Civil War from opposed sides. They told me their memories of those terrible years, and they always preferred to remember the least unpleasant events, without ever showing any hate or resentment.

My memory of Aintzane Sanchez, who left us one morning in November 2007, and who also contributed to making this game possible.

Imma, thanks for supporting me and for being as you are.

アクション・フェイズ [Action Phase]: 6.0.B, 7.0	北部戦線 (許可ユニット) [Northern Front (Units allowed)]: 16.4.3
アクション・ラウンド [Action Rounds]: 6.0.B, 7.1	北部ゾーン [Northern Zone]: 3.0, 17.1
自動的オペレーション [Automatic Operation]: 7.1.3	オペレーション [Operations]: 8.2
活性化 [Activate]: 3.0, 8.2, 10.1.1, 11.1.1	非補給下 [Out of Supply]: 3.0, 6.0.C, 11.3.3, 13.4.2
前進 [Advance]: 11.2.11, 11.5	非補給下の影響 [Out of Supply Effects]: 13.3
弾薬欠乏 [Ammunition Shortage]: 17.1	オビエド [Oviedo]: 16.2.5
装甲 [Armor]: 11.2.5, 11.3.4, 11.3.6, 11.3.7, 12.1.8, 12.1.10, 16.6	永久除去 (ユニットの) [Permanent elimination (of Units)]: 6.0.C.2, 11.3.3, 11.3.5, 11.4.4, 13.3.4, 13.3.5
アフリカ駐屯軍 [Army of Africa]: 11.3.4, 11.3.6, 11.3.7, 14.1.6, 17.2.2, 17.6	プラン「P」 [Plan “P”]: 8.5.6
アスタリスク (カード・タイトル上) [Asterisk (on a Card's title)]: 3.0, 8.5.1.3	陣地 [Position]: 10.2
アストゥリアス師団規模ユニット [Asturias Division-sized Units]: 13.1.5	陣地 (構築DRM) [Position (construction DRM)]: 10.2.2
攻撃マーカー [Attack Marker]: 8.2, 10.1.11, 11.1.1	陣地 (除去) [Position (elimination)]: 10.2.7
攻撃側 [Attacker]: 11.1.2	陣地 (任意撤去) [Position (voluntary removal)]: 6.0.F.1, 10.2.10
損耗 [Attrition]: 6.0.C, 13.1.5	前提要件 (イベントのプレイ) [Prerequisites (for playing Events)]: 8.5.1.2
自動的勝利 [Automatic Victory]: 5.2, 6.0.D.2	県都 [Province Capital]: 3.0, 16.3.3
バレアレス諸島 [Balearic Islands]: 3.0, 8.5.2.4, 8.5.4, 10.1.4, 10.1.8, 12.1.8, 12.1.10,	鉄道線と初期の混乱 [Railroad Lines and Initial Disorder]: 17.2
橋頭堡 [Beach Head]: 8.5.4, 8.5.6, 11.4.3	地方ユニット [Regional Units]: 3.0, 12.1.8, 13.4.3.1, 16.4
ビルバオ [Bilbao]: 10.2.3, 14.2.5	増援 [Reinforcements]: 8.5.2, 17.5.3
国境 (フランスとポルトガル) [Borders (with France and Portugal)]: 13.4	師団規模ユニットの撤去 [Removal of Division-sized Units]: 8.5.2.5
カタルーニャ [Catalonian] MIL: 8.5.4.2, 12.1.8, 17.4.3	補充ポイント (RPs) [Replacement Points (RP's)]: 3.0, 6.0.E, 8.4, 14.0, 17.6.5
沿岸スペース [Coastal Spaces]: 3.0, 8.5.6.1	補充 (領域の支配) [Replacements (Control of Territory)]: 14.2
コラム・シフト (左又は右) [Column shift (left or right)]: 3.0, 11.2.6	補充 (孤立スペース) [Replacements (Isolated Spaces)]: 16.2.4.2
戦闘 [Combat]: 11.0	補充 (攻囲) [Replacements (Sieges)]: 16.1.8
戦闘カード (CC) [Combat Cards (CC)]: 3.0, 8.5.3, 11.2.4, 11.2.9	RPマーカー [RP Markers]: 8.4.1, 14.1.1
戦闘値 [Combat Factor]: 2.2.1, 3.0, 11.1.5, 11.1.6, 11.2.3	共和国の軍国化 [Republican Militarization]: 15.2.3
戦闘損失 [Combat Losses]: 11.2.8, 11.3	共和国軍の士気 [Republican Morale]: 3.0, 6.0.A.3, 8.5.1.4, 16.1.7, 16.3
戦闘解決 [Combat Resolution]: 11.2	予備ボックス [Reserve Box]: 11.3.5, 14.1.4, 15.2.2.1
戦闘結果 [Combat Result]: 11.2.7	制限 (イベント・プレイの) [Restrictions (on playing Events)]: 8.5.1.2
戦闘戦力 [Combat Strength]: 11.2.3, 11.2.6	退却 [Retreat]: 11.2.10, 11.4
戦闘ユニット [Combat Units]: 2.2.1	拡張退却 [Extended Retreat]: 11.4.5.1
戦闘勝者 [Combat Winner]: 11.2.9	退却 (打消し) [Retreat (cancel)]: 11.4.3
連結 [Connections]: 2.1.2	退却 (制限／条件) [Retreat (restrictions/conditions)]: 11.4.5
(スペースの) 支配 [Control (of spaces)]: 3.0, 6.0.C, 10.1.9, 11.4.8, 13.3.6, 13.4.4	海上ゾーン [Sea Zone]: 3.0, 12.1.7.1, 13.1.4
軍団規模ユニット [Corps-sized Units]: 2.2.1	攻囲 [Siege]: 3.0, 6.0.F.3, 16.1, 17.5.2
軍団規模ユニット (初期配置) [Corps-sized Units (Initial Deployment)]: 15.2	マドリード山脈 [Sierra of Madrid]: 11.2.6
軍団規模ユニット (増援) [Corps-sized Units (Reinforcements)]: 8.5.2.4	スペース [Spaces]: 2.1.1
防御側 [Defender]: 11.1.2	スタッキング [Stacking]: 9.0
サイの目修正 (DRM) [Die Roll Modifier (DRM)]: 3.0, 11.2.5, 17.5.1	ステップ (ユニットの) [Step (of Units)]: 2.2.1, 11.3.2, 11.4.3
捨て札パイル [Discard Pile]: 3.0, 8.1.4, 15.1	ジブラルタル海峡 (海上封鎖) [Strait of Gibraltar (Naval Blockade)]: 13.1.4.3, 16.7
師団規模ユニット [Division-sized Units]: 2.2.1	戦略反撃 [Strategic Counterattacks]: 8.5.5, 8.5.6
師団規模ユニット (増援) [Division-sized Units (Reinforcements)]: 8.5.2.3	戦略再配備 (SR) [Strategic Redeployment (SR)]: 3.0, 8.3, 12.0
師団規模ユニット (軍団規模ユニットの置き換え) [Division-sized Units (replacing Corps-sized Units)]: 11.3.2, 11.3.3, 11.3.5, 13.3.5	特別戦略再配備 [Special Strategic Redeployment]: 13.4.3
引きカード [Draw Cards]: 6.0.A.3, 15.1.2	陸上によるSR [SR by Land]: 12.1.6
引きパイル [Draw Pile]: 3.0, 8.1.4, 15.1	海上によるSR [SR by Sea]: 12.1.7
乗船 (共和国軍部隊の) [Embarking (of REP Forces)]: 8.5.4.5	予備ボックスからのSR [SR from the Reserve Box]: 12.1.8
ターンの終了 [End of Turn]: 6.0.F, 16.1.6, 16.2.6	予備ボックスへのSR [SR to the Reserve Box]: 12.1.9
イベント [Events]: 8.5	戦略再配備 (ターン1と2の罰則) [Strategic Redeployment (penalty on Turns 1 and 2)]: 8.3.2, 17.2
射撃コラム [Fire Column]: 11.2.6	戦略再配備 (ジブラルタル海峡) [Strategic Redeployment (Strait of Gibraltar)]: 16.7
射撃表 [Fire Table]: 11.2.6	戦略カード [Strategy Cards]: 8.0
第1ターン (特別ルール) [First Turn (Special Rules)]: 17.5	戦略カードのグループ [Strategy Cards groups]: 8.1.2
ゲーム・マーカー [Game Markers]: 2.2.2	戦略カードの手札規模 [Strategy Cards Hand size]: 6.0.A.3
反乱ユニット [Insurrection Unit]: 14.1.6	戦略カード (任意捨て札) [Strategy Cards (voluntary discard)]: 6.0.A.2, 8.5.3.6
孤立スペース [Isolated Spaces]: 3.0, 6.0.F.2, 16.2	補給 [Supply]: 13.0
連携の欠如 (共和国軍民兵) [Lack of Coordination (REP Militias)]: 17.4	非補給下 (OOS) [Out of Supply (OOS)]: 3.0, 13.3
損失値 [Loss Factor]: 3.0, 2.2.1, 11.3.2	補給線 [Supply Line]: 3.0, 13.1
損失ナンバー [Loss Number]: 3.0, 11.2.7, 11.2.9, 11.3.1, 11.3.4, 11.4.2	補給源 [Supply Sources]: 3.0, 13.1.2, 13.2
損失優先順位 [Loss Priority Order]: 11.3.7, 16.6.2, 17.6.5	塹壕 [Trench]: 10.2, 11.4.3
主要都市 [Main City]: 3.0, 5.2.3, 14.2	塹壕 (構築) [Trench (construction DRM)]: 10.2.4
マドリード: 優先目標 [Madrid: Priority Objective]: 17.3	塹壕 (除去) [Trench (elimination)]: 10.2.7
マヨルカ (上陸) [Mallorca (Disembark in)]: 8.5.4	塹壕 (特別マーカー) [Trench (special markers)]: 10.2.9
MIL NAV (例外) [MIL NAV (exceptions)]: 16.2.4.3	塹壕 (任意撤去) [Trench (voluntary removal)]: 6.0.F.1, 10.2.11
山岳 [Mountain]: 11.4.3, 16.5.2, 16.5.3	勝利ポイント [Victory Points]: 3.0, 5.1, 8.5.1.4, 16.1.7, 16.2.5
移動マーカー [Move Marker]: 8.2, 10.1.1	VPスペース [VP Space]: 3.0, 16.3.3
移動 [Movement]: 10.0	戦争段階 [War Phase]: 3.0, 6.0.A.1, 15.1
移動値 [Movement Factor]: 3.0, 2.2.1, 10.1.3, 10.1.6	戦争状態 [War Status]: 6.0.D
移動制限 [Movement Limits]: 10.1.11, 10.1.12	勝者 [Winter]: 11.2.5, 16.5
北部戦線 [Northern Front]: 3.0, 16.4	冬季 (厳冬) [Winter (Severe)]: 16.5.3
北部戦線 (非連携) [Northern Front (Non-Cooperation)]: 16.4.2	



## 情報マーカーの初期配置 [INITIAL INFORMATION MARKER DEPLOYMENT]

総合記録欄 [General Record Track] (GRT) :

VP マーカー : GRT の 7 ボックス内。

RM マーカー : GRT の 26 ボックス内。

RP マーカー : NAT と REP RP マーカーは、GRT の「0」ボックス上。

攻囲と孤立スペース [Siege and Isolated Space] マーカー :

・シマンカス [Simancas] 攻囲マーカー : ヒホン [Gijon] スペース内と GRT 上の 1 ボックス

・サンタ・マリア・カベサ [Sta.M Cabeza] 攻囲マーカー : プリエト・デ・バルデレピソ [Pto.de Valderrepiso] スペース内と GRT の 2 ボックス

・アルカサル [Alcazar] 攻囲マーカー : Toledo 内 と GRT の 3 ボックス

・孤立スペース [Isolated Space] マーカー : オビエド [Obiedo] とグラナダ [Granada] スペース内

他のマーカー [Other Marker] :

ゲーム・ターン・マーカー : ターン記録欄のターン 1 ボックス内。

弾薬欠乏 [Ammo Shotgun] マーカー : 「活性化」 [“Active”] 面を向ける。

マドリード優先目標 [Madrid Priority Objective] マーカー : 記録欄上の「-3 VP」ボックス上。

海峡の支配 [Control of the Strait] : 「共和国軍の支配」 [“Republican Control”] 面を向ける。

共和国政府 [Government of the Public] : マップ上に記載されたごとく「ホセ・ヒラル」 [“Jose Giral”] (マーカーなし)。

反乱軍の統率 [Nationalist Command] : 「非単一統率」 [“No Single Command”] 面を向ける。

## ユニットの初期配置 [INITIAL DEPLOYMENT]

注釈 :

- ・( ) 内のユニットは減少戦力
- ・全てのユニットは師団規模ユニット
- ・全ての REP ユニットの、特記されていない限り非地方ユニット。

## 反乱軍 [NATIONALISTS]

予備ボックス : 1 MIL

### 北部戦線 [Northern Front]

Villalba: 1 INF  
Lugo: 1 INF  
Ponferrada: 1 INF  
Leon: 1 INF  
Oviedo: 1 INF, 1 MIL, Trench  
Dobro: 1 INF  
Pancorbo: 1 MIL  
Vitoria: 1 CAV  
Beasain: 2 MIL-NAV  
Pto. Velate: 1 MIL-NAV  
Pamplona: (1 MIL-NAV)

### アラゴン [Aragon]

Jaca: (1 INF)  
Huesca: 1 INF  
Lecina: 1 POL  
Zaragoza: 1 INF  
Belchite: 1 MIL  
Vivel del Rio: 1 CAV  
Teruel: 1 POL

Albarracin: 1 MIL  
Molina: 1 CAV

### カスティリャ／エストレマドゥラ

[Castile / Extremadura]  
Ariza: 1 MIL  
Almazan: (1 INF)  
Aranda de Duero: 1 INF  
Valladolid: 1 POL  
Segovia: 1 INF  
Arevalo: 1 CAV  
Avila: 1 MIL  
Bejar: 1 CAV  
Navalmoral de la Mata: 1 INF  
Trujillo: 1 CAV  
Caceres: 1 INF

### 南部戦線 [Southern Front]

Huelva: 1 CAV  
Sevilla: 1 INF, 1 POL, 1 AFR  
Ecija: 1 MIL  
Cordoba: 1 POL  
Priego de Cordoba: 1 INF  
Granada: 1 INF, (1 MIL)  
Arcos de la Frontera: (1 INF)

### バレアレス諸島 [Balearic Islands]

Mallorca: 1 INF

### アフリカ駐屯軍ディスプレイ [Army of Africa Display]

Army of Africa: 6 AFR

## 共和国軍 [REPUBLICANS]

予備ボックス : 2 MIL

### 北部戦線 [Northern Front]

Castropol: 1 MIL-AST  
Pto. de la Espina: 2 MIL-AST  
Pto. de Leitariegos: 1 MIL-AST  
Pto. de Pajares: 2 MIL-AST  
Gijon: 2 MIL-AST  
Pto. del Escudo: 2 MIL-SAN  
Santander: 1 MIL-SAN  
Orduna: 1 MIL-BAS  
Bilbao: 1 POL  
Durango: 2 MIL-BAS  
San Sebastian: 2 MIL-BAS

### アラゴン／カタルーニャ [Aragon / Catalonia]

Boltana: (1 MIL-ERC)  
Barbastro: 1 MIL-POUM  
Sarinena: 1 MIL-PSUC, 1 MIL-CNT  
Candasnos: 1 MIL-CNT  
Caspe: 2 MIL-CNT  
Barcelona: 1 POL

### バレンシア／ラ・マンチャ [Valencia / La Mancha]

Morella: 1 MIL  
Rubielos de Mora: 1 MIL  
Barracas: 1 POL  
Valencia: 1 RPA  
Ademuz: 1 MIL  
Cuenca: 1 MIL

### カスティリャ／エストレマドゥラ

[Castile / Extremadura]  
Brihuega: 1 MIL  
Somosierra: 1 MIL

Guadarrama: 1 MIL  
Madrid: 2 POL  
Cebreros: 1 MIL  
Toledo: 1 MIL  
Talavera de la Reina: 1 MIL, 1 POL  
Guadalupe: 1 MIL  
Don Benito: 1 MIL  
Merida: 1 POL  
Badajoz: (1 RPA), 1 MIL, 陣地

### 南部戦線 [Southern Front]

Riotinto: 1 MIL  
Santa Olalla: 1 MIL  
Penarroya: 1 MIL  
Montoro: 1 RPA  
Jaen: 1 POL  
Guadix: 1 MIL  
Ronda: 1 MIL  
Antequera: 1 MIL  
Loja: 1 MIL  
Velez Malaga: 1 MIL  
Motril: 1 MIL

## 勝利条件 [Victory Conditions]

キャンペーン・シナリオは、以下により終了します。:

- ・どちらかのプレイヤーが自動的勝利を達成したターン (5.2を参照)、さもなければ、
- ・ターン 18 (1939 年 3 月 / 4 月) の終了時。

もしも自動的勝利が達成されていなければ、キャンペーン・シナリオ終了時の VP 数で勝利陣営 (もしもあれば) を判定します。:

- ・反乱軍の勝利: 20VP 以上
- ・引き分け: 19VP
- ・共和国軍の勝利: 18VP 以下

## 戦略カード・デッキ [STRATEGY CARD DECKS]

除去カード : なし

初期反乱軍デッキと手札 :

反乱軍プレイヤーは、「空の架け橋」 [Air Bridge] 戦略カード (N1) を手札に持ってゲームを開始します。反乱軍の引きパイルを組むため、残っている 17 枚の反乱軍「戦隊の戦争段階」カードをリシャッフルします。

反乱軍プレイヤーは、初期手札を組むため、自軍引きパイルから 6 枚のカードを無作為に引きます (「空の架け橋」カードを含めて合計 7 枚のカード)。

注釈 : 反乱軍プレイヤーは、「空の架け橋」戦略カードを第 1 ターンの第 1 アクション・ラウンドに、イヴェントとしてプレイしなければなりません。

初期共和国軍デッキと手札 :

共和国軍プレイヤーは、共和国軍の引きパイルを組むため、18 枚の戦隊の共和国軍「戦争段階」カードをシャッフルします。共和国軍プレイヤーは、初期手札を組むため、自軍引きパイルから無作為に 7 枚のカードを引きます。

**A. 戦略カード引きフェイズ**

**A.1 チェック戦争フェイズ (15.1 を参照)** ターン6：動員段階カードを加える。ターン12：軍の戦争段階カードを加える。もしも新たなカードが加えられると、新たな引きパイルを形成するため、引きパイルと捨て札パイルは一緒にシャッフルされる。

**A.2 捨て札** 任意に戦闘カード(CC)ののみを捨て札する。

**A.3 カードを引く** 手札枚数=7;  $RM \leq 15 + 1$  反乱軍カード;  $RM \leq 10 - 1$  共和国軍カード。カラになるまで引きパイルからカードを引き、次に捨て札パイルをシャッフルし、手札枚数に到達するまで継続する。

**B. アクション・フェイズ**

**B.1 アクション・ラウンド**：反乱軍が先行で、各プレイヤーが6アクション・ラウンドを持つまで交互に行う。各6番目のアクション後に損耗(下記のC)。

**B.2 アクション**：手番プレイヤーは、プレイするために戦略カードを選ぶか、又は自動的オペレーション(1 OPS)を行う。**例外**：反乱軍は、ターン1の最初のアクションとして「空の架け橋」をプレイしなければならない。

**B.3 アクションの解決**：手番プレイヤーは、もしも自動的オペレーションを行っていると1 OPSを使用し、さもなければどのカードを解決するかを選択する。—OPS、RP、SR、イベント【もしも条件と前提要件を満たしていたら】

\*RP (14.0 を参照)：総合記録欄(GRT)上の合計にRP値を加える(枢軸軍とソヴィエト軍のRPは、適切なイベントがプレイされた後にのみ加える)。連続プレイは不可。

\*SR (12.0 を参照)：ターン1と2は合計SRから-1で、ターン1と2はSR毎に1 AFRのみ(17.2 を参照)。コスト=軍団規模ユニット毎に3ポイント。他については1ポイント。OOSユニットは不可、軍団規模又は装甲は、バレーレス諸島へは不可。連続プレイは不可。海上によるSRは港湾から港湾(のみ)だが、軍団規模ユニットは不可。予備から友軍が占める補給下ヘクスへSR(装甲、港湾へは除く)。予備からいずれかの補給下ヘクスへSR、ただし軍団規模ユニットは不可。

\*イベント：カード・テキストに従う。いくつかは、OPS又は活性化を認める。活性化は、冬季にはOPSとしてカウントされ得る(16.5.3 を参照)。

・OPS：OPS値に相当する数のスペースを、移動又は戦闘のために(両方ではない)活性化できる。OOSのスペースは、(友軍国境線に連結していない限り)活性化できず、その場合は移動のみ可能。孤立スペースは、移動のみ可能。

**移動 (10.0 を参照)**：全ての移動は、最初に実行される。スタッキングは、全移動が終了した後にのみ適用する。友軍国境線に連結したOOSユニットと孤立スペース内のユニットは、移動についてのみ活性化できる(ただし、攻撃は不可)。戦闘のために活性化されたスペース内では終了できず(10.1.11 を参照)、又はアクション・ラウンド開始時に敵支配下だった2スペースを越えて通過できない(10.1.12 を参照)。スペース毎に移動しなかった1ユニットは、陣地又は塹壕の構築を試みることができる(10.2 を参照)。すでに陣地を含んでいるスペース内の軍団規模ユニットのみが塹壕を構築できる。

**戦闘 (11.0 を参照)**：決して強制ではない。スペースは、戦闘のために活性化されていなければならない。活性化スペース内のいくつかのユニットが攻撃し、他は攻撃しないことができる。ゼロ(0)CFのユニットは、単独又は他のユニットと共に攻撃できる。戦闘のシークエンスは、以下のとおり：

1. 戦闘の指定 (11.2.2 を参照)。
2. 戦闘戦力の決定 (11.2.3 を参照)
3. 戦闘カード(CC)のプレイ (11.2.4 を参照)  
攻撃側が最初、次に防御側
4. サイの目修正(DRM)の決定 (11.2.5 を参照)。  
CC、冬季(16.5 を参照)、平地地形に対する装甲オプション(16.6 を参照)から、又はターン1の共和国軍民兵(17.5 を参照)。
5. 射撃コラムの決定 (11.2.6 を参照)。  
・1+軍団規模ユニット=軍団規模ユニット射撃表、さもなければ師団規模ユニット射撃表。地形効果チャート(TEC)に使い、コラムシフトを適用する。CC又はマドリッド山脈(11.2.6 を参照)。
6. 結果の判定 (11.2.7 を参照)  
各プレイヤーは一致する射撃表上の射撃コラムでサイを1つ振る。  
結果-損失ナンバー(LN)
7. 損失の適用 (11.2.8 と 11.3 を参照)  
完全にLNを満たすか、又は可能な限りLNに近づくよう試みなければならないが、(決して!)LNを超過できない。いくつかのユニットは、**攻撃**でのみ最初の損失要件を持つ(AFRとDRMを使用している装甲)。除去された軍団規模ユニットは、予備からの師団規模ユニットによって置き換えられ【どれにするかの制限を受けて】、さも

なければ**永久に除去**される。

8. 戦闘勝者の決定 (11.2.9 を参照)

LNがより高い陣営が勝者。同点では勝者なし(両者敗北)。

9. 防御側の退却 (11.2.10 と 11.4 を参照)

・もしも攻撃側が勝者であると、LNの差が2+でない限り、退却距離は1。山岳、塹壕、橋頭堡の一定地形内では、追加の1ステップ損失を行うことで退却を無効にできる。

・退却の順番は、以下のとおり：

- 1) もしも可能であれば、友軍支配下のスペース内へ。
- 2) もしも可能であれば、スタッキングを守る。不可能であれば、拡張退却を使用して友軍支配下スペース内へ(11.4.5.1 を参照)。
- 3) 選択肢がないか又は友軍支配下スペースへの退却が除去を引き起こす場合には、カラの敵支配下スペース内へ(11.4.4 を参照)。
- 4) もしも可能であれば、補給下で退却を終了しなければならない。

10. 攻撃側の前進 (11.2.11 と 11.5)

- ・もしも防御側が完全に除去されるか、又は1スペース退却したら、防御側がカラにしたスペース内へのみ(11.5.1 を参照)。
- ・山岳スペースに進入していたら、停止しなければならない。
- ・2スペース退却するユニットを「追尾」できる(11.5.3 を参照)。
- ・2スペース退却することに失敗してユニットが永久除去されても、2スペースの前進が認められる(11.5.7 を参照)。

**C. 損耗フェイズ**

**C.1 反乱軍損耗セグメント**：6番目の反乱軍ラウンド直後。友軍補給源へ連結したスペースの道筋をたどれない全ユニットは、**永久に除去**される。このような道筋をたどれない反乱軍支配下のスペースは、共和国軍の支配下になる(13.3.6 を参照)。**両方の例外**：ターン1～5中の孤立スペース(16.2 を参照)とポルトガル国境戦へ連結したスペース(13.4 を参照)。

**C.2 共和国軍損耗セグメント**：6番目の共和国軍ラウンド直後。友軍補給源へ連結したスペースの道筋をたどれない全ユニットは、**永久に除去**される(**例外**：アストゥリアス内のMILASTユニット、13.1.5 を参照)。このような道筋をたどれない共和国軍支配下のスペースは、反乱軍の支配下になる(13.3.6 を参照)。**両方の例外**：フランス国境戦へ連結したスペース(13.4 を参照)。

**D. 戦争状態フェイズ**

**D.1 勝利ポイント(VP) & 共和国軍の士気(RM)更新**：表をチェックしていかなる変更も適用する。

- ・ターン5(マドリッド?、ラルゴ・カバリェロ?、フランコ?)
- ・冬季ターン(飢餓?)

**D.2 勝利チェック**：自動的勝利についてチェックする(5.2 を参照)。

**E. 補充フェイズ**

**一般的要件**：

- ・限度：OOSユニット又は出自地方の外部にあって地方へ補給をたどれない地方軍団規模ユニットはRP不可(14.1.7 を参照)。
- ・コスト：軍団規模ステップ毎に1、他のステップ毎に1/2。
- ・4つ(共和国)又は2つ(反乱軍)を下回る各主要都市毎に-1RP(14.2 を参照)【例外：ビルバオ[Bilbao]、もしもサンタンデル[Santander]とヒホン[Gijón]も支配下でない場合】。

**E.1 共和国セグメント**：共和国軍プレイヤーは、GRT上にマークされたRPを消費する。消費されない分は失われる。

- ・どのユニットか：SOVRP=どれでも、REP RP=INT又はT-26は不可。

**E.2 反乱軍セグメント**：反乱軍プレイヤーは、GRT上にマークされたRPを消費する。消費されない分は失われる。

- ・どのユニットか：AXIS RP=孤立スペース又は攻囲内を除くどれでも、NAT RP=ITA又は装甲ユニットは不可。
- ・攻囲=元の抵抗値まで、ターン毎に最大1NAT RT。：トレド[Toledo]=3、サンタ・マリア[Santa Maria]=2、シマンカス[Simanzas]=不可(16.1.8 を参照)。
- ・孤立スペース=孤立スペース/そこへの連結毎に最大1NAT RP、全てのコストは2倍。

**F. ターンの終了**

**F.1 任意撤去**：両プレイヤーは、任意に自軍陣地又は塹壕マーカーを撤去できる。

**F.2 孤立スペース**：ターン5：孤立スペースをOOSスペースに変換する。

**F.3 攻囲**：ターン6+：各攻囲が総合記録欄上で存在できる強襲撃の数から1を差し引く(16.1 を参照)。

**F.4 シナリオの終了?**：yesであると終了し、さもなければゲーム・ターン・マーカーを進める。